

厚生労働科学研究費補助金
健康・安全危機管理対策総合研究事業

エステティックの施術による身体への危害についての原因
究明及び衛生管理に関する研究

平成27年度～平成29年度 総合研究報告書

研究代表者 関 東 裕 美

平成30年(2018)3月

目次

I 総合研究報告	3
エステティックの施術による身体への危害についての原因究明及び衛生管理に関する研究 関東裕美 資料	
1.エステティックサロンにおける健康被害実態調査アンケート票	25
2.衛生管理状況に関するアンケート調査 調査票	26
3.「エステティック」カテゴリ 危害相談 集計結果	29
3.エステティックサロンにおける健康被害実態調査結果	30
4.慢性疾患患者に対するアンケート調査結果(アトピー性皮膚炎患者)	33
5.慢性疾患患者に対するアンケート調査結果(糖尿病患者)	36
6.エステティック営業施設利用者が持つアレルギー疾患等に関する調査結果(営業施設対象)	38
7.エステティック営業施設利用者が持つアレルギー疾患等に関する調査結果(利用者対象)	39
8.フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験 3年間まとめ	42
9.ヒートマット皮膚安全性試験結果	45
10.RF 機器皮膚安全性試験結果	46
11.エステティック営業施設 使用機器調査結果	49
12.超音波機器皮膚安全性試験	50
13.エステティック機器の安全性確保	54
14.エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート(例)	56
15.利用者背景の聞き取り	58
16.エステティックによる健康被害にあわないために	65
17.衛生管理状況に関するアンケート調査結果	66
18.フェイシャル施術用スチーム保管庫とスチームの汚染状況について	71
19.フェイシャル施術用スチーム保管庫とスチームの汚染状況調査結果	72
20.施術者の手指細菌調査(平成27年度)	73
21.被験者の顔面皮膚の細菌調査(平成27年度)	75
22.施術者の手指細菌調査(平成28年度)	77
23.被験者の顔面皮膚の細菌検査(平成28年度)	79
24.施術者の手指細菌調査(平成29年度)	81
25.被験者の顔面皮膚の細菌検査(平成29年度)	83
26.ヒートマットで施術した際の被験者から機器への細菌類の伝播	84
27.エステティシャン 看護師 手洗い比較試験結果	86
28.手洗い方法啓発ツールに関するアンケート調査結果	88
29.手洗いに関するアンケート調査結果(講師・学生比較)	93
30.学生及び講師の手洗い実験結果	94
31.衛生管理は手洗いから	96
32.エステティック養成施設講師対象 衛生管理教育に関するアンケート調査結果	98
33.エステティック営業施設 衛生管理のポイント	99
II 研究成果の刊行に関する一覧表	103

エステティックの施術による身体への危害についての原因究明及び衛生管理に関する研究
研究班

研究代表者

関東 裕美 公益財団法人日本エステティック研究財団理事長

研究分担者

舘田 一博 東邦大学・医学部微生物・感染症学講座・教授

古川 福実 和歌山県立医科大学・法医学講座博士・研究員

山本 有紀 和歌山県立医科大学・医学部皮膚科学教室・准教授

吉住あゆみ 群馬パース大学・保健科学部検査技術学科・講師

鷺崎久美子 東邦大学・医学部皮膚科学講座・非常勤講師

研究協力者

佐々木秀行 和歌山県立医科大学附属紀北分院

友木依里子 株式会社アイビー化粧品開発研究

野村 征司 マルホ株式会社 京都R&Dセンター

I 総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
総合研究報告書

エステティックサービスにおける健康被害の実態把握及び原因の究明
及び衛生管理に関する研究

研究代表者 関東 裕美 公益財団法人日本エステティック研究財団理事長

研究要旨

エステティックサービスによる健康被害は、毎年約 600 件独立行政法人国民生活センターに報告されている。その内訳は、皮膚障害と熱傷が主で、熱傷は機器によるものが多いようである。一方皮膚障害は、化粧品や手技による刺激、機器による刺激、利用者に脆弱皮膚のリスク要因があったなど原因は多岐にわたる。本研究では、エステティックの施術による皮膚への安全性の確認、エステティック施術に使用される機器類の取り扱いに関する注意事項、営業施設において利用者がリスク要因を持っているかどうかの確認を徹底するための方策などを検討し、啓発資料を作成、配布した。また、エステティック利用者を対象に健康被害防止のための考え方を作成し公表した。施設の衛生管理の徹底については、エステティック施術の際オイルなどをふき取る目的で使用されるスチームタオルの細菌数調査、手洗い前後、施術前後の手指細菌調査、施術による細菌類の伝播などの調査を行い、昨年度までの研究結果も加味して、エステティック営業施設対象「衛生管理は手洗いから」「衛生管理のポイント」などの啓発資料を作成、配布した。

研究分担者

館田 一博 東邦大学・医学部微生物・感染症学講座・教授
古川 福実 和歌山県立医科大学・法医学講座博士・研究員
山本 有紀 和歌山県立医科大学・医学部皮膚科学教室・准教授
吉住あゆみ 群馬パース大学・保健科学部検査技術学科・講師
鷺崎久美子 東邦大学・医学部皮膚科学講座・非常勤講師

A 研究目的

エステティックサービスの内容や衛生管理の状況、さらにエステティックサービスに関係する健康被害の実態調査、原因の究明を行い、健康被害を予防する対策や衛生管理の充実のための方法を提案し、啓発活動を通じて消費者、エステティック施設、技術者が情報を共有することにより健康被害防止に寄与することである。

B 研究方法

I エステティックサービスにおける健康被害の実態把握及び原因の究明

1. エステティックの健康被害に関する情報収集

(1)皮膚科医師に、エステティックによる健康被害患者の情報提供の依頼

関東関西の皮膚科医師20名に、エステティックによる健康被害の患者が受診した際、医学的見地から原因を特定するよう依頼した。

(2)独立行政法人国民生活センターの健康被害情報の収集

独立行政法人国民生活センターでは、日本全国の消費者相談窓口に寄せられる消費者相談を「消費生活相談データベース（PIONEER）」で集約している。平成26年度～平成28年度、PIONEERに寄せられた「エステティック」に関する健康被害の詳細情報の公開を受け、集計した。また、過去5年間の健康被害件数の推移について検討を行った。

(3)エステティックサロンにおける健康被害実態調査

- 1)対象 日本美容皮膚科学会会員医師
- 2)試験方法 郵送調査
- 3)質問内容(P25)
- 4)調査時期

平成28年10月～11月

2. エステティック利用者背景調査

(1)慢性疾患患者に対するアンケート調査

エステティックは本来健康な人を対象に行われるものであるが、治療が長期にわた

る慢性疾患患者が治療のストレスや疾患由来の乾燥等の解消などQOL向上のためエステティックを希望することがある。このように健康人より健康被害のリスクが高い被施術者について、実態を把握したうえで安全にエステティックが施術される対策を立案することを目的として今年度は、アトピー性皮膚炎患者及び糖尿病患者を対象にアンケート調査を行った。

●アトピー性皮膚炎患者アンケート調査

- 1)対象：アトピー性皮膚炎と診断され通院中の患者
- 2)試験方法：医療機関の外来待合室において無記名のアンケート用紙を配布回収した。

3)質問内容

- ・性別
- ・皮膚の重症度自己評価とその理由
- ・エステティック施術の経験の有無
- ・エステティック施術後のトラブルなど

●糖尿病患者アンケート調査

- 1)対象：医療機関において糖尿病と診断された20歳以上の方
- 2)試験方法：医療機関の外来待合室及び患者対象イベントにおいて無記名のアンケート用紙を配布回収した。

3)質問内容

- ・年齢、性別、糖尿病歴
- ・病気の程度、皮膚トラブルの有無
- ・エステティック施術の有無
- ・エステティック施術後のトラブルなど

(2)エステティック営業施設利用者が持つ疾患やアレルギー等に関する調査

施設及び利用者からアレルギーなどの身

体的背景についてのアンケート調査を行った。

●営業施設対象アンケート調査

1)対象 エステティック営業施設

2)試験方法 郵送調査

3)質問内容(P26～P28)

「衛生管理状況に関するアンケート調査」に利用者背景についての設問を入れた。

4)調査時期 平成28年11月

●利用者対象アンケート調査

1)対象 エステティック利用者

2)試験方法

エステティック営業施設の利用者のうち本調査の趣旨を理解し自由意思による協力の同意を得られた方に調査票への記入を依頼した。

3)調査時期

平成28年11月～平成29年1月

3. 機器及び手技、化粧品等の安全性調査

(1)フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験

平成27年度

1)実施時期 平成27年12月4日

平成27年12月18日

2)実施場所 一般社団法人日本エステティック協会研修室

3)被験者 10名(20歳代5名 50歳代5名)

平成28年度

1)実施時期 平成28年10月19日

平成28年11月9日

平成28年12月14日

2)実施場所 東邦大学医療センター大森病院

3)被験者 12名(平均年齢44.9歳)

平成29年度

1)実施時期 平成29年10月25日

平成29年11月22日

平成29年12月13日

2)実施場所 東邦大学医療センター大森病院

3)被験者 健康成人女性12名

(平均年齢31.6歳)

平成27年度～平成29年度共通

4)対象施術 フェイシャルスキンケア

5)測定項目

写真撮影

角層水分量(Corneometer®CM825)

水分蒸散量(Tewameter®TM300)

真皮水分量(Moisture Meter D)

6)試験方法

エステティック業界の民間資格を有する技術者が、フェイシャルエステティックベーシック施術を提供した。

①被験者からの同意取得

②担当医師による診察及び写真撮影

③施術前測定

④施術

⑤施術後測定

⑥担当医師による診察及び写真撮影

(2)ヒートマット皮膚安全性試験

1)実施時期 平成27年12月4日

平成27年12月18日

2)実施場所 一般社団法人日本エステティック協会研修室

3)被験者 10名(20歳代5名 50歳代5名)

4)対象施術 ヒートマット(温熱機器)

5)測定項目

温度測定 ふくらはぎ 臀部

心拍数 血圧

6)試験方法

①被験者からの同意取得

- ②担当医師による診察
- ③施術前測定
- ④施術
- ⑤施術中 温度測定
- ⑥施術後測定
- ⑦担当医師による診察

(3) RF 機器皮膚安全性試験

- 1) 実施時期 平成28年11月14日
- 2) 実施場所 和歌山県立医科大学未来医療推進センター人口気候室
- 3) 被験者 5名(平均年齢27.8歳)
- 4) 対象施術 RF 機器 2台
(機器A 機器B 対象部位 大腿部)
- 5) 測定項目
写真撮影
角層水分量(Corneometer®CM825)
水分蒸散量(Tewameter®TM300)
真皮水分量(Moisture Meter D)
温度測定 大腿部(サーモグラフィカメラ)

6) 試験方法

- ①被験者からの同意取得
- ②担当医師による診察 写真撮影
- ③施術前測定
- ④左大腿部クリーム, 右大腿部ジェル塗布(販売業者の指定する専用用品)
- ⑤施術(施術中サーモグラフィカメラによる温度変化の測定)
- ⑥施術後測定
- ⑦担当医師による診察 写真撮影

(4) 営業施設対象使用機器アンケート調査

- 1) 対象 エステティック営業施設
- 2) 試験方法 郵送調査
- 3) 質問内容(P26)
「衛生管理状況に関するアンケート調査」

に施術に使用している機器や機器を導入する際の判断基準等に関する設問を入れた。

4) 調査時期 平成 28 年 11 月

(5) 超音波機器の皮膚に対する影響試験

- 1) 実施時期 平成 29 年 11 月 6 日
- 2) 実施場所 和歌山県立医科大学みらい医療推進センター人工気候室
- 3) 被験者 健常成人女性 6名
(対象部位:腹部)
- 4) 対象機器 3 機種
- 5) 測定項目
写真撮影
角層水分量(Corneometer®CM825)
水分蒸散量(Tewameter®TM300)
表面温度測定(サーモグラフィカメラ)

6) 試験方法

- ①被験者からの同意取得
- ②担当医師による診察 写真撮影
- ③施術前 皮膚状態の測定
- ④腹部にジェル(販売業者の指定する専用用品)を塗布し、正中線の左右それぞれに異なる機器で順番に施術を行う
- ⑤施術中サーモグラフィカメラによる温度変化の測定
- ⑥施術後 皮膚状態の測定
- ⑦担当医師による診察 写真撮影

4 啓発資料

(1) エステティック営業施設で使用される機器類の安全性確保について

これまでの研究において実施した機器類の安全性試験の結果、使用機器アンケート調査結果及び一般社団法人日本エステティック工業会など関係者からのヒアリング結果を踏まえ、エステティック営業施設対象

の啓発資料を作成する。

(2) エステティック利用者背景の聞き取りによる健康被害防止対策について

昨年度の研究で行った「エステティック営業施設利用者が持つアレルギーや疾患等に関する調査」結果及び調査に協力した営業施設のヒアリング結果をもとに検討を行った。

(3) 消費者対象啓発資料について

「慢性疾患患者に対するアンケート調査」「エステティック営業施設利用者が持つ疾患やアレルギー等に関する調査」及び皮膚科医師より収集した健康被害事例、化粧品・機器安全性試験等を活用して検討を行った。

II エステティック施設の衛生管理の徹底

1. 衛生管理に関する調査

(1) 衛生管理状況に関するアンケート調査

- 1) 対象 エステティック営業施設
- 2) 方法 郵送調査
- 3) 質問内容(P26~P28)
- 4) 調査時期 平成28年11月~12月

(2) 施術用スチームタオル保管庫(ホットキャビ)とスチームタオルの汚染状況調査

- 1) 実施時期 平成28年12月14日
- 2) 実施場所 東邦大学医療センター大森病院
- 3) サンプル採取箇所
 - ① 保管庫内扉
 - ② 保温庫内カゴ
 - ③ 保管庫外取手部分
 - ④ 施術用タオル(未使用)
- 4) 保管庫試験方法

① 生理食塩水 1 ml が入った滅菌スピッツに綿棒を湿らせる。

② 各調査箇所をよく①の綿棒でぬぐいとる。

③ ①のスピッツ内の生理食塩水に②でぬぐった綿棒をよく懸濁する。

④ 血液寒天培地に100 μ l ずつ接種し、塗り広げて37°Cで培養する。

⑤ 菌数をカウントする。

5) スチームタオル試験方法

① 生理食塩水 1 ml が入った滅菌スピッツに1 cm²角に切った使用前のスチームタオルを入れ、よく混和する。

② ①を血液寒天培地に100 μ l ずつ接種し、塗り広げ37°Cで培養する。

③ 菌数をカウントする。

(3) フェイシャル施術用スチームタオル保温庫とスチームタオルの汚染状況調査

- 1) 実施時期 平成29年8月~9月
- 2) 実施場所 都内エステティック営業施設6か所

3) サンプル採取箇所

- ① 保温庫内扉
- ② 保温庫外表面
- ③ 保温庫外取手部分
- ④ 施術用スチームタオル(未使用)

4) 試験方法

・保温庫

① 生理食塩水1mlが入った滅菌スピッツに綿棒を入れて、綿棒を湿らせる。

② 各調査箇所をよく①の綿棒でぬぐいとる。

③ ①のスピッツ内の生理食塩水に②でぬぐった綿棒をよく懸濁する。

④ 血液寒天培地に100 μ l ずつ接種し、塗り

広げて37℃で培養する。

⑤菌数をカウントする。

・施術用スチームタオル

①生理食塩水2mlが入った滅菌スピッツに
1cm³角に切った使用前のスチームタオル
を入れ、よく混和する。

②①を血液寒天培地に100μlずつ接種し、
塗り広げ37℃で培養する。

③菌数をカウントする。

④主要な菌種について同定試験を行う。

2. 被施術者から施術者への細菌類の伝播 に関する調査

●施術者の手指細菌調査

平成27年度

1) 実施時期 平成27年12月4日
平成27年12月18日

2) 実施場所 一般社団法人日本エステティ
ック協会研修室

3) 被験者 10名(20歳代5名 50歳代5名)
平成28年度

1) 実施時期 平成28年10月19日
平成28年11月9日
平成28年12月14日

2) 実施場所 東邦大学医療センター大森病院
3) 被験者 12名(平均年齢44.9歳)

平成29年度

1) 実施時期 平成29年11月22日
平成29年12月13日

2) 実施場所 東邦大学医療センター大森病院
3) 被験者 2名(実務経験20年以上1名 実務
経験1年未満1名)

平成27年度～平成29年度共通

4) 対象施術 フェイシャルスキンケア

5) 試験方法

①施術直前及び施術直後について、施術者

のハンドスタンプ(栄研化学ハンドペタ
ンチェックⅡ(SCD-LP培地)を採
取する。

②37℃一昼夜培養後、生育した細菌数をチ
ェックし、同定試験を行う。

●被験者の顔面皮膚の細菌検査

平成27年度

1) 実施時期 平成27年12月4日

平成27年12月18日

2) 実施場所 一般社団法人日本エステティ
ック協会研修室

3) 被験者 10名(20歳代5名 50歳代5名)
平成28年度

1) 実施時期 平成28年10月19日
平成28年11月9日
平成28年12月14日

2) 実施場所 東邦大学医療センター大森病院

3) 被験者 12名(平均年齢44.9歳)

平成29年度

1) 実施時期 平成29年11月22日
平成29年12月13日

2) 実施場所 東邦大学医療センター大森病院

3) 被験者 健常成人女性8名(平均年齢31.6歳)
平成27年度～平成29年度共通

4) 対象施術 フェイシャルスキンケア

5) 試験方法

①施術直前及び施術直後について、被験者
の顔面皮膚を滅菌綿棒で拭う。具体的
には滅菌綿棒を滅菌生理食塩水に浸し顔面
(額、鼻筋、頬、あご)を拭う。

②拭った綿棒を1mlの生理食塩水に溶解し
た後、100μlずつMRSA培地、血液寒天培
地に塗布する。37℃一昼夜培養後、生育
した細菌数をチェックし、同定試験を行
う。被験者から施術者の手指への細菌の
伝播を特定するためのパルスフィールド

電気泳動法で細菌株の同一性を確認した

- ヒートマットで施術した際の被験者からの機器への細菌類の伝播

1)実施時期 平成27年12月4日

平成27年12月18日

2)実施場所 一般社団法人日本エステティック協会研修室

3)被験者 10名(20歳代5名 50歳代5名)

4)対象施術 ヒートマット(温熱機器)

5)試験方法

①施術前、後について被験者の下腿及び瘦身機器を拭いサンプルを採取する。

具体的には、滅菌綿棒を滅菌生理食塩水に浸し被験者の下腿及び機器表面を拭う

②拭った綿棒を1mlの生理食塩水に溶解した後、100u1ずつMRSA培地、血液寒天培地に塗布する。37℃一昼夜培養後、生育した細菌数をチェックして同定試験を行う。

3. 手洗いの徹底に関する調査

(1)エステティシャン・看護師手洗い比較試験

看護師とエステティシャンの間での、手洗い方法に差があるかどうかを明らかにすることを目的とした。

1)実施時期 平成28年11月28日

2)実施場所 東邦大学医療センター大森病院

3)被験者 関東地区エステティシャン

ハンドソープのみ4名

ハンドソープ+手指消毒剤4名

大森病院看護師

ハンドソープのみ4名

ハンドソープ+手指消毒剤4名

4)試験方法

被験者をハンドソープの洗浄のみとハンドソープ洗浄後手指消毒剤使用の2グループに分け、手洗い前後にハンドスタンプを採取し、37℃一昼夜培養を行った。

(2)手洗い啓発資料の作成

平成27年度の研究で手洗いの重要性や手順を啓発する目的で「衛生管理は手洗いから」と題したツールを試作した。

(3)エステティック技術者養成施設における手洗い方法啓発ツールに関するアンケート調査

1)実施時期 平成28年5月

2)調査対象 一般社団法人日本エステティック協会及び一般社団法人日本エステティック業協会認定校

3)調査方法 手洗い方法啓発ツールおよび調査票を送付し、記入後の返送を依頼した。

(4)学生および講師の手洗い実験

1)実施時期 平成29年12月7日(学生)

平成29年12月14日(講師)

2)実施場所

学生 学校法人三幸学園 東京ビューティーアート専門学校

講師 一般社団法人日本エステティック協会

3)被験者 学生 26名(平均年齢18.7歳)

講師 30名(平均年齢51.5歳)

4)対象 手指

5)試験方法

「衛生管理は手洗いから」(平成27年度の本研究で作成した手洗い指導ツール)を配布

し、記載されている手洗い手順で手洗いを
行う。

- ①ハンドスタンプ採取
- ②流水洗浄 5秒
- ③ハンドソープでもみ洗い 10秒
- ④流水ですすぎ洗い 15秒
- ⑤ペーパータオル2枚で拭き取り後ハンド
スタンプ採取
- ⑥手洗いに関するアンケート調査票記入
- ⑦ハンドスタンプを37℃ 一昼夜培養後、
生育した細菌数をカウントする。

(5) 手洗い啓発に関する検討(P96～P97)

別添 改訂版「衛生管理は手洗いから」を作
成配布した。

4. 啓発資料

(1) 技術者養成施設における衛生管理教育

に関する実情についてのアンケート調査

- 1)実施時期 平成28年1月～3月
- 2)調査対象 一般社団法人日本エステティ
ック協会及び一般社団法人日本エス
テティック業協会認定校 計178校
- 3)調査方法 調査票を送付し、記入後の返
送を依頼した。

(2) 技術者養成施設教員に対する聞き取り 調査

- 1)実施時期 平成28年3月
- 2)調査対象 東京・名古屋周辺の養成施設7
校9名の教員
- 3)調査方法 面談

(3) 施設の衛生管理に関する啓発についての 検討

平成 27 年度「技術者養成施設における衛

生管理教育に関する実情についてのアンケー
ト調査」「技術者養成施設教員に対する聞き取
り調査」平成 28 年度エステティック営業施設
対象「衛生管理状況に関するアンケート調査」
平成 29 年度「フェイシャル施術用スチームタ
オル保温庫とスチームタオルの汚染状況調査」
などの結果を踏まえ検討を行った。

12 倫理面への配慮

アンケート及び試験開始前に、被験者に
同意取得のための説明文書に基づき説明し
たうえで、試験への参加について「自由意思
による同意」を得た。なお、本試験は公益財
団法人日本エステティック研究財団倫理審
査委員会で承認を受けた。

C 研究結果

I エステティックサービスにおける健康 被害の実態把握及び原因の究明

1. エステティックの健康被害に関する情 報収集

(1) 皮膚科医師に、エステティックによる 健康被害患者の情報提供の依頼

関東・関西の医療機関 20 施設に協力を仰
いだが報告は 5 例のみ、治療を行っていた
としても施設から提出が得られない現状で
ある。

(2) 独立行政法人国民生活センターの健康 被害情報の収集

平成 26 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月
31 日までに全国の都道府県市町村の消費
者相談窓口寄せられた消費者相談のうち
「エステティックサービス」の健康被害に

関する相談の詳細情報を国民生活センターから収集した。

過去5年間の比較では、相談件数は600件前後で推移していた。原因施術は、美顔エステ40.3%(平成24年度)→24.6%(平成28年度) 他のエステサービス10.8%(平成24年度)→22.2%(平成28年度) 危害の内容では、皮膚障害45.6%(平成24年度)→38.1%(平成28年度) 熱傷17.7%(平成24年度)→20.8%(平成28年度) 擦過傷・挫傷・打撲傷8.5%(平成24年度)→13.7%(平成28年度)だった。性別は、95%前後が女性、年代は、20歳代30歳代で約半数を占めていた。(P29)

(3) エステティックサロンにおける健康被害実態調査

日本美容皮膚科学会会員が所属する医療機関 166 施設から有効な回答を得、エステティックによる健康被害の治療経験があった 77 施設から 155 件の症例を収集した。

治療を受けた患者の属性は、女性が 146 件(94.2%) 年代層は 20 歳代が 49 件(31.6%)30 歳代が 39 件(25.2%)と 20 歳から 30 歳代で 56.8%を占めた。

患者がエステティック施術を受けた目的は、脱毛施術が 59 件(36.9%) スキンケア施術が 33 件(20.6%)だった。その他は、まつ毛エクステンション等目の周りを対象とした施術やホクロ取りなど本来エステティックの施術ではないと思われるものだった。所見では、熱傷が多く 56 件(36.1%)ついで、接触皮膚炎が 43 件(27.7%) 色素沈着 23 件(14.8%)だった。熱傷の原因として挙げられていたのは、光を利用した脱毛とラジオ波、接触皮膚炎では、オーガニック化粧品やアロマオイルが目立った。(P30～P32)

2. エステティック利用者背景調査

(1) 慢性疾患患者に対するアンケート調査

●アトピー性皮膚炎患者アンケート調査

東邦大学医療センター大森病院皮膚科 アトピー外来において同意書及びアンケート用紙を配布し、回収した。(回収総数33名 うち女性27名) 年齢層は、30歳代が多く平均年齢は36.2歳だった。アトピー性皮膚炎の自己評価では、重症4件 中等症16件 軽症13件だった。エステティックの経験を有する患者は18件54.5%だった。中でも重症と自己評価した患者4名のうち3名 中等症で16名中9名が経験ありと回答した。

エステティックの経験を有する患者が受けた施術は、フェイシャル13件 30.2% 脱毛9件 20.9%だった。

エステティックの施術を受けて皮膚トラブルを経験したのは18件中8件44.4% かぶれが5件と一番多いが、医者にかからず1週間程度で治癒していることから軽症であることがうかがえる。(グラフ P27)

フリーコメントでは、自身の状態をきちんとエステティックの技術者に伝えてから施術を受けるなど慎重さがある半面、使用されている化粧品類の成分が明らかでないことに不安を覚えるなどのコメントもあった。(P33～P35)

●糖尿病患者アンケート調査

和歌山県及び東京都の医療機関の協力を得て外来で治療を受けている糖尿病患者にアンケートを依頼した。368件の回答を得た。そのうち231件(62.8%)が女性の回答だった。年齢層は60歳代32.3%、70歳代31.5%と60歳以上が74% 平均年齢65.5歳

だった。糖尿病歴は、1～5年が103件28% 6～10年82件22.3%と病歴10年以下が半数を占めた。血糖値のコントロールは、368件中334件で運動食餌療法、飲み薬、インシュリンによりコントロールできていると回答した。現在かかえている皮膚に関するトラブルは、かゆみ96件乾燥95件むくみ39件 トラブルがないと思われるのは166件だった。

糖尿病を罹患した後エステティックを受けた経験があると回答したのが34件だった。この34件のうちエステティックを受ける前に主治医に相談したのは34件中3件

(8.8%) 相談しなかったのが34件中30件(88.2%)、エステティックを受ける際、技術者に自身が糖尿病であることを申告したのは、34件中12件(35.3%)、申告しなかったのは34件中21件(61.8%)だった。

受けたエステティックの種類は、フェイシャルエステティック19件脱毛7件痩身2件で、皮膚トラブルを経験したのは4件(フェイシャル3件、痩身1件)だった。

糖尿病患者に対する安全性が確認された場合エステティック施術を受ける意向があるまたは現在エステティックを利用しているのが、50件13.6% エステティックは高額である、興味がない、高齢であるなどの理由で意向なしとしたのが303件82.3%だった。(P36～P37)

(2)エステティック営業施設利用者が持つ疾患やアレルギー等に関する調査

●営業施設対象アンケート調査(P38)

エステティック営業施設279施設から回

答を得た。過去1年間に利用者から糖尿病や高血圧などの疾患であるとの申し出を受けたことがある施設は279件中135件だった。疾患履歴は、更年期障害が106件(38%) 高血圧が66件(23.7%) 糖尿病が52件(18.6%)(複数回答)だった。

アレルギーの申し出を受けたのは279件中167件だった。一番多かったのは花粉症で150件(53.8%) アトピーが132件(47.3%) 金属が85件(30.5%)(複数回答)だった。

●利用者対象アンケート調査(P39～P41)

エステティック営業施設11施設の利用者106名(平均年齢45.2%)から回答を得た。皮膚の状態(自己評価)では、皮膚がカサカサしやすい(50.0%) 皮膚が冷えやすい(48.1%) 皮膚がかゆい(34.9%)と調査時期が冬季であることから乾燥や冷えが多かった。現在の体調では、良好(6.6%) 普通(69.8%) 不調(14.2%)だった。不調の種類では、肩こり(72.6%) 冷え性(48.1%) 便秘(27.4%)だった。体調が「普通」の回答でも肩こりなどの不調があった。

ストレスや身体疲労の状況は、どちらも7割以上の利用者が「あり」と回答している。

体質・既往症等の有無では、アレルギーありが67件(63.2%) 疾患ありが17件(16.0%)のうち10件が高血圧だった。アレルギーの内訳は、花粉症58.2% アトピー20.9% 金属が19.4%だった。

3. 機器及び手技、化粧品等の安全性調査

(1)フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験

フェイシャルエステティック施術が皮膚に与える影響について、健常女性34名の被験者に

エステティック業界の民間資格を有する技術者2名(実務経験20年以上の技術者1名 実務経験1年未満の技術者1名)が施術を提供、施術前後の角層水分量、水分蒸散量、真皮水分量を測定し、検証した。

その結果、施術前後の医師の診察、角層水分量、水分蒸散量、真皮水分量、すべて問題となる事象はなかった。また、技術者の熟練度の差による皮膚への影響については、有害事象につながる兆候は見られなかった。

(P42~P44)

(2) ヒートマット皮膚安全性試験

ヒートマットは、首から下をマットで包み、中の電熱線が発熱して身体を温める用途で主として痩身で使用されている。温度設定は、おおむね40℃~70℃の間で数段階設定、タイマーが装備されている機器が多い。

被験者は、健常女性20歳代5名50歳代5名平均年齢42.3歳 腰部から下を包み込み10分間施術を行った。被験者の臀部、ふくらはぎとヒートマットの間に温度計を挟み温度上昇をモニターした。

その結果、施術前後の温度は、臀部で被験者10人平均4.37℃最大7.7℃ ふくらはぎで被験者10人平均3.16℃最大7.2℃の上昇だった。最高温度も40℃弱、心拍数、血圧、真皮水分量の数値とも有害事象につながる事例は見られなかった。(P45)

(3) RF機器皮膚安全性試験(P46~P48)

施術前後で角層水分量、水分蒸散量共に異常は見られず、塗布したクリーム及びジェルにより改善する例も見られた。

皮膚の表面温度は、施術開始時から上昇し施術終了直後から下がり始め2分後にはほぼ施術前の温度に戻る傾向がみられた。機器2台のうち1台(機器B)の温度上昇は緩やかだったが、1台(機器A)について施術開始30秒以降において温度上昇が大きくなった。表面温度の最高は、被験者3の左大腿49.9℃だった。被験者1の左大腿では被験者が熱さを訴え、施術後発赤がみられた。

(4) 営業施設対象使用機器アンケート調査

エステティック営業施設279施設から回答を得た。提供しているサービス、導入している美容機器、新しい美容機器を導入する際の安全性の確認方法を調査した。その結果、提供サービスは、フェイシャルエステティックが274件(98.2%)痩身エステティック137件(49.1%)脱毛エステティック81件(29.0%)だった。導入されている美容機器は、イオン導入178件(63.8%)キャビテーション(超音波)114件(40.9%)ラジオ波(高周波)90件(32.3%)美容ライト脱毛60件(21.5%)だった。安全性の確認方法では、導入前に実際に使用してみて確認が205件メーカーの資料を見て162件営業マンの説明11件だった。(P49)

(5) 超音波機器の皮膚に対する影響試験

被験者6名1機種につき4例のべ12例の試験を行った。有害事象と考えられる事例は見られなかった。角層水分量、水分蒸散量ともに異常な数値はなく、皮膚表面温度は、施

術を行うと上昇するが、39℃を超えることはなかった。機器 B において施術直後に発赤を伴う丘疹がみられたが、有害事象に至るものではなかった。(P50～P52)

4 啓発資料

(1) エステティック営業施設で使用される機器類の安全性確保について

エステティック営業施設で使用される機器は、医療機器ではなく美容を目的として作られたものが原則である。しかし、取扱説明書がないための誤使用やメンテナンスが十分ではない業者による故障などから健康被害の発生する可能性があると考え、機器選定、検討、購入、使用時の注意事項をまとめた。(P54～P55)

(2) エステティック利用者背景の聞き取りによる健康被害防止対策について

健康被害のリスクが高い利用者に対し、通常の施術ではなくリスクに合わせた施術を提供することで健康被害の防止につながると考え、昨年度の研究で行った「エステティック営業施設利用者が持つアレルギーや疾患等に関する調査」結果を踏まえ、「エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート(例)」及び聞き取った結果に対する施術上の注意点を合わせて作成した。

(P56～P64)

(3) 消費者対象啓発資料について

別添のとおりわかりやすくすることを目的に1ページにまとめた。(P65)

II エステティック施設の衛生管理の徹底

1. 衛生管理に関する調査

(1) 衛生管理状況に関するアンケート調査

エステティック 284 施設から有効な回答を得た。経営タイプは、個人経営の単店舗(193 件 68.0%)が一番多く直営の多店舗は、66 件(23.2%)だった。営業形態は、エステティック専門店(173 件 60.9%) 化粧品店と併設 32 件(11.3%)だった。提供しているサービスは、複数行っているケースが多く、フェイシャルエステティックが 274 件(98.2%) ボディエステティック 209 件(74.9%)だった。

衛生管理に必要な 21 項目については、21 項目すべてを実施していたのが 17 件(6.0%) 80%に当たる 17 項目～20 項目を実施していたのは 115 件(40.5%)だった。平成 25 年度に実施した同様の調査との比較では、17～20 項目で 10.6%増加していた。

それぞれの項目では、器具類の消毒は概ね 90%が実施していると回答しているが、勉強会やチェックシートの実施率は低かった。平成 25 年度に行った同様の調査との比較では、「衛生管理責任者を決めている」が 13.3%増 「衛生管理のマニュアルがある」が 15.6%増と、全体をコントロールする項目で増加が見られた。

1 日の業務の流れである出勤時、朝の清掃後、施術前、施術中、施術後、器具類の洗浄、消毒後等に分け、手指消毒の状況を「流水と洗浄剤」「消毒のみ」「流水、洗浄剤、消毒」「何もしない」の選択肢で回答してもらった。

出勤時は「流水と洗浄剤」140 件(50.2%)、

手洗い時間では、30秒 83件(29.2%)が多かった。

施術前では、「流水、洗浄剤、消毒」160件、手洗い時間は、30秒 80件(28.2%)が多かった。

施術後では、「流水と洗浄剤」133件(46.8%)、手洗い時間は、30秒 74件(26.1%)が多かった。

器具類の洗浄、消毒後では「流水、洗浄剤、消毒」145件(51.1%)、手洗い時間は、1分 74件(26.1%)が多かった。

また、従業員に異常があった場合の対応は、体調の異常では、「すみやかに医療機関を受診させ他者への感染のおそれがある場合は治癒するまで休ませる」207件(72.9%)と一番多く、平成25年度の調査と比較して4.1%増加していた。爪の周りの異常(傷、ささくれ、イボ、水泡等)があった時の対応は、「施術を行わせない」158件(55.6%)「手袋をして施術を行わせる」58件(20.4%)だった。平成25年度の調査との比較では、今回「施術を行わせない」が7.6%減少、「手袋をして施術を行わせる」が7%増加していた。(P66～P70)

(2) 施術用スチームタオル保管庫(ホットキャビ)とスチームタオルの汚染状況調査 保管庫試験結果

保温庫内扉、カゴおよび保温庫外取手には細菌による汚染がみられなかった。

保管庫 (cfu/ml)		
内扉	カゴ	取手
10	10	10

スチームタオル試験

使用前のスチームタオル1センチ立方メートルより $10^2 \sim 10^3$ の細菌が検出

された。

タオル(cfu/cm ³)				
1	2	3	4	5
680	3,360	470	1,280	1,000

菌種同定のため16SrRNA 遺伝子配列解析を行った結果、芽胞形成菌である *Bacillus* 属に属する菌と高い相同性を示した。(P71)

(3) フェイシャル施術用スチームタオル保温庫とスチームタオルの汚染状況調査

●保温庫 内扉、表面、外側取手

ほとんど汚染がみられなかった。

cfu/ml

	取手	表面	内部
施設 A	10	0	0
施設 B	0	0	0
施設 C	0	0	0
施設 D	0	0	0
施設 E	0	0	10
施設 F	0	0	30

●施術用スチームタオル(P72)

6施設中5施設より使用前のスチームタオル1cm³より $10^1 \sim 10^3$ の細菌が検出された。そのうち高温に耐える芽胞形成菌である *Bacillus* 属の菌が検出された。

施設Dでは免疫不全患者などに病原性を示す *Bacillus cereus* の可能性がある菌が検出された。

2. 被施術者から施術者への細菌類の伝播に関する調査

●施術者の手指細菌調査

● 施術者の手指細菌調査

平成27年度

(P73～P74)

施術は、技術者2名 施術者1が被験者1, 3, 5 施術者2が被験者2, 4を担当した。施術前の手指細菌数は、10例平均で17.1個と手洗い消毒に問題はなかった。施術後施術者手指の菌数は、10例すべてで増加していた。10例の施術後の菌数増加は、平均約14.2倍だった。10例のうち8例からメシチリン感受性黄色ブドウ球菌(MSSA)が検出され、院内感染の原因となるメシチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)が施術後の手指から1例検出された。

● 被験者の顔面皮膚の細菌検査

平成27年度

(P75～P76)

被験者から検出された菌のほとんどはCNSであった。少量ではあるがとびひなどの原因となる黄色ブドウ球菌が検出された。

被験者5(12月4日)では施術後の鼻およびあごから院内感染の原因となるMRSAが検出された。施術前の被験者顔面および施術者から検出されていないことから、被験者の鼻腔に存在しているものが顔面皮膚に付着した可能性も示唆された。

● 被験者顔面皮膚から施術者手指への細菌の伝播について

いままでの研究においても被験者から施術者手指への細菌類の伝播の可能性が高いと思われる結果が出ていた。今回の調査では、パルスフィールド電気泳動法を利用して被験者顔面皮膚の細菌と施術者手指から検出された細菌が同一の株かどうか確認した。その結果、被験者5(12月4日)の顔面よ

り分離されたMRSAと施術者1の手指から分離されたMRSAは同一株だった。

● 施術者の手指細菌調査

平成28年度

(P77～P78)

施術は、技術者2名 施術者1(技術熟練度高)が被験者1, 3, 5, 7, 11, 12 施術者2(技術熟練度低)が被験者2, 4, 6, 8, 9, 10を担当した。施術前の手指細菌数は、施術者2の6例中3例でS.aureusが検出された。施術後施術者手指の菌数は、12例すべてで2～10倍に増加していた。12例のうち1例から、院内感染の原因となるメシチリン耐性黄色ブドウ球菌

(MRSA)が施術後の手指から検出された。

● 被験者の顔面皮膚の細菌検査

平成28年度

(P79～P80)

被験者から検出された菌のほとんどはCNSであった。

被験者4(12月14日)では施術後の額から院内感染の原因となるMRSAが検出された。被験者4施術後の施術者手指からも同様にMRSAが検出された。また施術者の被験者4施術前手指からとびひなどの原因となるメシチリン感受性黄色ブドウ球菌(MSSA)が検出された。被験者4の施術後の顔面各所からもMSSAが検出された。

● 施術者の手指細菌調査

平成29年度

(P81～P82)

・11月22日

- ① 施術者1では施術前に比較して施術後の方が圧倒的に菌数が多かったのに対し、施術者2では施術前にも数十～数百程度存在していた。
- ② 施術者1では被験者1、被験者3の施術後でとびひなどの原因となるS.aureusが検出されたがほとんどがCNSであった。

③施術者2では施術前後でCNSのみが検出された。

・12月13日

①施術者1・2とも施術前後で皮膚の常在菌であるコアグラエゼ陰性 *Staphylococcus*(CNS) が検出された。また施術前後では施術後の方が菌数が多く、被験者由来の菌である可能性が示唆された。

●被験者の顔面皮膚の細菌検査

平成29年度 (P83)

・11月22日

①被験者1～3ではとびひなどの原因となる MSSAが検出されたが、耐性菌である MRSAは検出されなかった。

・12月13日

①被験者の顔面皮膚より病原性に関与する菌は検出されなかった。

●ヒートマットで施術した際の被験者からの機器への細菌類の伝播

被験者10名のうち1名で、下腿および機器からCNSおよび腸内細菌が疑われる菌が検出された。このことから、被験者の下腿からの菌が施術後の機器表面に付着したと考えられた。

腸内細菌に関してはその他の被験者では検出されていないことから、本被験者由来のものと考えられる。 (P84)

3. 手洗いの徹底に関する調査

(1)エステティシャン・看護師手洗い比較試験 (P86～P87)

ハンドソープのみの洗浄をしたグループでは看護師、エステティシャンとも菌数が増加する傾向がみられた。

ハンドソープと手指洗浄剤を用いたグループでは、看護師、エステティシャンとも手洗い後に菌数が減少する傾向がみられた。

(2)手洗い啓発資料の作成

養成施設講師のヒアリングにおいて施術後の技術者の手洗いの教育が徹底されていない実態が把握されたことから、いままで収集したデータを活用して手洗い啓発用資料を試作した。

(3)エステティック技術者養成施設における手洗い方法啓発ツールに関するアンケート調査

正しい手洗いに関する啓発資料について聞いたところ、「大変役に立った」43件(30.3%)「役に立った」60件(42.3%)と7割が役に立つと回答した。

改善すべき点については、「大きさが小さく倍の大きさにしてほしい」、「施術前後の写真に解説をつけて欲しい」などの意見が寄せられた。 (P88～P92)

(4)学生および講師の手洗い実験

9 講師および学生の手洗い実験

●手洗いに関するアンケート調査結果

1)指定された手洗い手順通りに手洗いが行えたかどうかの自己評価(VAS法)

講師 平均8.26cm 学生 平均9.15cmとどちらも指定通り洗えたと評価していた。

- 2)いつもの手洗い時間との比較(VAS法)
今回の手洗い時間は30秒だったが、講師
平均7.35cm 学生5.63cmと講師は普段より
長く感じていた。
- 3)指定された手洗い手順のうち普段実行して
いない項目(複数回答)
講師群では、「手のひらの上で指先を洗う」
50.0% 「親指を握るように洗う」46.7% 「手首の
上を洗う」30.0% 学生群では、「親指を握るよ
うに洗う」65.4% 「手首の上まで洗う」38.5% 「手
のひらの上で指先を洗う」30.8% 普段実行して
いないと回答した。
- 4)手洗いがおろそかになる状況(複数回答)
施術後など特定の状況ではなく、「忙しい
時」や「水が冷たい」などの回答が多かった。
(P93)

●手洗い前後のハンドスタンプの菌数結果
講師群では、手洗い前に比べ手洗い後 菌
数が多い傾向があった。学生群では、手洗い
後の方が菌数が少ない傾向だった。(P94)

- (5)手洗い啓発に関する検討(P96～P97)
別添 改訂版「衛生管理は手洗いから」を作
成配布した。

4. 啓発資料

- (1)技術者養成施設における衛生管理教育
に関する実情についてのアンケート調査
エステティックの技術者養成施設に衛生
管理教育の問題点等についてアンケートを
行ったところ、142件の回答を得た。回答し
たスクールは、理美容学校が一番多く、74
件(52.1%)次いで学校法人ではないスクー
ルが36件(25.4%)だった。衛生管理教育の
講師は、エステティック業界団体の民間資
格取得者が116件と一番多かった。医師、

獣医師、看護師、薬剤師、鍼灸師等の国家資
格を持つ講師が18件だった。

衛生管理教育の問題点としては、「手洗い
を含めた衛生管理の実践がうまく出来てい
るかの判断が難しい」38件(26.8%)、「衛生基
準については、サロン内での役割別に必要
な衛生管理が分かると良い」36件(25.4%)
「消毒薬や器材が不足していて衛生管理の
実践が正しく行えない」32件(22.5%)だった。
(P98)

(2)技術者養成施設教員に対する聞き取り 調査

エステティック技術者の教育は、エステ
ティック業界が自主的に基準を策定し、養
成施設で教育を行っている。一定以上の教
育を修得した技術者に民間資格を付与して
いる。衛生管理教育の問題点を抽出して解
決することにより、さらに教育を充実させ
ることを目的としてヒアリングを行った。
その結果、10年前に比べて生徒のメンタ
ルが弱い、自分で考えて問題解決するなど
考える力が弱いなど生徒の質が変化してき
ており、養成施設側としても生徒のケアや
教え方を変化せざるを得ない。また、養成
施設できちんと衛生管理を教育しても、エ
ステティック施設に実習に行くと衛生管理
がないがしろにされていて生徒が混乱する
など教育の場と営業の現場のギャップがあ
るなど問題点が抽出された。

(3)施設の衛生管理に関する啓発についての 検討

別添「エステティック営業施設向け啓発資
料」を作成配布した。(P99～P102)

D. 考察

エステティック施術は本来心身が健康な人に手技、化粧品、機器を使用して施術を提供するものであるが、利用者背景については規制がなく種々の目的で多くの人を利用する可能性がある。施術の組み合わせは、施設によりきめられた工程で進行することが予想され、顧客の状況や条件で変更する技量が施術者に備わっているかどうか疑問である。既に報告したとおり施術による健康被害は、皮膚障害、熱傷が主であるが、原因究明がなされることは難しい。

国民生活センターの危害情報及び皮膚科医師のアンケートにおいて健康被害は、皮膚障害、熱傷が主であることは変わらなかった。皮膚障害の対策は難しいが、アトピー性皮膚炎などのリスクを持つ利用者の健康被害を防ぐために施術前に利用者背景の聞き取りを徹底し、施術の組み立てに生かすことが重要と考えている。熱傷については、機器類による通常の使用方法を逸脱する、メンテナンス不足による故障などの原因が考えられることから機器使用の際の注意事項を徹底する必要がある。

衛生学的調査では、技術者の手を介した細菌類の伝播が起り、手洗いも十分ではないケースもあり、手洗いの徹底を目的に現場の意見を取り入れて啓発資料を検討した。エステティック営業施設の衛生管理状況に関する調査では、衛生管理に必要な21項目について十分に実施されていないことから、徹底するための資料の検討を行った。

E. 結論

エステティック施術は本来心身が健康な人に手技、化粧品、機器を使用して癒しを提供するものであるが、利用者背景については規制がなく種々の目的で多くの人を利用する可能性がある。既に報告した通り施術による健康被害は、皮膚障害、熱傷が主であるが、原因は多岐にわたると考えられ、さらに正確な情報が得にくいこともあり、原因と思われる項目を一つひとつ指導していくことが健康被害防止に役立つと考えた。今年度は、3年計画の最終年としてこれまでの研究で得た成果をもとに、エステティック営業者、消費者向け啓発資料を作成公表した。啓発資料の内容は以下の通り。

- ・カウンセリングシート(例):高齢化社会により利用者の年齢が上がっていくと思われるので、健康被害を増やさないために慢性疾患やアレルギーなどの利用者背景の聞き取りを徹底し施術の組み立てに活用するため「カウンセリングシート(例)」と聞き取った結果による施術上の注意点を作成した。
- ・エステティック機器の安全性確保:熱傷の多くは、機器を原因とするものがあり、通常の使用方法を逸脱、誤使用、故障などが考えられ、機器使用者である技術者(エステティシャン)に正しい機器選定、検討、購入、使用時の注意事項をまとめた。
- ・エステティック営業施設 衛生管理のポイント:エステティック営業施設対象のアンケート調査で「衛生管理に必要な21項目」の実施率の低い項目について実施するための方

法を解説、これまでの研究で収集したデータの中から施設的环境やスチームタオルなど注意すべき項目をまとめた。

- ・改訂版「衛生管理は手洗いから」：施術のより被施術者の皮膚から細菌類が施術者の手指に伝播することから、手洗いを徹底するために手洗い指導ツールを作成した。
- ・「エステティックによる健康被害にあわないために」：消費者対象の啓発資料。安全な施術であっても被施術者の体調や体質によっては健康被害につながるおそれがあり、技術者の教育と同時に消費者に施術を受ける前に自身の体調や体質を技術者に正確に伝えるとともに施術を受けている最中に違和感を感じたらすぐ申し出るよう啓発する。

毎年エステティック施術による健康被害

が国民生活センターに報告されている状況を把握してその原因調査をしていく中で、安全な施術提供を目的として具体的に施術者への教育体制を整えている現状である。同時に利用者側にも自身のために安全施術の提供を受けるように啓発を図る必要性を感じている。法的規制が十分でないエステティック施術では、対象範囲が広いことから安全性の確認されていない機器や技術が導入されやすい環境にある。今後も機器や技術の安全性の検討を続け、施術者、経営者対象のみでなく利用者の教育にも力を入れていきたい。

F 健康危害情報

なし

G 研究発表

- 20160806-07 第 34 回日本美容皮膚科学会・学術大会

「エステティック施術による身体への危害防止への取り組み(被施術者背景を探る)」

- 関東裕美, 鷺崎久美子(東邦大・大森)
古川福実, 山本有紀(和歌山県立医大)

- 20170311-0312 第 460 回日本皮膚科学会大阪地方会

「エステティック施術による健康被害軽減への取り組み(利用者背景を探る)」

- 関東裕美, 鷺崎久美子(東邦大・大森)
古川福実, 山本有紀(和歌山県立医大)

- 20170905 第 11 回エステティック学術会議

- 関東裕美, 鷺崎久美子(東邦大・大森)
古川福実, 山本有紀(和歌山県立医大)

H 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

- 1) 玉田伸二：いわゆるエステティックサロンで受けた脱毛術後の後遺症 46 例の検討：日臨皮 46；271, 1995
- 2) 篠田 勸・他：エステティックによる民間療法施行中に重症感染症を合併したアトピー性皮膚炎の 1 例_：皮膚臨床 39；615-618,1997
- 3) 竹原和彦：疫学調査に見る動向 アトピー性皮膚炎不適切治療健康被害実態調

- 査：臨床と薬物治療 23；101-104,2004
- 4) 河原理子・他：エステ脱毛による熱傷
症例の経験，日本美容外科学会会報 27；
259, 2005
- 5) エステティック業統一自主基準 日本
エステティック振興協議会 2010
- 6) エステティックの衛生基準 公益財団
法人日本エステティック研究財団 2009
- 7) 「エステティックにおけるフェイシャル
スキンケア技術の実態把握及び身体への
影響についての調査研究」大原國章他
平成 22 年度~平成 25 年度厚生労働科学
研究費補助金(健康安全・危機管理総合研
究事業)
- 8) Huijsdens et al. Emerging Infectious
Disease 14:1797-1799.2008
- 9) 山本恭子 環境感染 Vol.17 No.4,2002
- 10) 岡田淳編 臨床検査学講座 微生物学/
臨床微生物学 第3版 医歯薬出版株式
会社

エステティックサロンにおける健康被害実態調査 アンケート調査票

お名前 _____ 所属機関名 _____ ご連絡先(e-mail 又は FAX 番号) _____

▶機関全体の症例をご回答ください。(機関に複数会員が所属している場合お手数ですがまとめてお願いいたします。)

Q1 エステティックサロン(美容医療、理美容室除く)で健康被害を受けた患者の治療経験はありますか?

A 有 (下記の表へご記入いただき、4ページQ2の回答をお願いいたします。) ※症例数が多い場合は、この用紙をコピーのうえご記入いただきますようお願い申し上げます。

B 無 (4ページQ2の回答をお願いいたします。)

		症例1(年 月頃)	症例2(年 月頃)	症例3(年 月頃)	症例4(年 月頃)
年齢 性別		(才)(①男 ②女)	(才)(①男 ②女)	(才)(①男 ②女)	(才)(①男 ②女)
患者がエステティックサロンで受けた施術の目的		①スキンケア ②シミ取り ③しわ取り ④美白 ⑤にきび ⑥脱毛 ⑦痩身 ⑧その他()	①スキンケア ②シミ取り ③しわ取り ④美白 ⑤にきび ⑥脱毛 ⑦痩身 ⑧その他()	①スキンケア ②シミ取り ③しわ取り ④美白 ⑤にきび ⑥脱毛 ⑦痩身 ⑧その他()	①スキンケア ②シミ取り ③しわ取り ④美白 ⑤にきび ⑥脱毛 ⑦痩身 ⑧その他()
所見		①接触皮膚炎 ②ウイルス・細菌感染 ③熱傷 ④色素沈着 ⑤その他()	①接触皮膚炎 ②ウイルス・細菌感染 ③熱傷 ④色素沈着 ⑤その他()	①接触皮膚炎 ②ウイルス・細菌感染 ③熱傷 ④色素沈着 ⑤その他()	①接触皮膚炎 ②ウイルス・細菌感染 ③熱傷 ④色素沈着 ⑤その他()
部位		・頭部 ・顔面 ・頸部 ・体幹 ・四肢	・頭部 ・顔面 ・頸部 ・体幹 ・四肢	・頭部 ・顔面 ・頸部 ・体幹 ・四肢	・頭部 ・顔面 ・頸部 ・体幹 ・四肢
原因と思われるもの		①光を使用した脱毛 ②イオン導入 ③キャビテーション(超音波) ④ラジオ波(高周波) ⑤吸引(カッピング) ⑥冷却痩身 ⑧アロマオイル ⑨自然派化粧品(オーガニック) ⑩海外化粧品(以下からお選びください。) ・アメリカ ・ヨーロッパ ・韓国 ・中国 ・その他() ⑪その他()	①光を使用した脱毛 ②イオン導入 ③キャビテーション(超音波) ④ラジオ波(高周波) ⑤吸引(カッピング) ⑥冷却痩身 ⑧アロマオイル ⑨自然派化粧品(オーガニック) ⑩海外化粧品(以下からお選びください。) ・アメリカ ・ヨーロッパ ・韓国 ・中国 ・その他() ⑪その他()	①光を使用した脱毛 ②イオン導入 ③キャビテーション(超音波) ④ラジオ波(高周波) ⑤吸引(カッピング) ⑥冷却痩身 ⑧アロマオイル ⑨自然派化粧品(オーガニック) ⑩海外化粧品(以下からお選びください。) ・アメリカ ・ヨーロッパ ・韓国 ・中国 ・その他() ⑪その他()	①光を使用した脱毛 ②イオン導入 ③キャビテーション(超音波) ④ラジオ波(高周波) ⑤吸引(カッピング) ⑥冷却痩身 ⑧アロマオイル ⑨自然派化粧品(オーガニック) ⑩海外化粧品(以下からお選びください。) ・アメリカ ・ヨーロッパ ・韓国 ・中国 ・その他() ⑪その他()
貴施設における	治療の有無	①有 ②無	①有 ②無	①有 ②無	①有 ②無
	内容	①指導のみ ②検査 ③投薬 ④手術 ⑤その他()	①指導のみ ②検査 ③投薬 ④手術 ⑤その他()	①指導のみ ②検査 ③投薬 ④手術 ⑤その他()	①指導のみ ②検査 ③投薬 ④手術 ⑤その他()
	治療期間(日数)	入院 日 ・ 外来 日	入院 日 ・ 外来 日	入院 日 ・ 外来 日	入院 日 ・ 外来 日
	転帰	①治癒 ②軽快 ③不変 ④悪化 ⑤不明	①治癒 ②軽快 ③不変 ④悪化 ⑤不明	①治癒 ②軽快 ③不変 ④悪化 ⑤不明	①治癒 ②軽快 ③不変 ④悪化 ⑤不明

衛生管理状況に関するアンケート調査 調査票

貴サロン名	
ご記入者肩書き・氏名	
ご連絡先電話番号	

★貴サロンの経営タイプは?(該当するもの1つに○)

①直営の多店舗(全 店舗)	②フランチャイズ加盟店
③個人経営の単店舗	④その他()

★貴サロンのエステティック営業形態は?(該当するもの1つに○)

①エステ専門店	②理容室と併設	③美容室と併設
④化粧品店と併設	⑤スポーツ施設と併設	⑥医療施設と併設
⑦その他()		

★貴サロンのエステティシヤンの人数は?

エステティシヤン(人)

★貴サロンで提供しているサービスは?(該当するものすべてに○をしてください)

①フェイシャルエステティック	②ボディエステティック
③痩身エステティック	④脱毛エステティック
⑤その他()	

★ご自身のサロンで使用している機器すべてに○をしてください。一番使用頻度の高い機器に◎をしてください。

①美容ライト脱毛	②高周波(ラジオ波)	③イオン導入	④吸引 (カッピング)
⑤キャビテーション (超音波)	⑥エレクトロポレー ション	⑥冷却痩身	

★◎をした機器の使用頻度が高い理由は何ですか?

①効果あるから	②施術プログラムに 入れやすい	③機器の価格が高 いから	④機器の価格が安い から
⑤安全に施術がし やすい	⑥掃除がしやすい	⑦その他()	

★新しく機器や化粧品を導入する際 安全性はどのように確認していますか?

①メーカーの資料	②営業マンの説明	③医師など学識者 の意見	④実際に使ってみて 確認
⑤既に使用している サロンの意見	⑥インターネット	⑦その他()	

★サロンの衛生管理を行うに当たってお困りのことがあればご記入ください。

--

Q サロンの衛生管理について貴サロンで実行している項目に()内に○をつけて、★の設問にご回答ください。

()	1	衛生管理責任者を決めている
()	2	定期的に衛生管理の講習や勉強会を行っている
()	3	衛生管理のマニュアルがある
()	4	衛生管理のチェックシートがある
()	5	タオルの消毒を行っている
		★どんなことをしていますか(該当する①～⑦全てに○をつけてください) ①使い捨てタオルの使用 ②リネン業者に委託 ③洗剤での洗濯 ④材質にあわせた消毒液による消毒 ⑤煮沸消毒 ⑥蒸気消毒 ⑦その他 ()
()	6	ベッドとヘッドレストの消毒を行っている
		★どんなことをしていますか(該当する①～⑥全てに○をつけてください) ①使用都度交換するタオルを敷いている ②1日1回交換するタオルを敷いている ③使用都度消毒用エタノールで拭いている ④毎日1回消毒用エタノールで拭いている ⑤使い捨てのカバーを敷いている ⑥その他 ()
()	7	皮膚に接する機器は、ガラス、合成ゴム、金属などの材質に合わせて全て消毒している
		★消毒していない場合の理由はなんですか?(該当する①～④すべてに○をつけてください) ①消毒方法がわからない ②消毒の必要がないから(例えば何ですか)) ③消毒の効果がわからない ④消毒が面倒
()	8	スポンジパフは適正に消毒している
		★(具体的な消毒方法:)
()	9	洗顔ブラシ、ハケは適正に消毒している
		★(具体的な消毒方法:)
()	10	施術者の手指は石鹸でよく洗い、速乾性擦式清拭消毒剤などで消毒している
()	11	消毒済みの器具類は使用済みのものと区別して収納している
()	12	血液・体液の付着した使い捨て用品等の専用の廃棄容器がある
()	13	施術に伴って生ずる廃棄物は蓋付きの専用容器に入れて適正に処理している
()	14	器具類、布片類などの保管場所は1週間に1回以上清掃を行っている
()	15	トイレは常に清潔に保持し、定期的に殺虫および消毒している
()	16	化粧品の開封日を管理している
()	17	化粧品の小分けには清潔なスパチュラを使用している
()	18	小分けしたり混合したりした化粧品は使用期間を決めて使用している
()	19	施術者の健康状態や手指の傷の有無を毎日確認している
()	20	施術者は顔面の施術の際にマスクを着用している
()	21	従業員には1年に1回、健康診断を受診させている

★手洗いについてそれぞれの項目であてはまるものに○をつけてください。(それぞれの項目で○は一つ)

●出勤時に	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●開店前の清掃後に	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●施術前に	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●施術中に	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●施術直後に	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●器具類の洗浄、消毒後	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	
●外出から帰ってきたら	①流水のみ	②流水と洗剤	③消毒のみ	④流水、洗剤 消毒
	⑤何もしない	洗剤時間	①5秒 ②15秒 ③30秒 ④1分	

★従業員(経営者等を含めて)の体調に異常(発熱、下痢等)があった場合の対処についてあてはまる項目に○をしてください。(○は一つ)

- ①すみやかに医療機関を受診させ、他者への感染の恐れがある場合は治療するまで休ませる
- ②医療機関の受診は本人の判断とするが、自宅療養させ、症状がなくなるまで休ませる
- ③症状が軽度であれば、マスクを着用させ施術を行わせる
- ④症状が軽度であれば、マスクを着用させ勤務は認めるが施術は行わせない
- ⑤その他()

★従業員の爪の周りに異常(傷、ささくれ、イボ、水泡等)があった場合の対処についてあてはまる項目に○をしてください。(○は一つ)

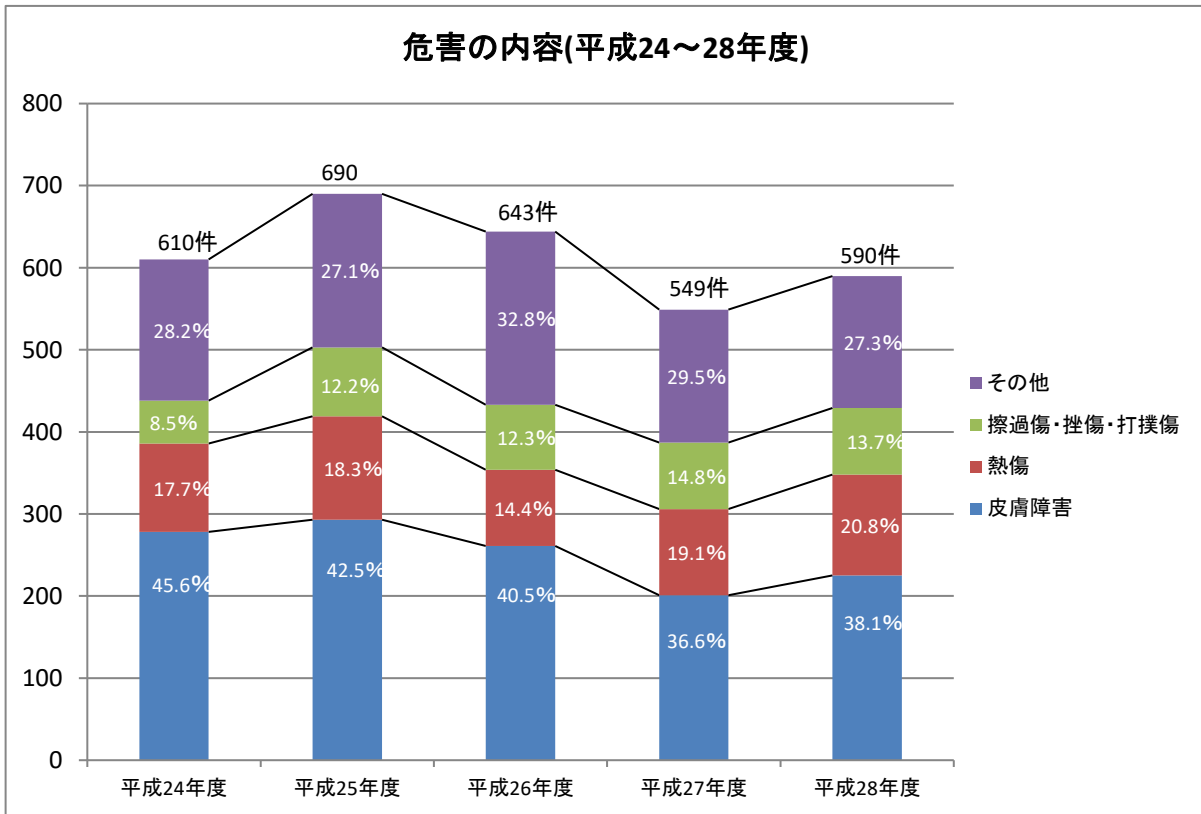
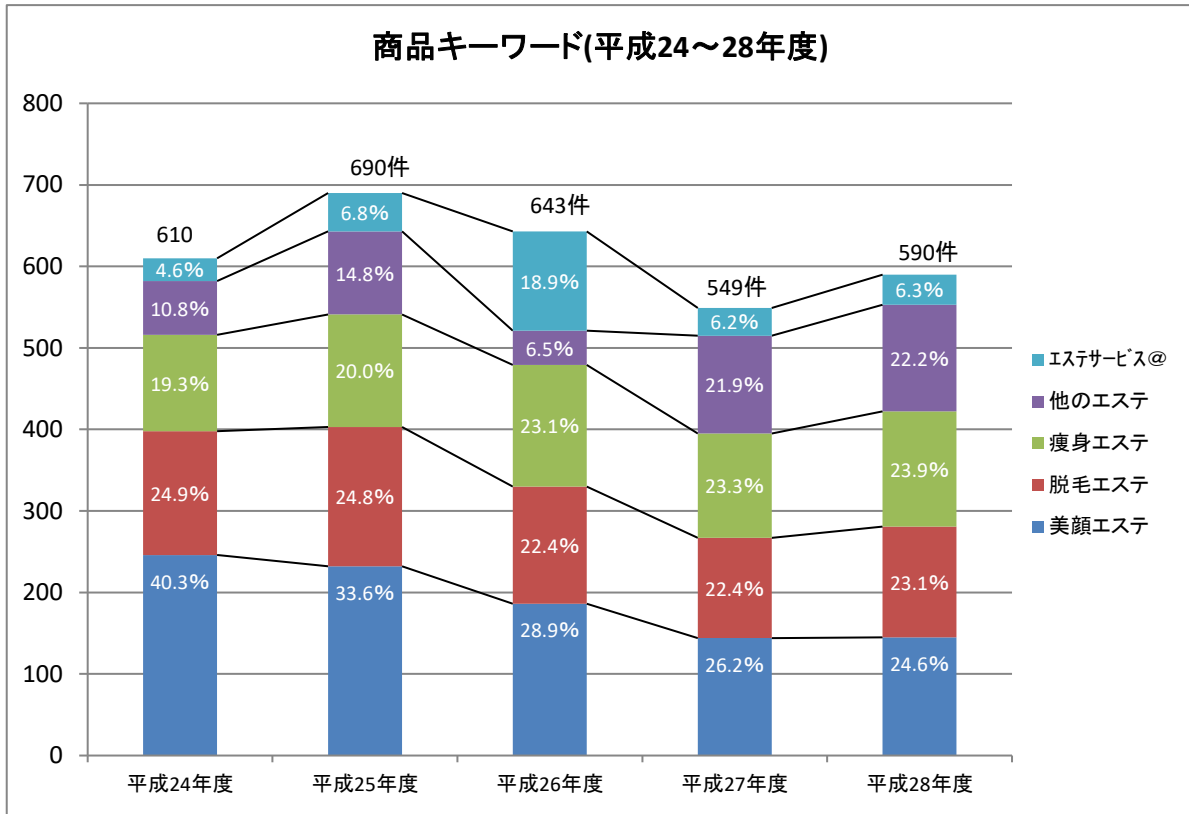
- ①施術を行わせない
- ②手袋をして施術を行わせる
- ③絆創膏を貼るなどして施術を行わせる
- ④その他()

★過去1年間 下記に該当する申し出をしたお客様は何人ぐらいいましたか?(施術をお断りした方を含みます。)

アレルギー		疾患	
●花粉症 名	●金属 名	●糖尿病 名	●悪性腫瘍 名
●喘息 名	●光線過敏 名	●高血圧 名	●リンパ浮腫 名
●アトピー 名	●食物 名	●心臓病 名	
●蕁麻疹 名	●薬物 名	●膠原病 名	
●化粧品 名	●ラテックス 名		
		●更年期障害 名	
		●精神疾患 名	

※お忙しいところご協力ありがとうございました。

独立行政法人国民生活センター PIO-NET(平成24年度～28年度)
「エステティック」カテゴリー 危害相談 集計結果



エステティックサロンにおける健康被害 実態調査 結果

回収総数 166

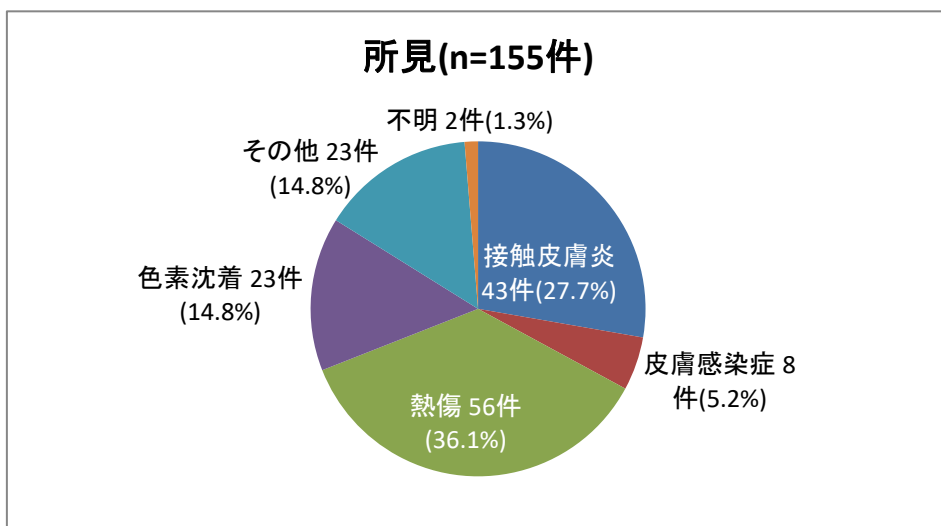
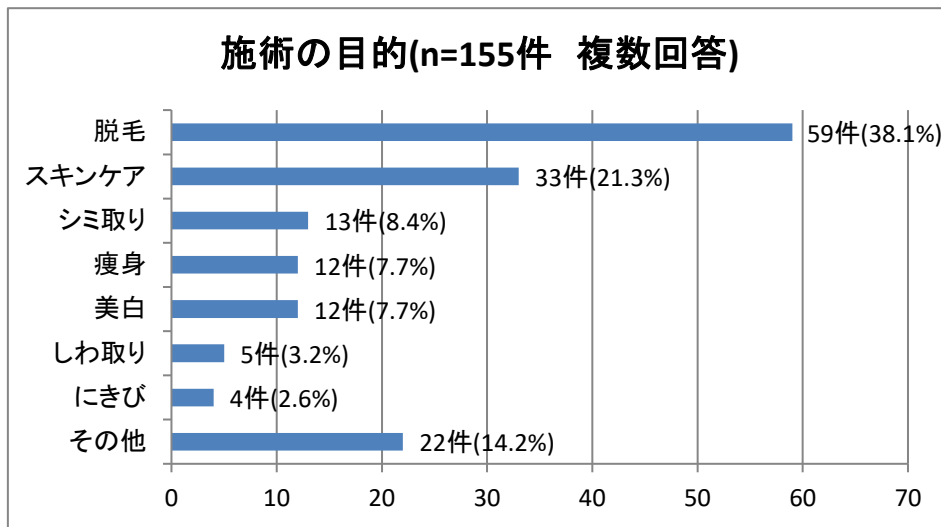
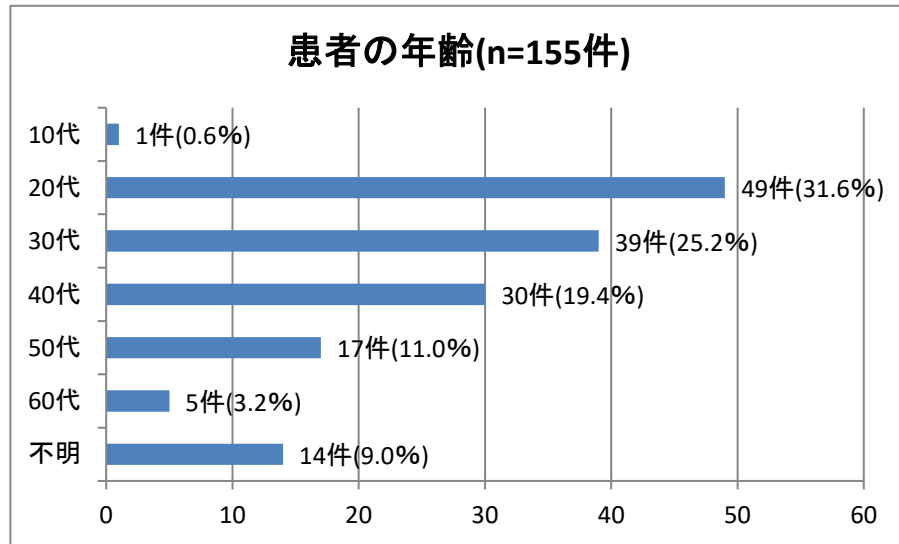
症例数 155

健康被害の有無

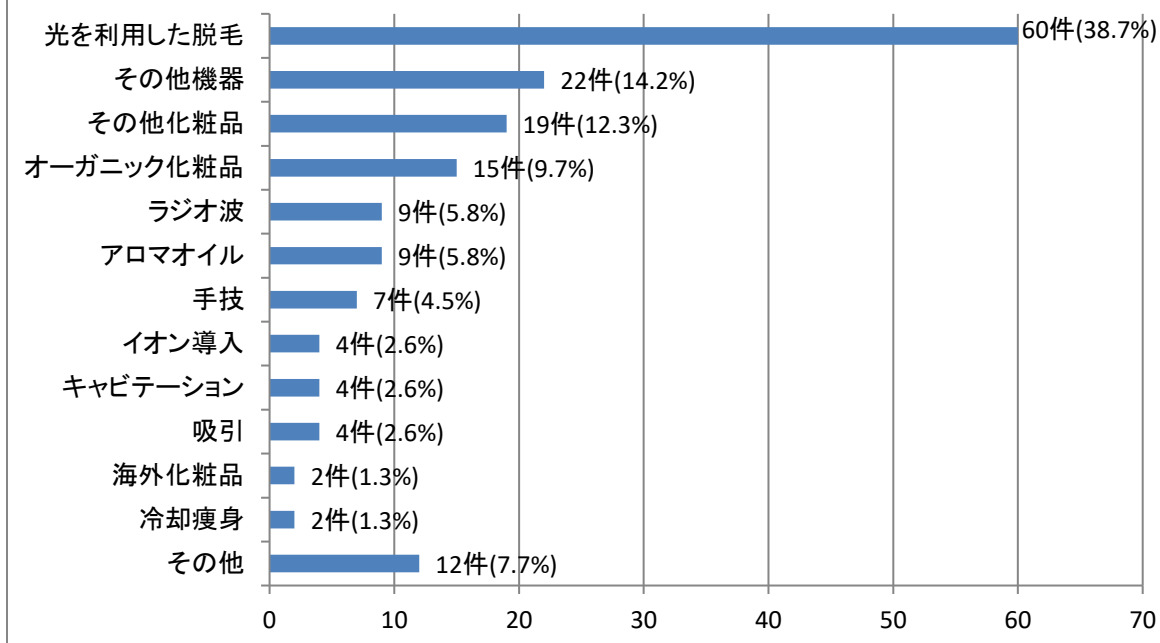
有	77	46.4%
無	89	53.6%
合計	166	

性別

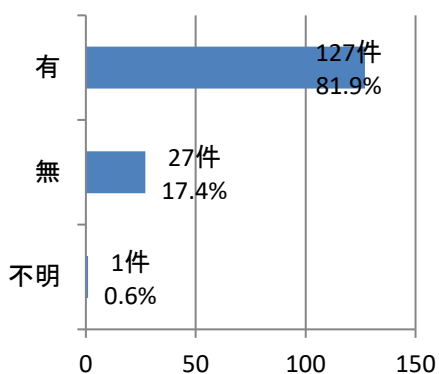
女性	146	94.2%
男性	7	4.5%
不明	2	1.3%
合計	155	



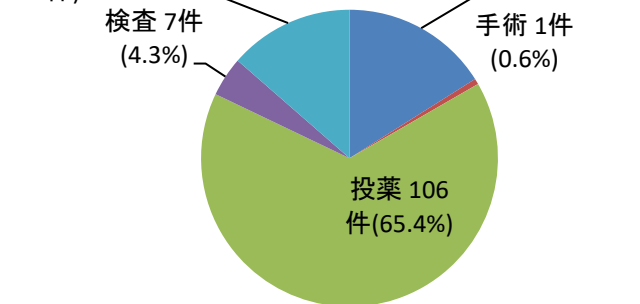
健康被害の原因(n=155件 複数回答)



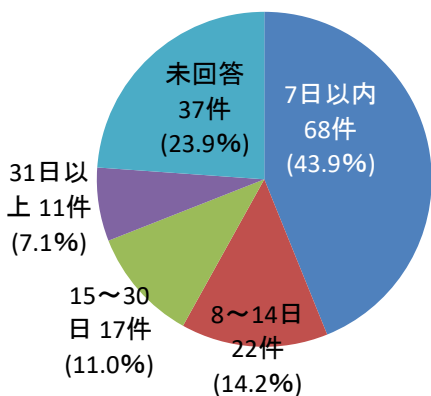
治療の有無(n=155件)



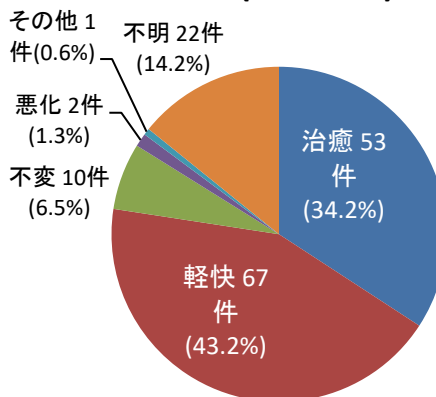
治療内容(複数回答)



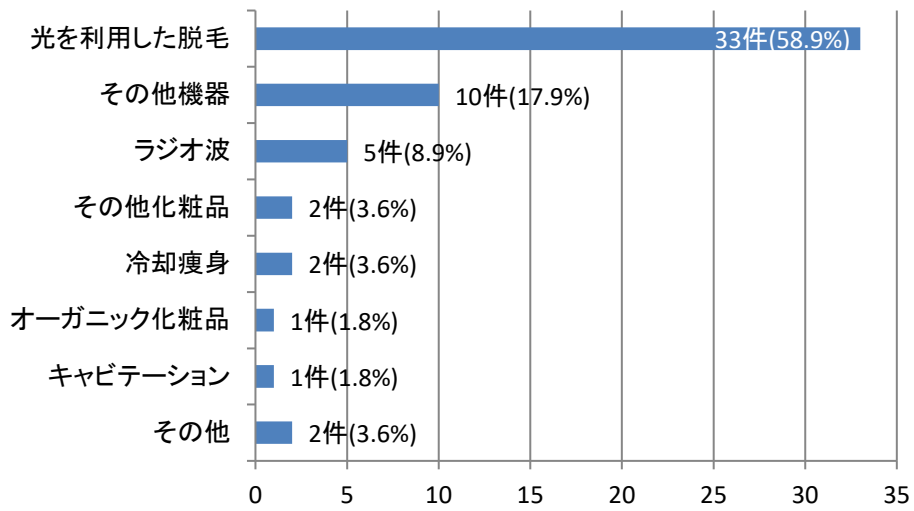
治療期間(n=155件)



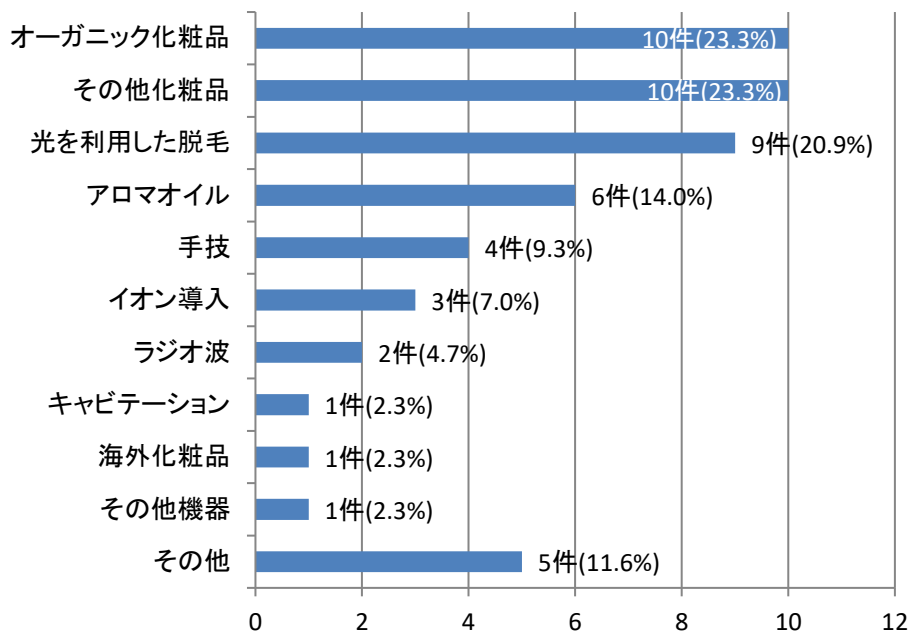
転帰(n=155件)



熱傷の原因(n=56件)



接触皮膚炎の原因(n=43件 複数回答)



慢性疾患患者に対するアンケート調査結果(アトピー性皮膚炎患者)

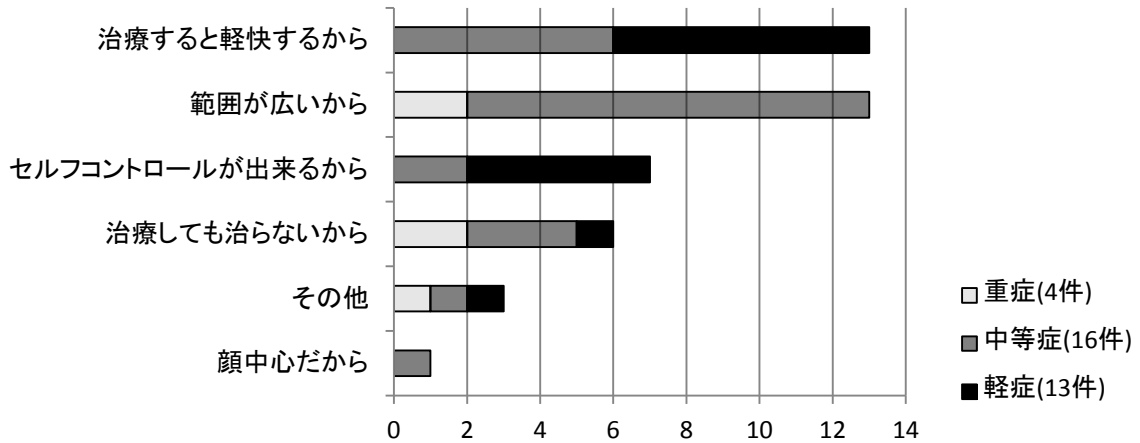
回収総数	33名
女性	27名
男性	6名

年齢層	平均年齢	36.2歳
	10歳代	1名
	20歳代	4名
	30歳代	20名
	40歳代	6名
	50歳代	2名

エステティックの経験

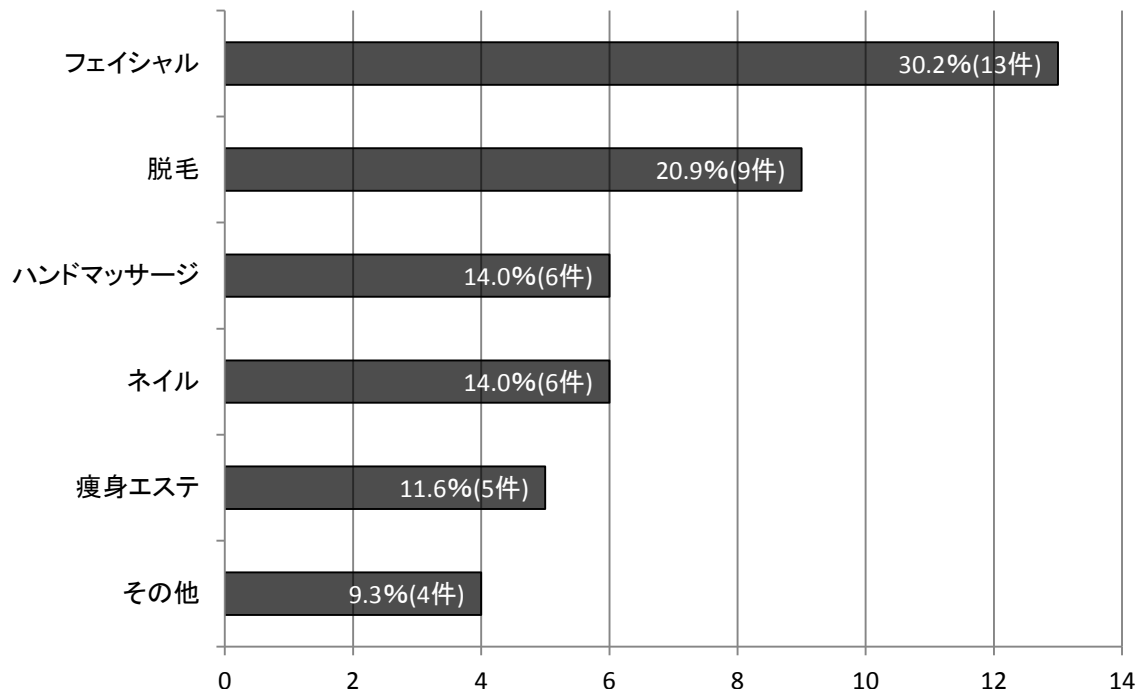
あり	18件	54.5%
なし	15件	45.5%

アトピー性皮膚炎自己評価(n=33件 複数回答)

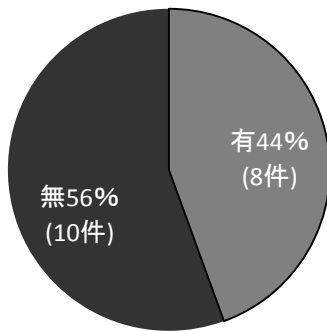


	顔中心だから	その他	治療しても治らないから	セルフコントロールが出来るから	範囲が広いから	治療すると軽快するから
重症(4件)	0	1	2	0	2	0
中等症(16件)	1	1	3	2	11	6
軽症(13件)	0	1	1	5	0	7

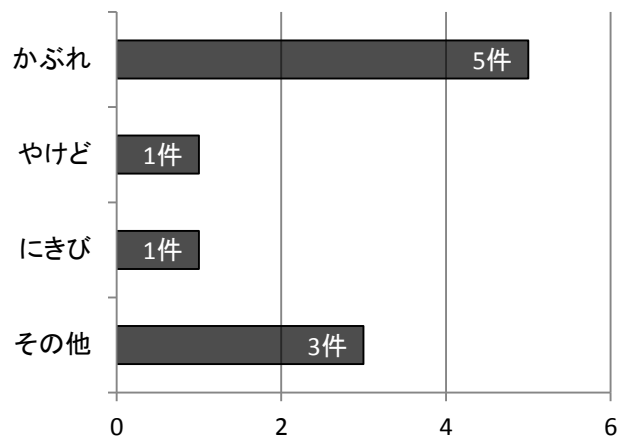
経験した施術の内訳(複数回答 n=43件)



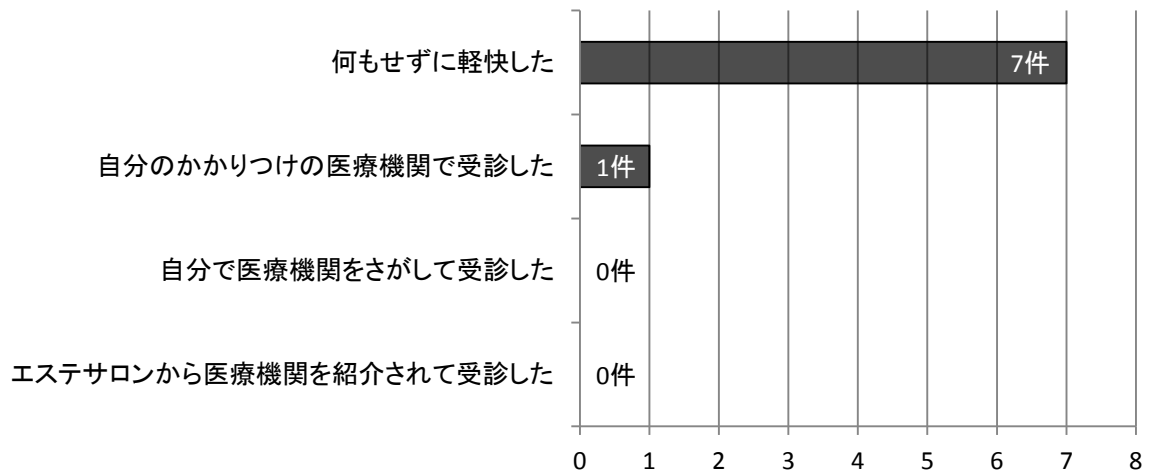
施術による皮膚トラブル経験 (n=18件)



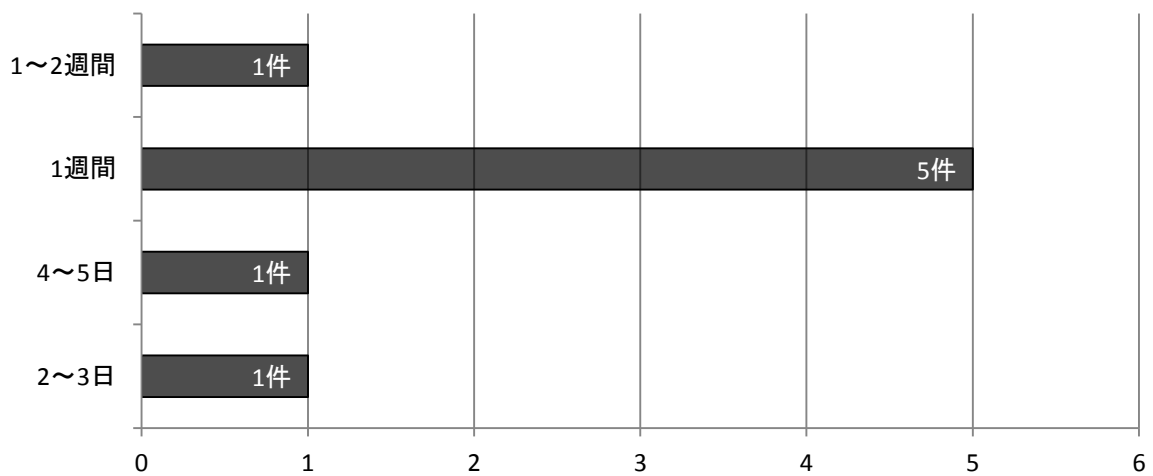
皮膚トラブルの内訳(複数回答n=9件)



トラブルがあった時の対処法(n=8件)



治癒するまでの期間(n=8件)



慢性疾患患者に対するアンケート調査結果(アトピー性皮膚炎患者)

フリーコメント

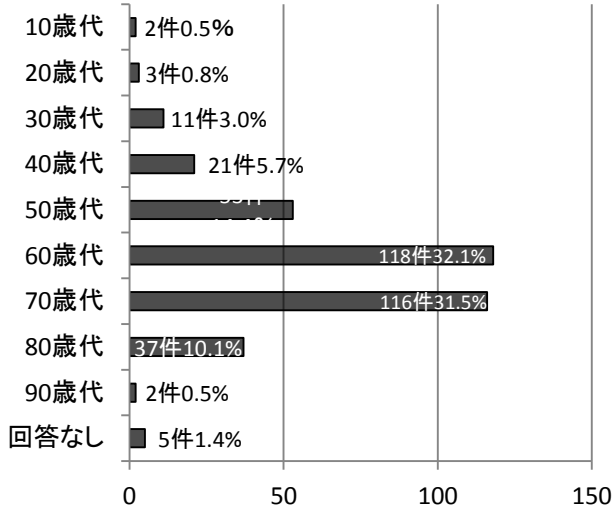
<p>・アルコール系が入っているものなどあわないとかゆくなります。薬も飲んでるので1週間で体の方はなおります。顔は別。</p>
<p>・フェイシャルエステは年に1、2度受ける程度ですが、まつ毛パーマはよく美容室でかけます。リスクがあるのは知っていますが、メイクが楽になるので、ついついかけてしまいます。</p>
<p>・肌の状況がくわしく聞けたので良かったです</p>
<p>・顔に症状がでにくいのでエステ時にはあまり困ることがない。首元などがあれている時はさけるなどきちんと対応してもらえている</p>
<p>・今までエステティックの施術を受けたことがない為よくわからないのですが、効果の根拠等はしっかり確認したほうが良いと思います。</p>
<p>・今のところ必要としていないので行こうと思った事がないです。</p>
<p>・ひどい時は絶対受けたくないの、最近難しいし何かあると怖いのであまり興味はない。</p>
<p>・精神科の薬の副作用で、にきび、ふきでもの等の症状があります。エステのトラブルはTV等で耳にしますが、高級だし自分に合ってなくて肌に一生残る様なトラブルでは済まされない事があると他人事とは思えません。</p>
<p>・自分の症状では病院以外で治療しようとは思いませんでした。いままでエステティック施術を受けたことはないです。</p>
<p>・危ない時もあったと思います。都度都度施術する方ときっちり話をして施術してなければ、私もやけどetcあったと思うと怖い。現在はリラクゼーション目的のみで通っていますが、やはりその日その日の体調をしっかり聞いてくれるサロン以外での施術はこわいの一言です。中国、韓国の方々がやっているサロンには絶対行ってはダメだと思います。</p>
<p>・器具や薬品的なものをを用いることには不安を感じます。</p>
<p>・ゼリーなど何が入っているか不明なので少し不安</p>
<p>・皮ふ状態が良い時に信頼できるサロンで施術するとリラックスでき明るい気分になります。トラブル防止のためにも自分の症状を正しく伝えられるようにしています。サロン側の知識と理解状況により、改善されることを期待します。</p>
<p>・アトピーについては医療機関のみを今後も利用する予定です。</p>
<p>・パーマ液でかぶれたことがあるからまつげエクステ等は興味があっても、できない。エステに行くと皮膚に異常が出たら嫌だ。又、こわいと思う。</p>
<p>・そんなに症状は強くないので、エステなども利用しますがトラブルを抱えている分施術後は少し不安がある時もあります。できるだけ、皮ふ科で行えるものは専門医に診てもらえると安心です。</p>
<p>・皮ふ症状が悪化する可能性を考えるとエステティックを受けることはないと思う。</p>
<p>・エステ体験してみたい気もするが、皮ふ状態が良くないため諦めている。</p>

慢性疾患患者に対するアンケート調査結果(糖尿病患者)

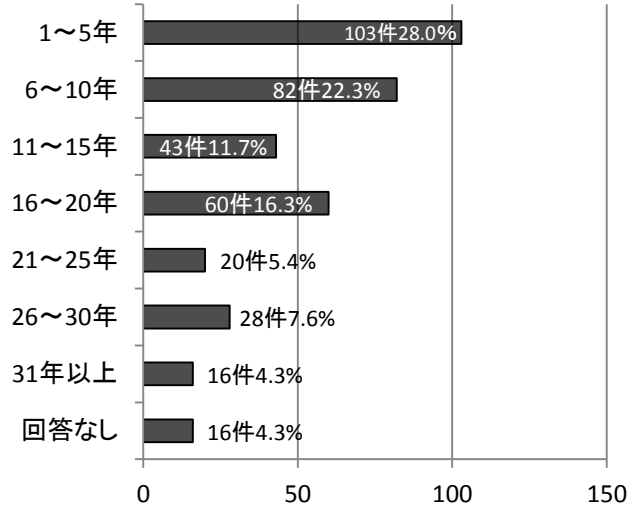
回収総数	368
1. 男性	136
2. 女性	231
3. 未回答	1

エステティックの経験	1 ない	333
	2 ある	34
	3 未回答	1
		368

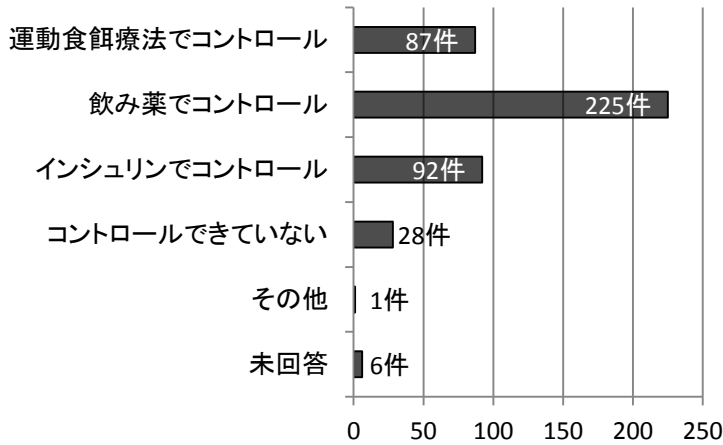
回答者の年齢層(n=368件)



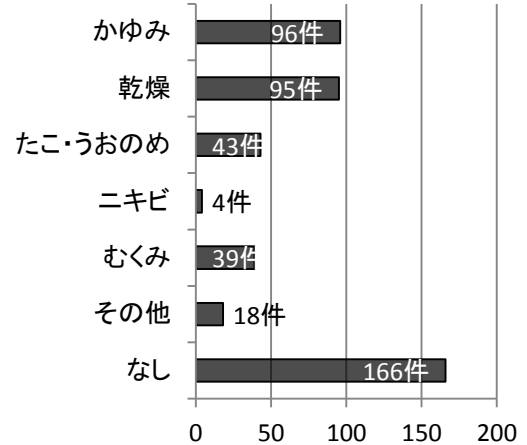
回答者の糖尿病歴(n=368件)



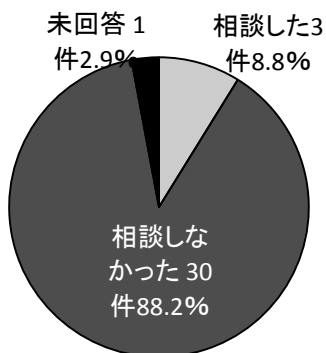
糖尿病の程度(n=368件)複数回答



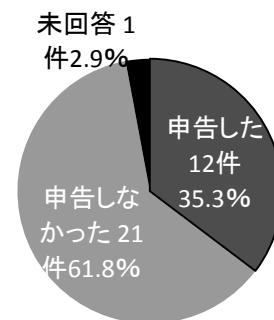
皮膚トラブル(n=368)複数回答



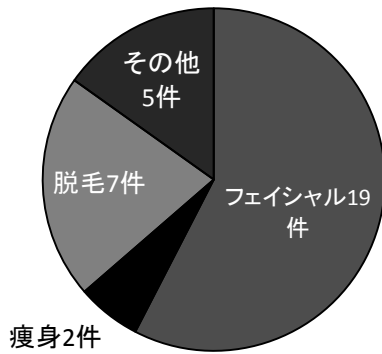
エステティックを受ける前に主治医に相談(n=34件)



エステティック技術者への糖尿病であることの申告(n=34件)



受けた施術の種類(n=34件)複数回答



皮膚トラブルの有無

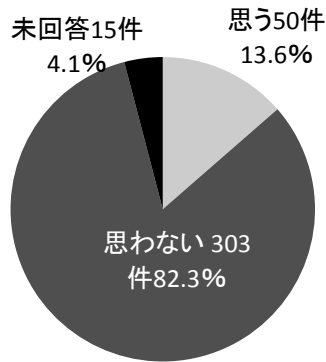
無	30
有	4



皮膚トラブルの内容

・赤くはれた
・かゆみ
・はれ
・顔が赤くなり痛くなった

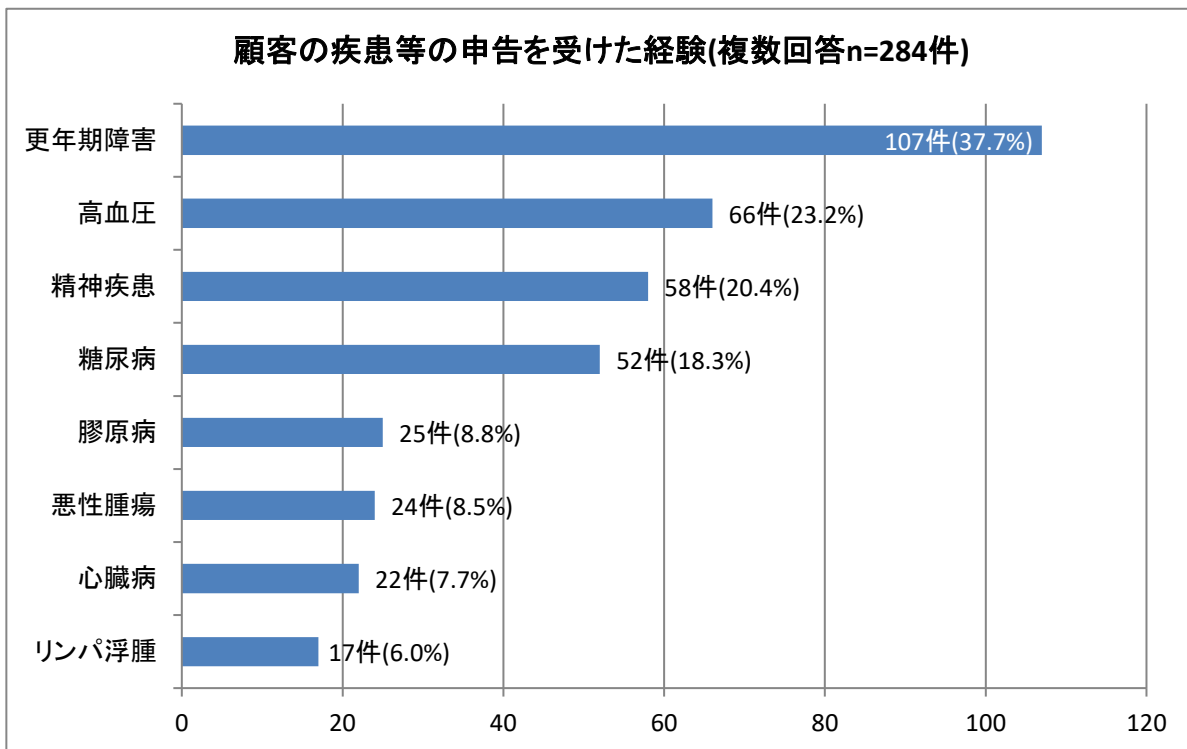
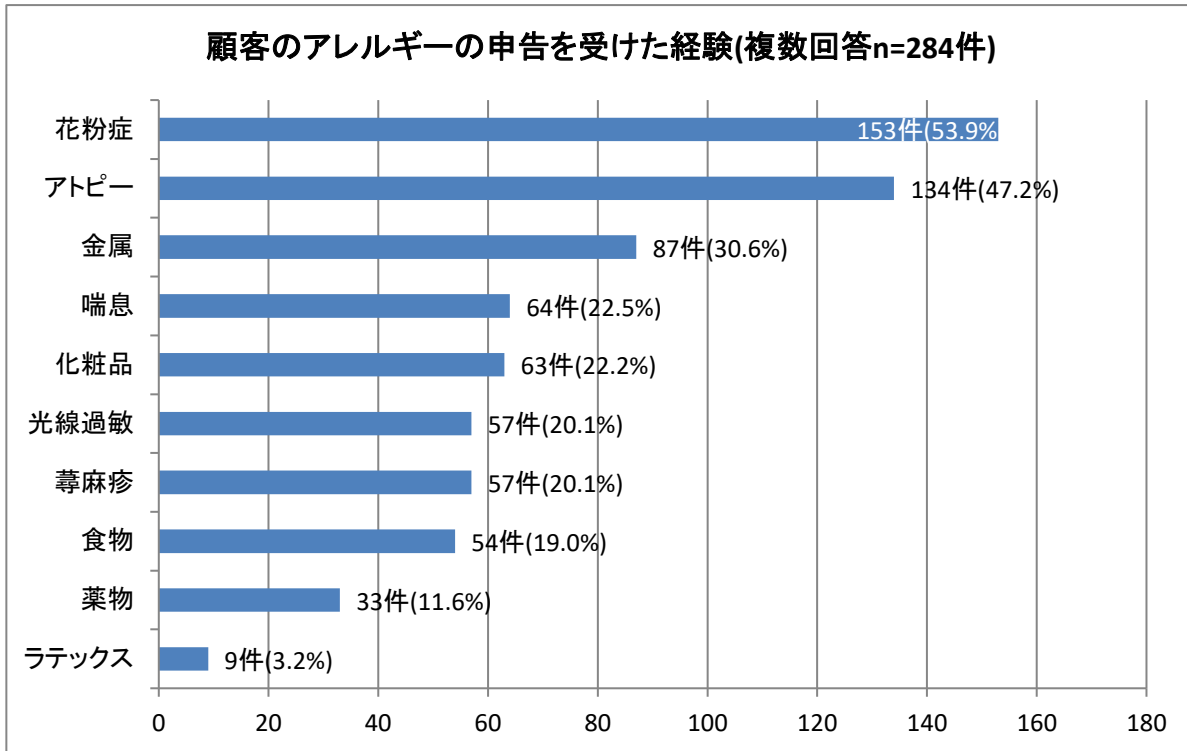
糖尿病患者に対する安全性が確認されたら定期的に受けてみたいと思うかどうか(n=368件)



フリーコメント

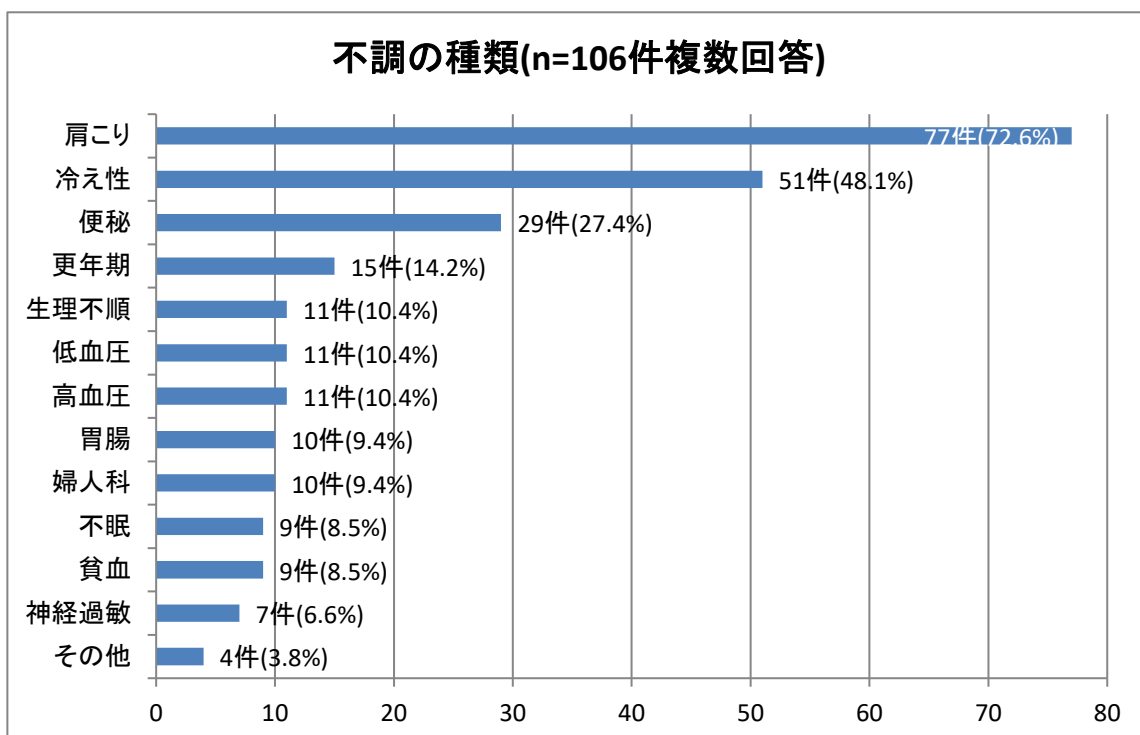
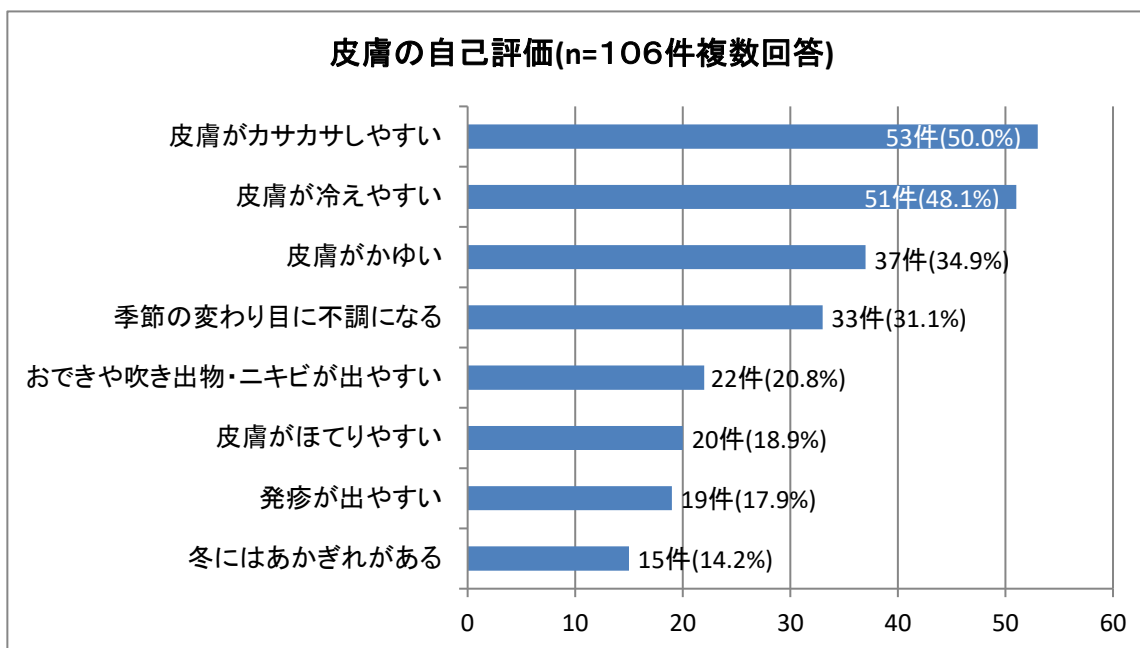
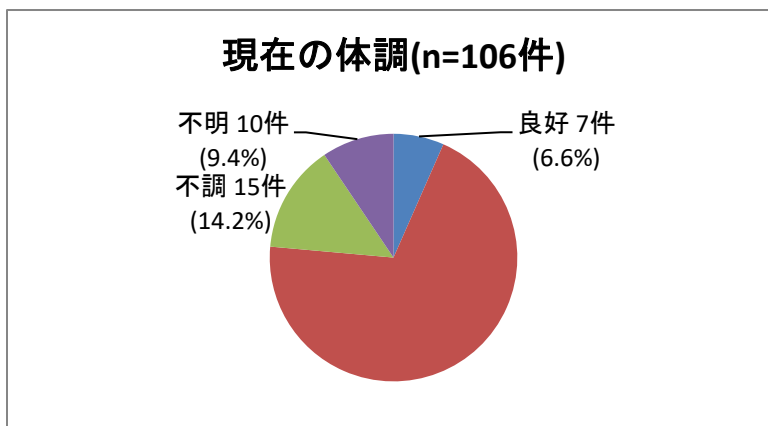
・受けられる環境にない	・高額なので必要ないと思う
・美白のエステをしてみたい	・エステにお金をかけるつもりはない
・エステを受けたことはないけれど薬局で売られているお家でエステっぽいのできるやつ(蒸気で目の疲れを取る)でも、糖尿病患者の使用は控えるようにと書かれているのは仕方ないかもしれないけれど悲しい。	・サウナスーツを着たり色々なジェルを塗ったりしても食事管理が出来なければ無理だと痛感しました。自分の意識の問題で他力では無理だと結論。
・シミ、シワを予防したい	・もっと若い時ならと思います
・時間が無いので行けない事が多いと思う。むくみや乾燥を改善出来たら良いかなと思う。	・もっと若い頃は興味があったが今年では考えたことがない。
・腰痛、肩こりの解消及びリラックス効果があるので従来のマッサージよりエステのオイルマッサージが好きです。	・心身のリラックスの為にもし受けたいと思います。
・受けるのはリラックス出来て満足感があります。しかし金銭のかかる事も多く、化粧品を買うよう勧められる等、私の場合はそれが負担になりました。	・もっと若い頃は興味があったが今年では考えたことがない。
・高額ではない優良な痩身の手伝いをしてくれるところがあれば通ってみたい	・エステは高いから受けたいと思いません
・ホテイトリメントを受けてみたいです。(たるみ、顔、)	・エステに興味がありません
・エステを受けて被害が出るとは考えてもいなかったため、自分が受けるときはきちんと相談しないとだめと知りました。	・年だからやりたくない。若ければやりたい。
・値段が高いところと安いところとありそう	・具体的イメージがわからない
	・気分のよいエステティックがあれば

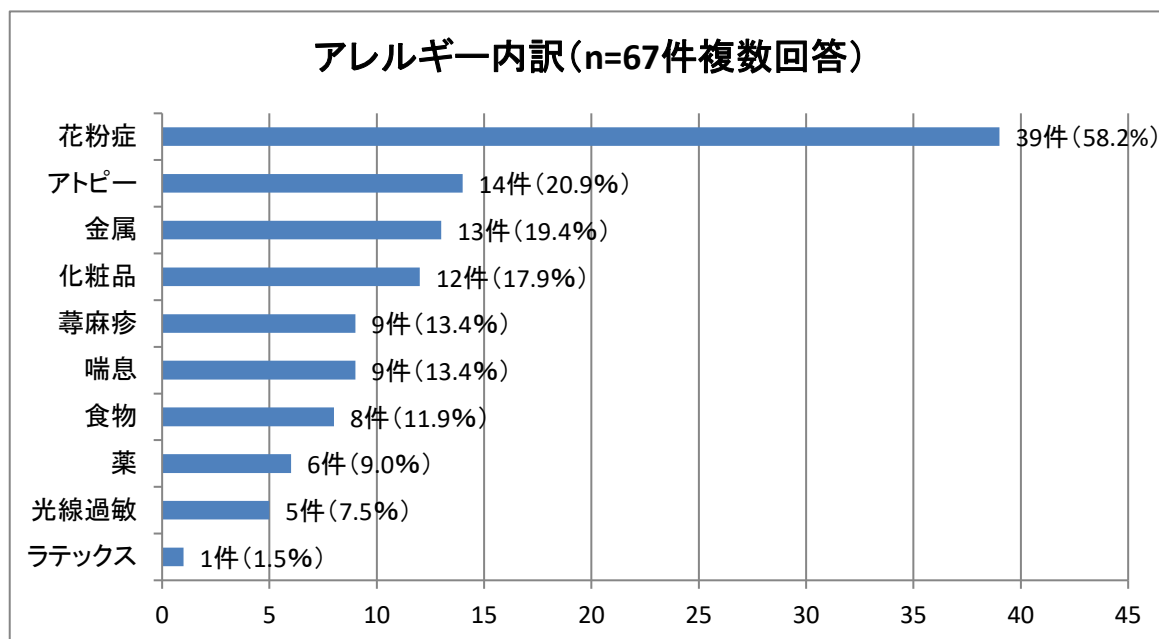
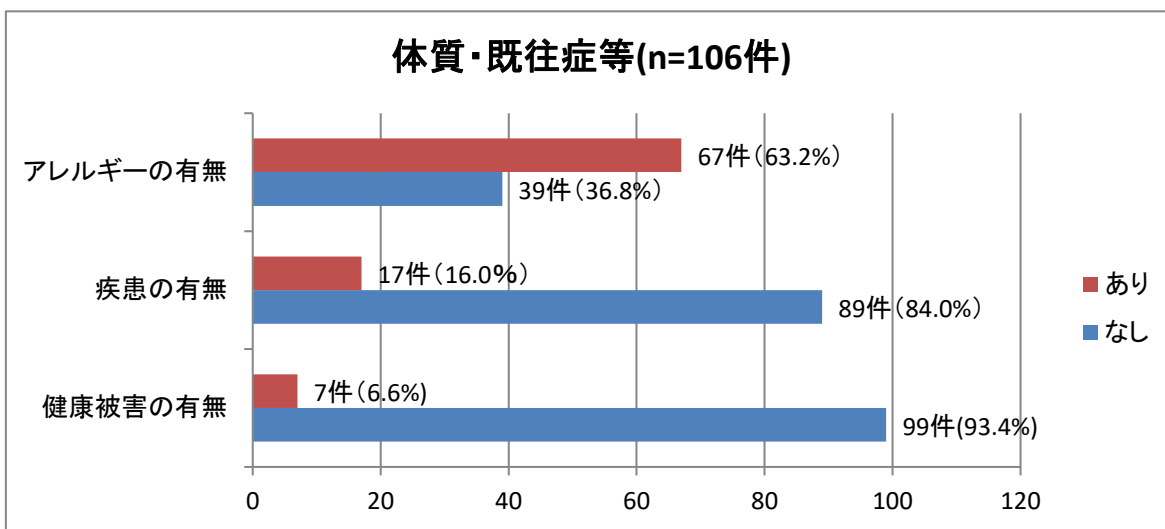
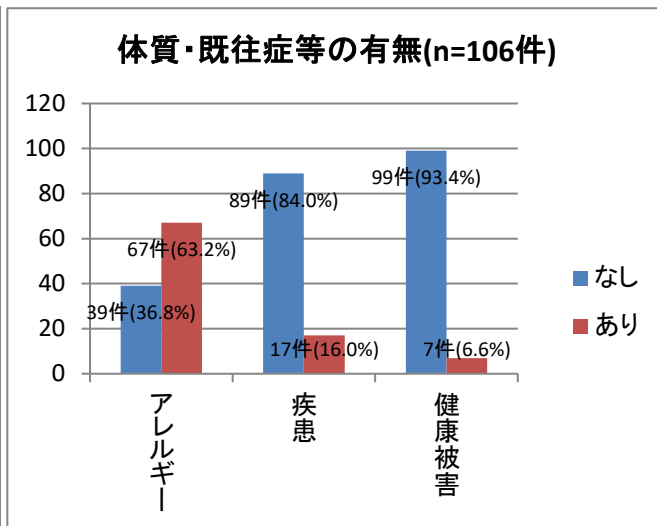
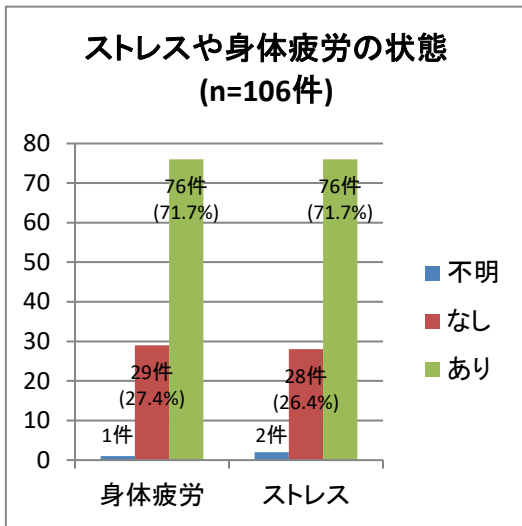
エステティック営業施設利用者が持つアレルギーや疾患等に関する調査結果(営業施設対象)



エステティック営業施設利用者が持つアレルギーや疾患等に関する調査結果(利用者対象)
 (エステティック施術の安全性向上のためのアンケート調査)

回収総数	106
男性	2
女性	104
平均年齢	45.2





★施術を受ける事で不安なこと(フリーアンサー)

自分に化粧品が合うか	押し売りをされないか。	ブラシの施術がダメです。	
・値段が高いのではない か ・押し売りされないか	高い契約をおしつけられないか心配。	高い契約をされないか不安です。	めまいがあるので長い時間のエステは不安です。
商品の説明をしっかりと聞きたいです。(他のサロンでは商品をたくさん買わされた)	化粧品等の香料で口内や喉がしびれてくる。気分が悪くなることもある。	エステを受けて5年以上になるが、今後それに伴う未知の何かが起こるか心配。	機械？などの知識がないので説明して頂けると嬉しいです。
肌に合った施術であるかどうかの説明がよく分からない時がある。図で説明を受けた時はよく分りました。	アレルギーがあるので化粧品選びなど、知識を教えてくださいエステサロンが良いと思う。	体調によりかゆみ等の症状がでる体質であり、事前に数回試すことができればと思う事があります。	「使用するオイルやタオル等で皮膚がかゆくならないか」がまずはじめに不安になります。
フェイシャルを受ける時やその後で、肌のほてりや、ヒリつき、化粧品が合わなかったら・・・という不安は少しありますが、今までそれで後日かぶれた事などはありません。	Q4 全身ボディを受けました。その後言葉に出せないくらいしんどくなりました。回復するのに1日かかりました。全身のボディは不安です。	結果が出るまでトータルでいくらかかるかが不安です。	肌の調子が悪い時のエステは、行きたいけど行きにくい・・・ってなる。

フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験 3年間まとめ

健常者群に施行したフェイシャルエステの結果、接触皮膚炎などの有害事象はなく、過敏皮膚に関しては施術による皮膚障害の可能性はあるが、通常の手順や使用方法を逸脱しなければ施術に問題はないと考える。

年齢と角層水分量、TEWL を施術前後で比較した結果、頬、鼻翼の角層水分量比及び頬の TEWL 比(施術後の測定値/施術前の測定値)に優位な相関 ($p<0.05$, Spearman) を認め、角層水分量比及び TEWL 比は年齢に応じて高くなっていた (Fig.1)。以上より、限られた部位ではあるが、高齢者の方が施術により、角層水分量が高くなるなど効果も出やすい反面、TEWL も高くなり、バリア機能低下などの影響も受けやすいと考えた。

また、20 年以上の経験のある熟練者と、経験年数の浅い技術者で、施術による皮膚への影響を比較した結果、年齢で影響のあった頬に関して、経験年数の浅い技術者のみに角層水分量比と TEWL 比に相関 ($p<0.05$, Spearman) が認められた (Fig.2)。以上から、熟練者と比較して、経験年数の浅い技術者では施術の効果を高めるにあたり、バリア機能に関してもより大きな影響を与えている可能性がある。

さらに、2 例の TEWL 比において多くの被検者と異なるデータを示したことから、化粧品、エステティック施術により、想定外の反応を起こす人がいることも踏まえ、施術に当たるよう指導する必要があると考えた。

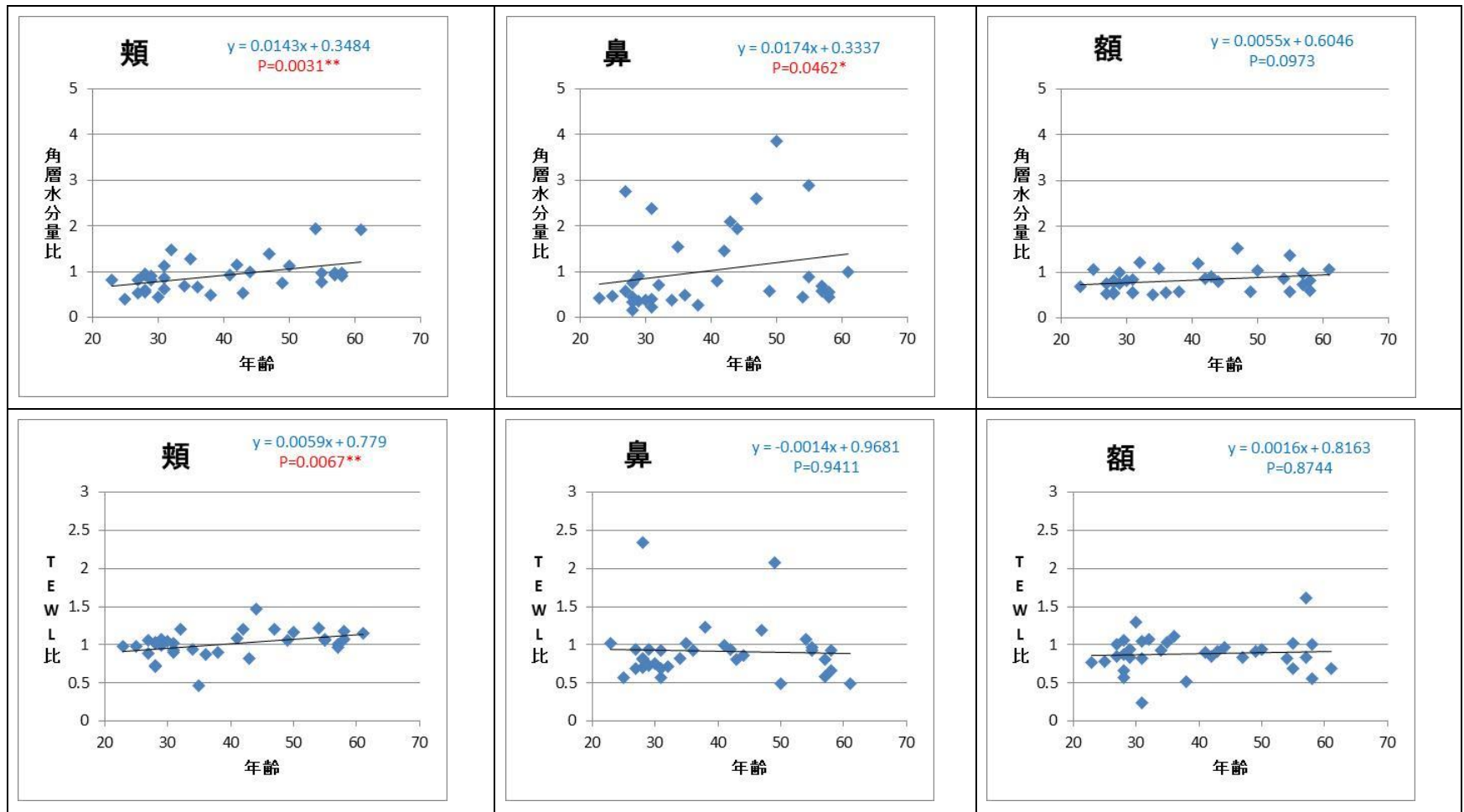


Fig.1 被験者の年齢と角層水分量比及び TEWL 比との相関

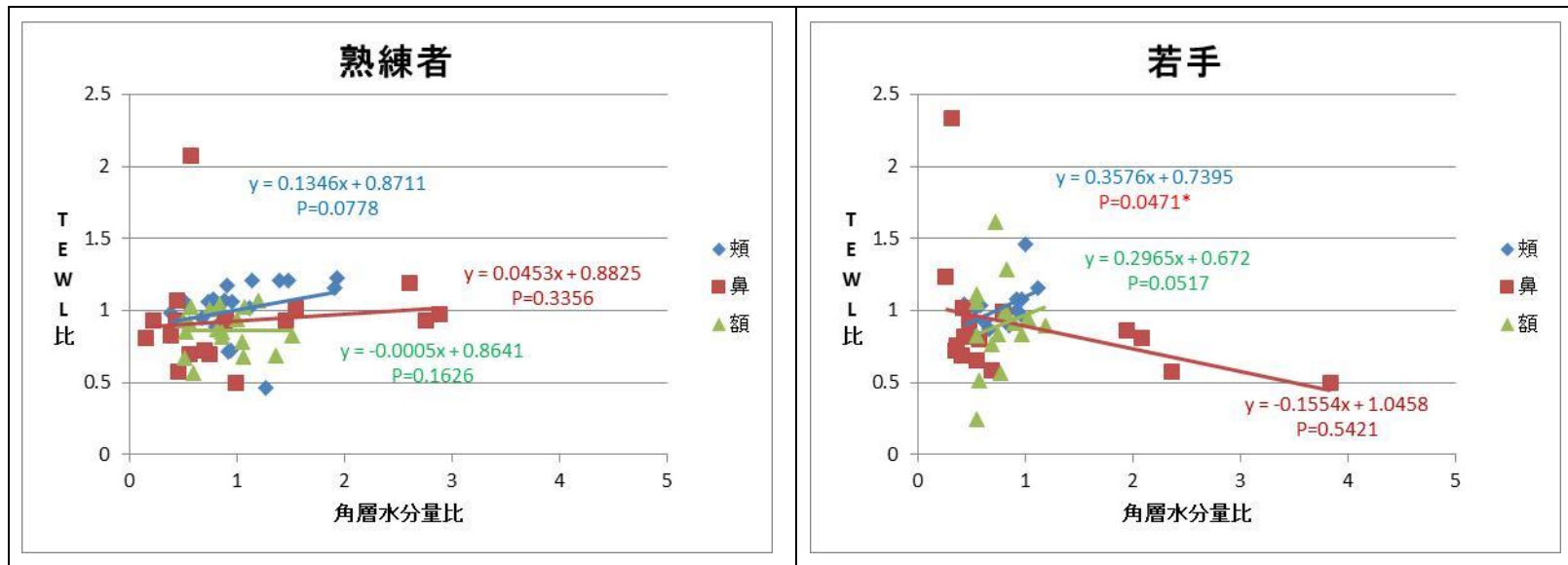
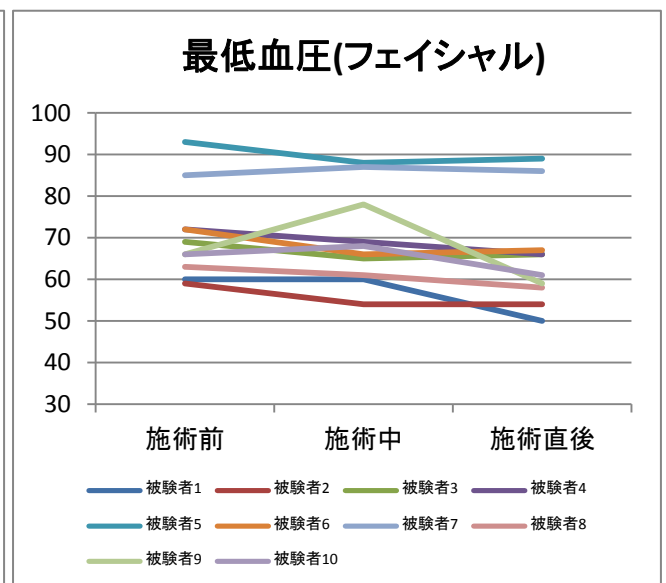
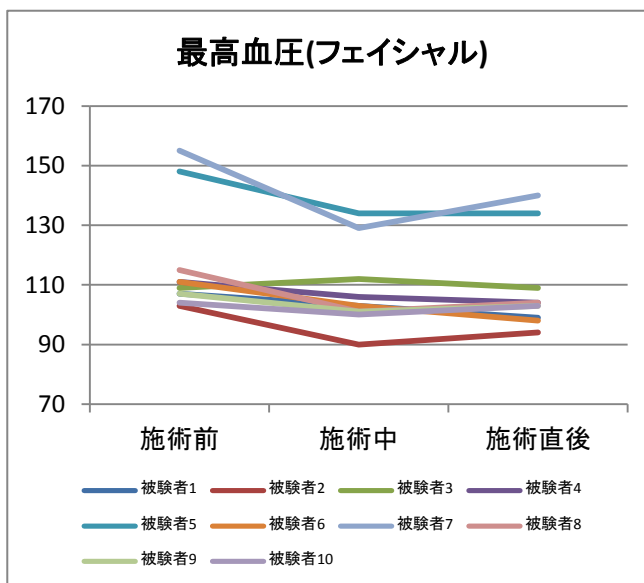
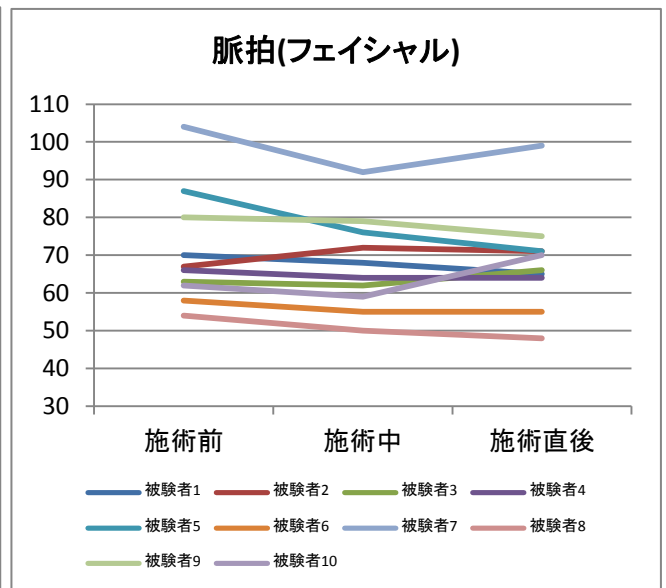
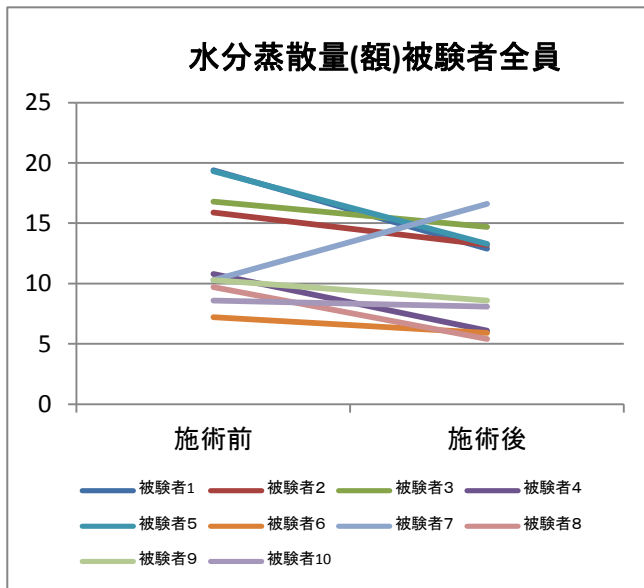
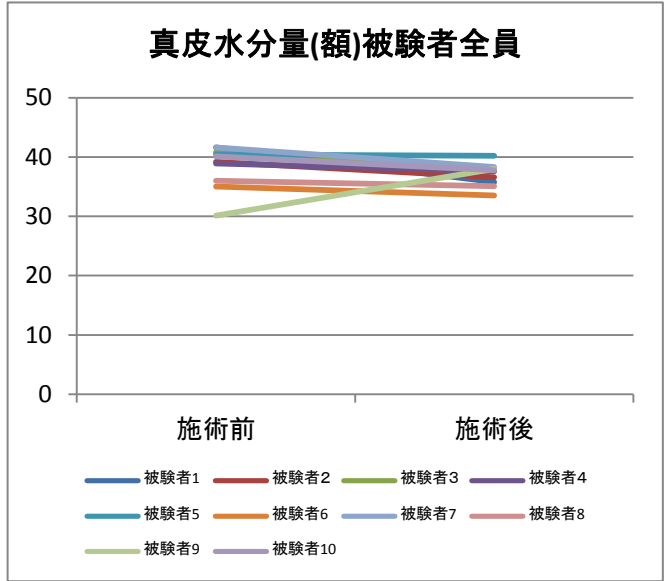
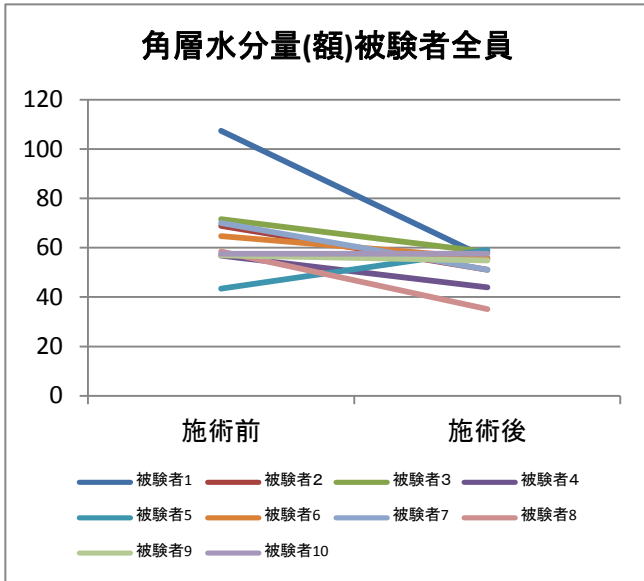
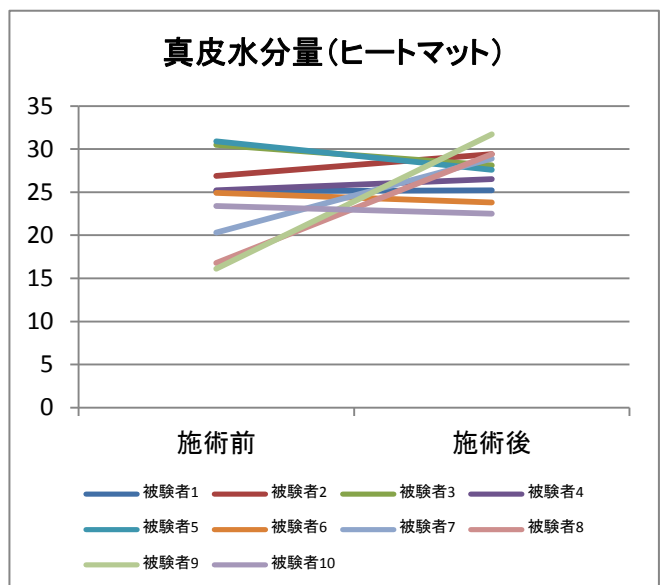
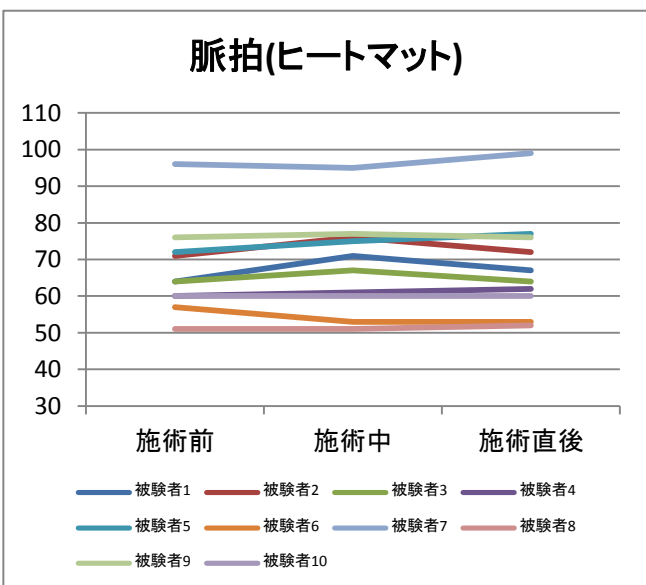
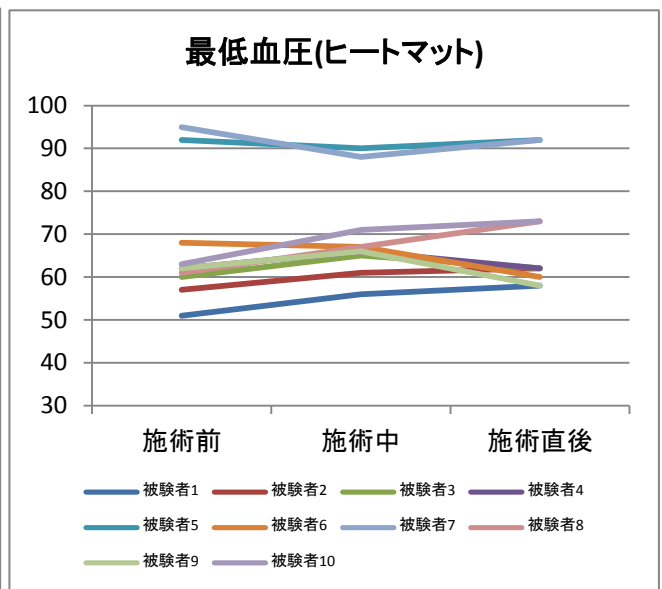
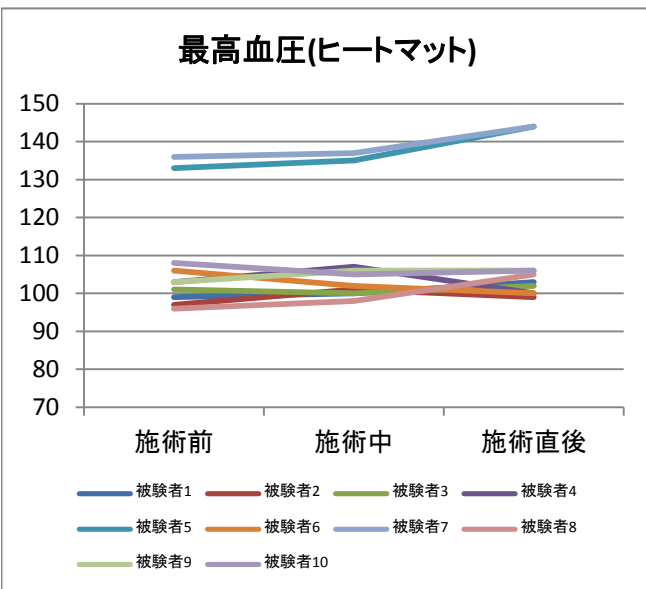
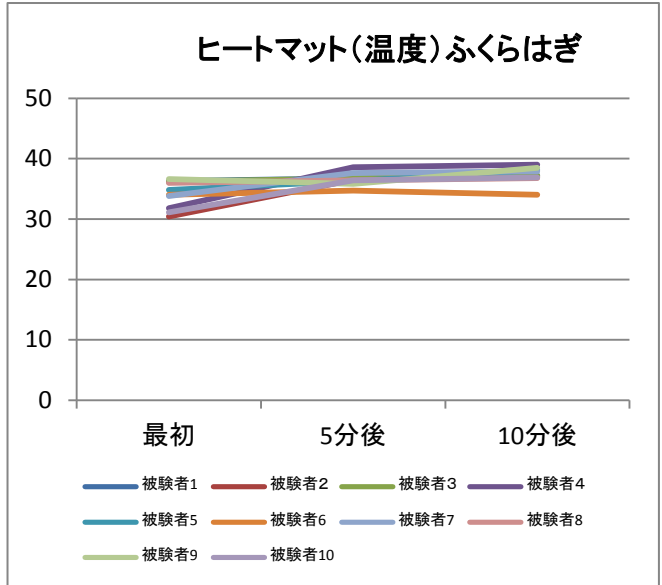
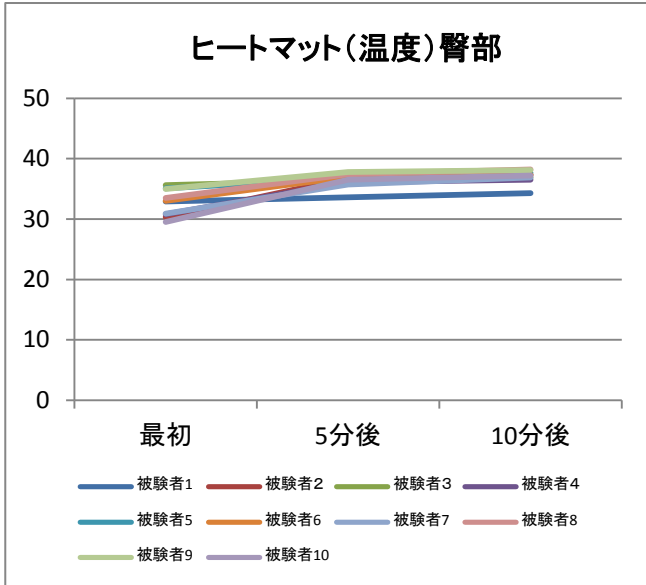


Fig.2 施術者の経験年数による角層水分量比と TEWL 比の相関

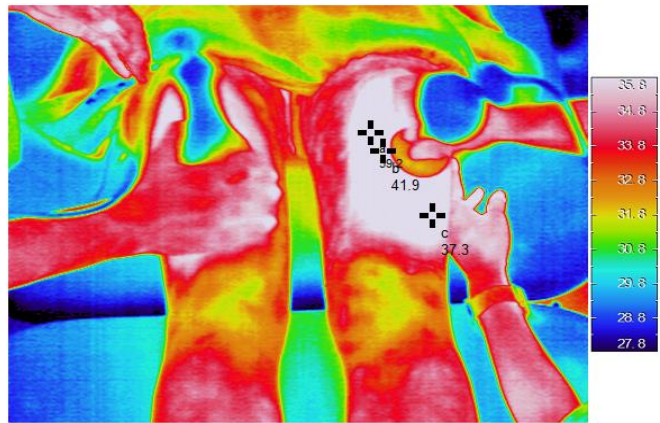
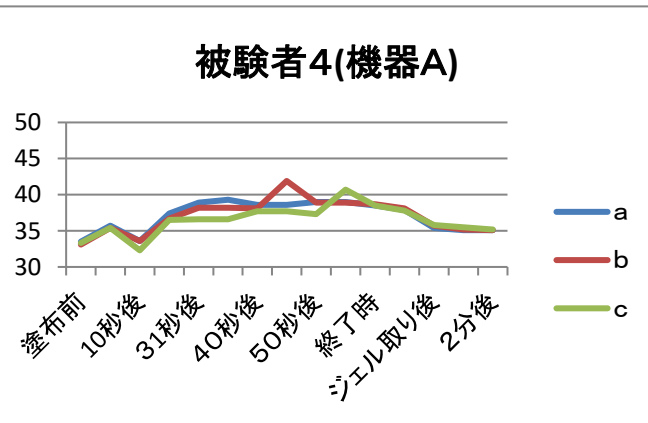
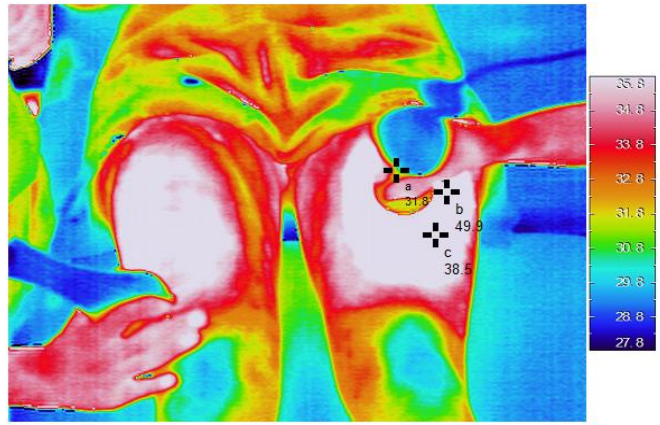
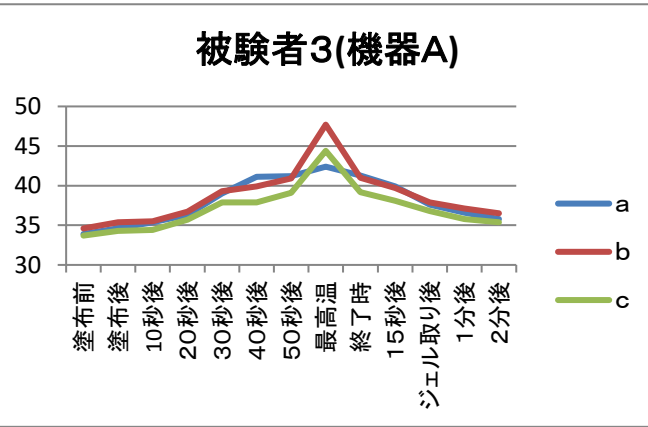
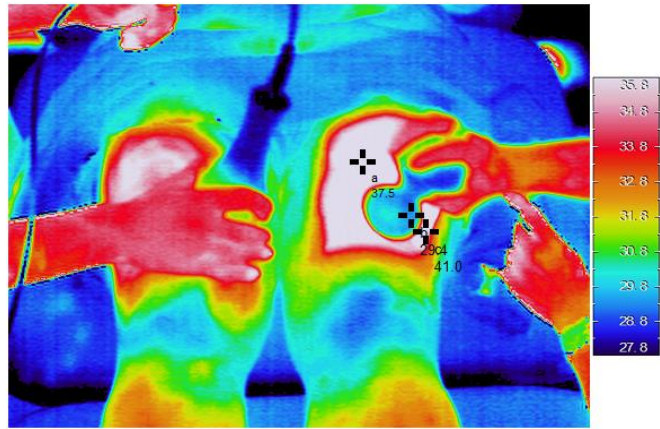
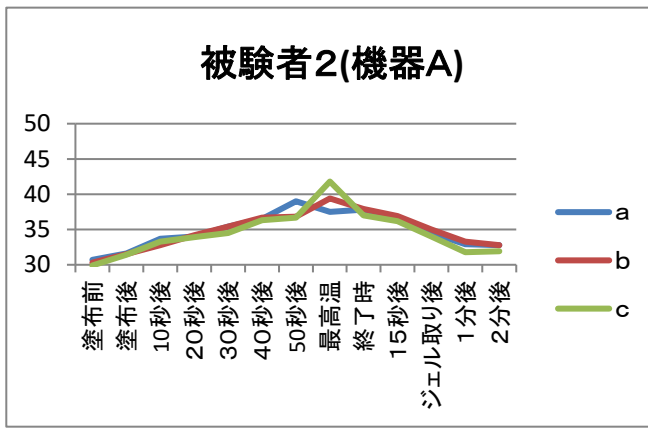
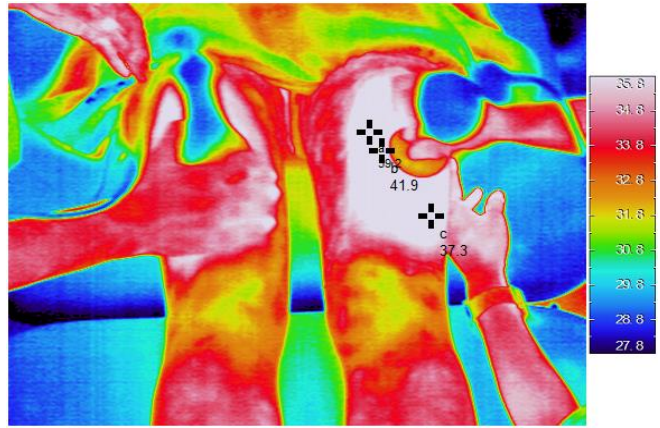
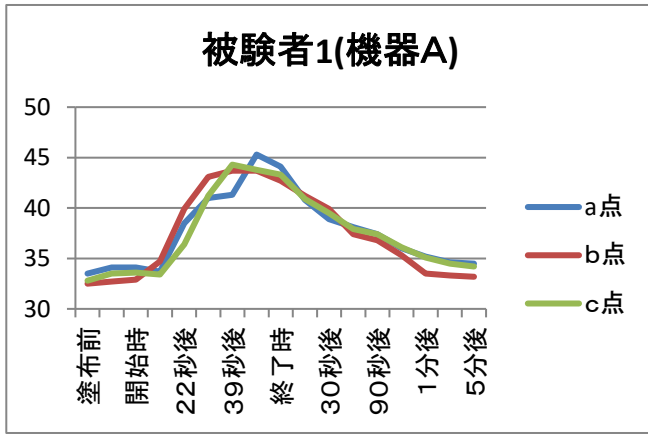
フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響試験結果



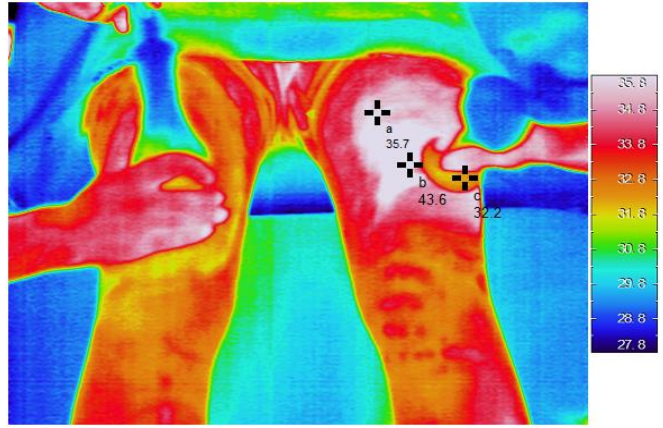
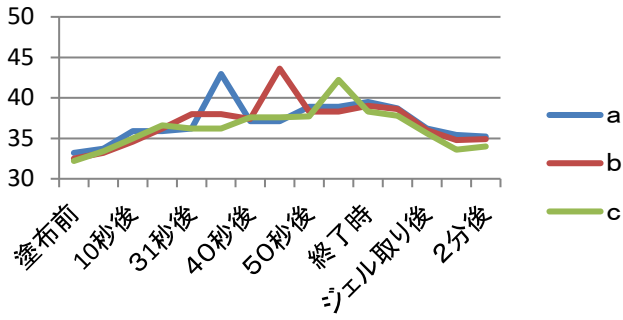
ヒートマット皮膚安全性試験結果



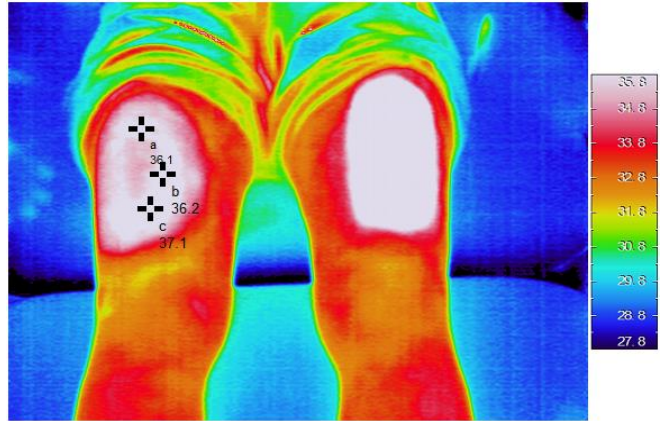
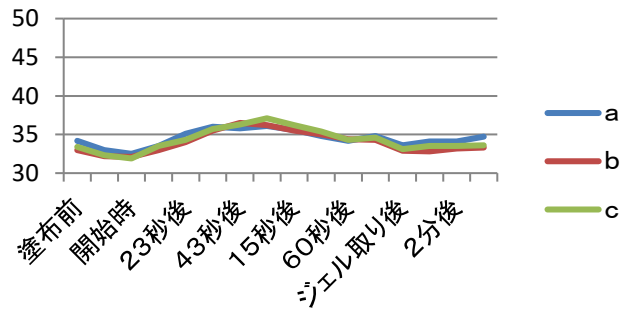
RF機器皮膚安全性試験結果



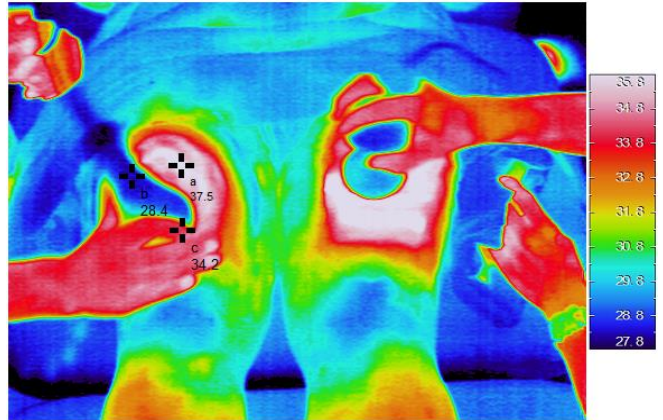
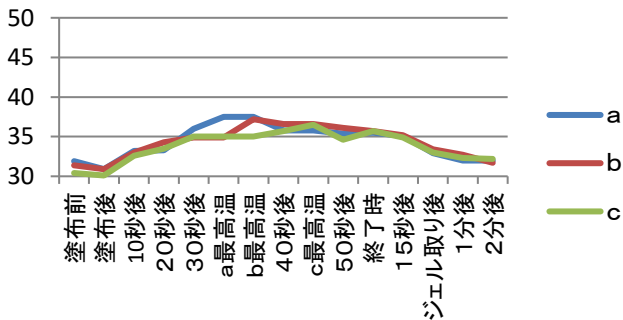
被験者5(機器A)



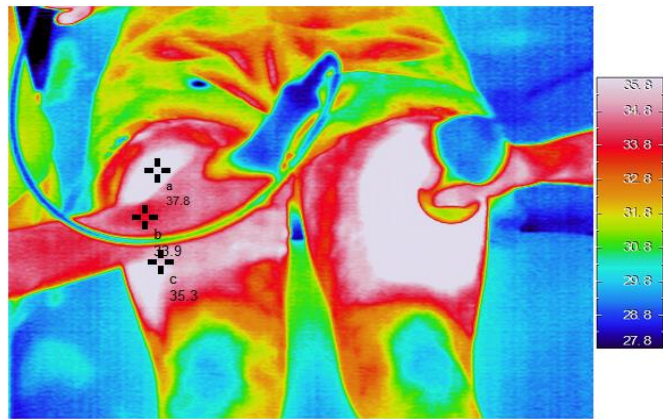
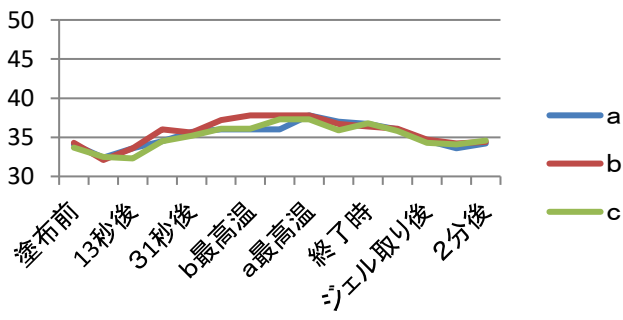
被験者1(機器B)



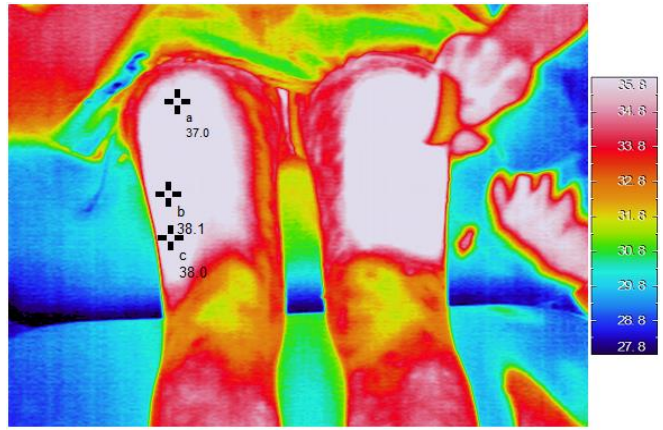
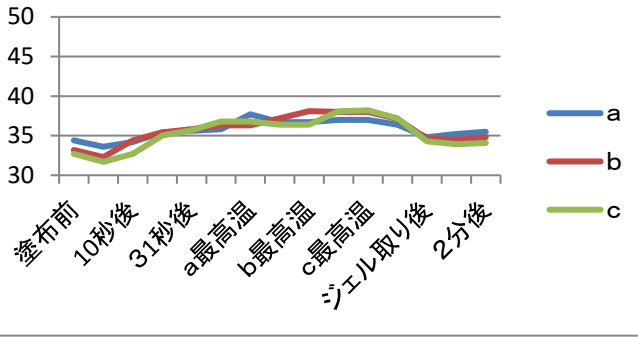
被験者2(機器B)



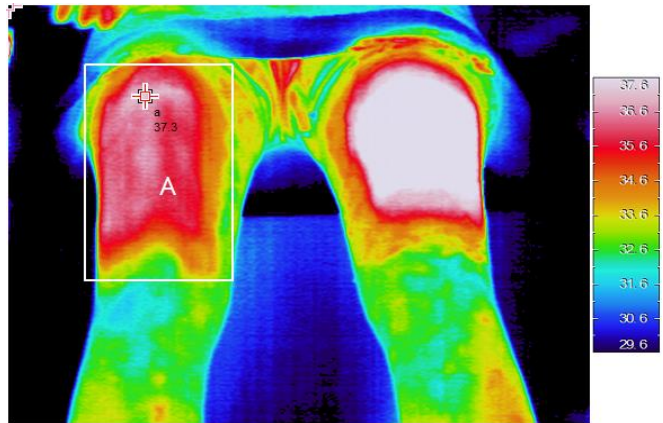
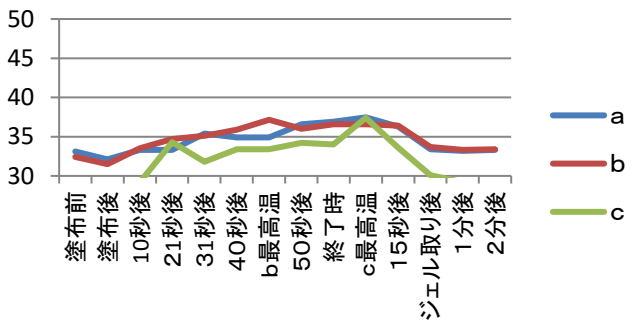
被験者3(機器B)



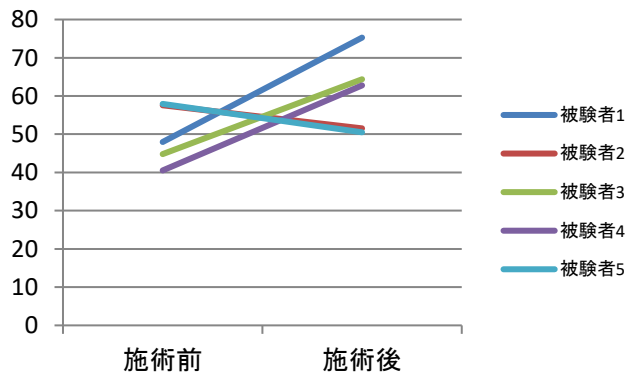
被験者4(機器B)



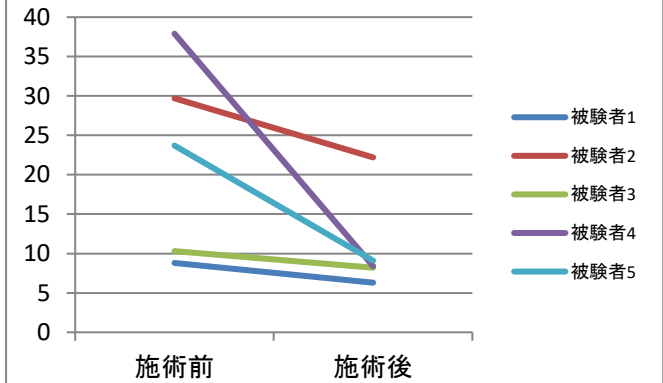
被験者5(機器B)



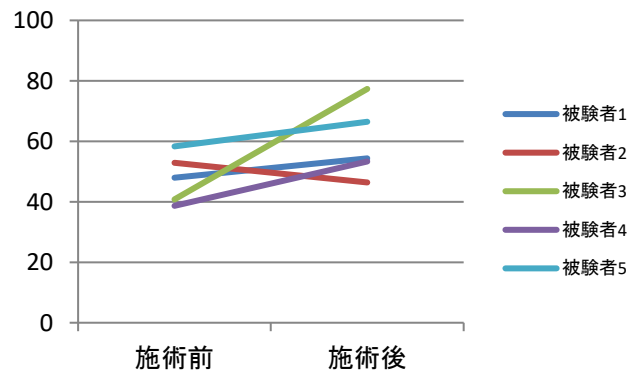
角層水分量(左大腿)



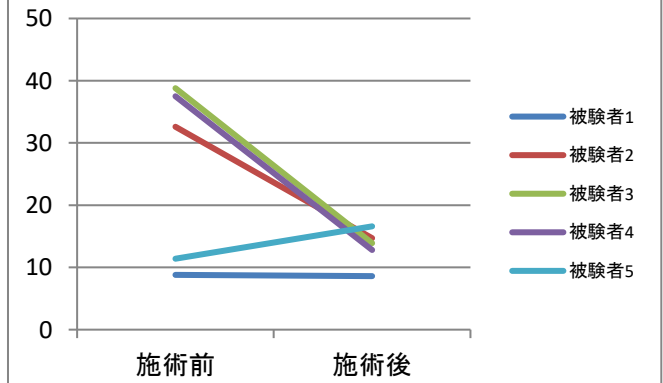
水分蒸散量(左大腿)



角層水分量(右大腿)

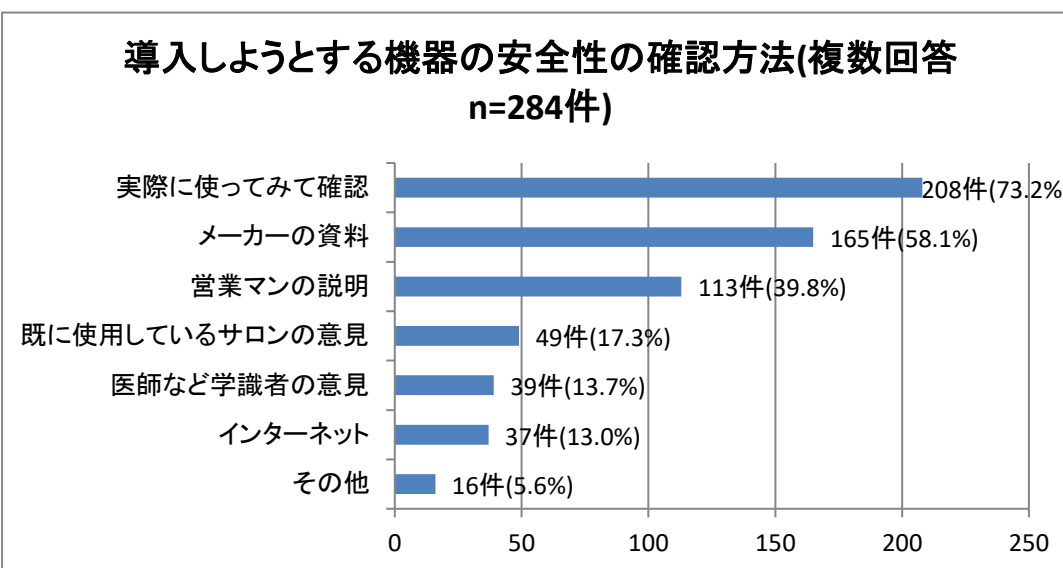
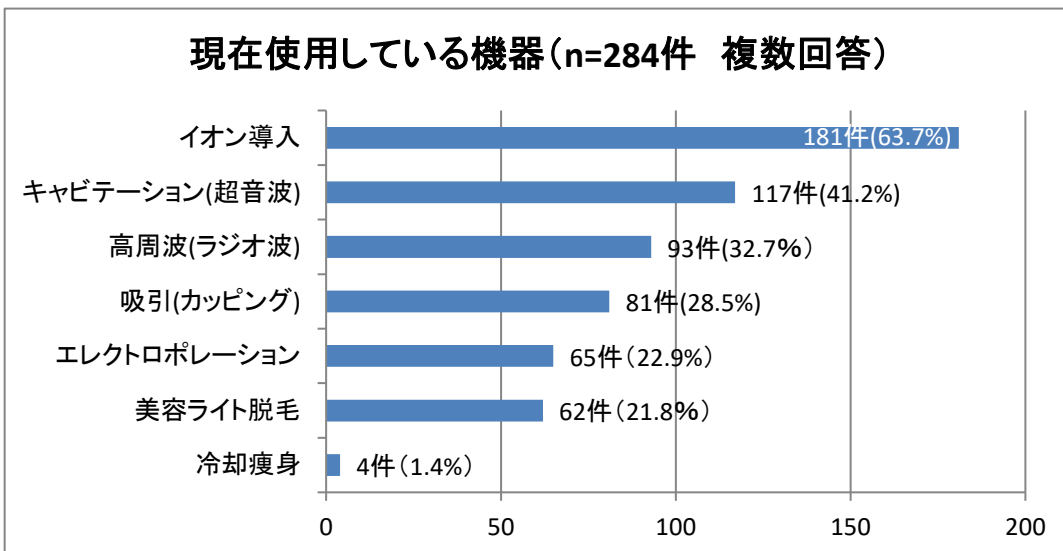
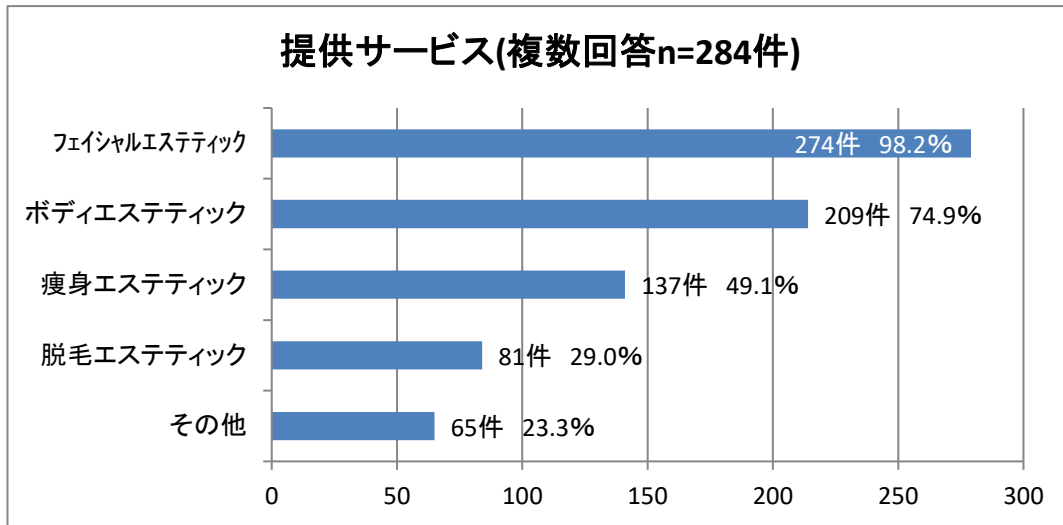


水分蒸散量(右大腿)



エステティック営業施設 使用機器調査結果

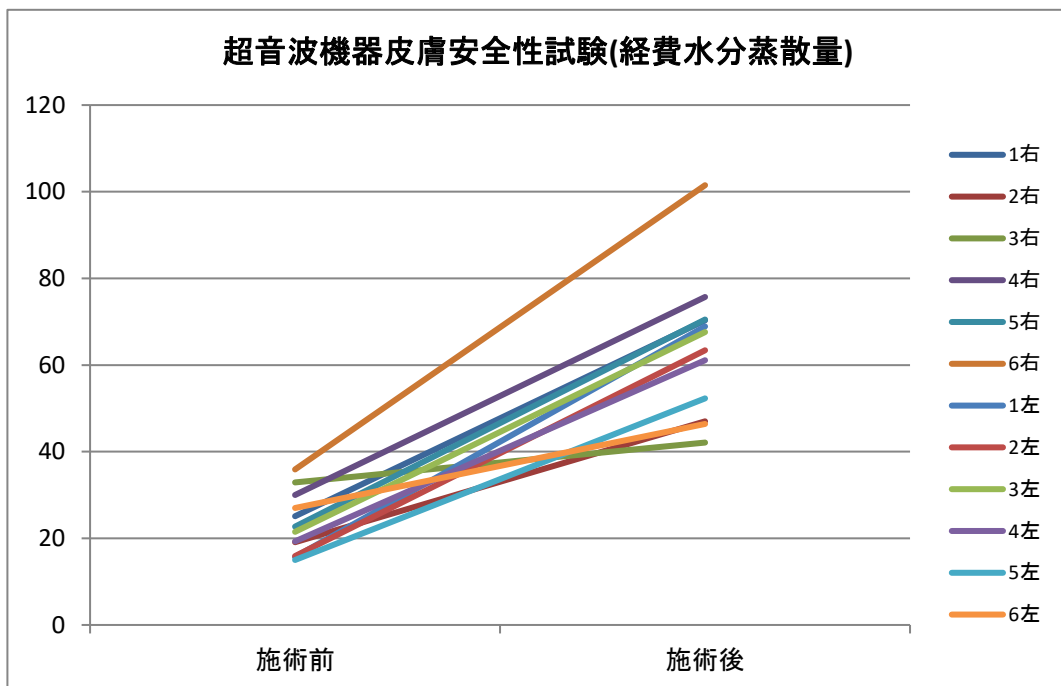
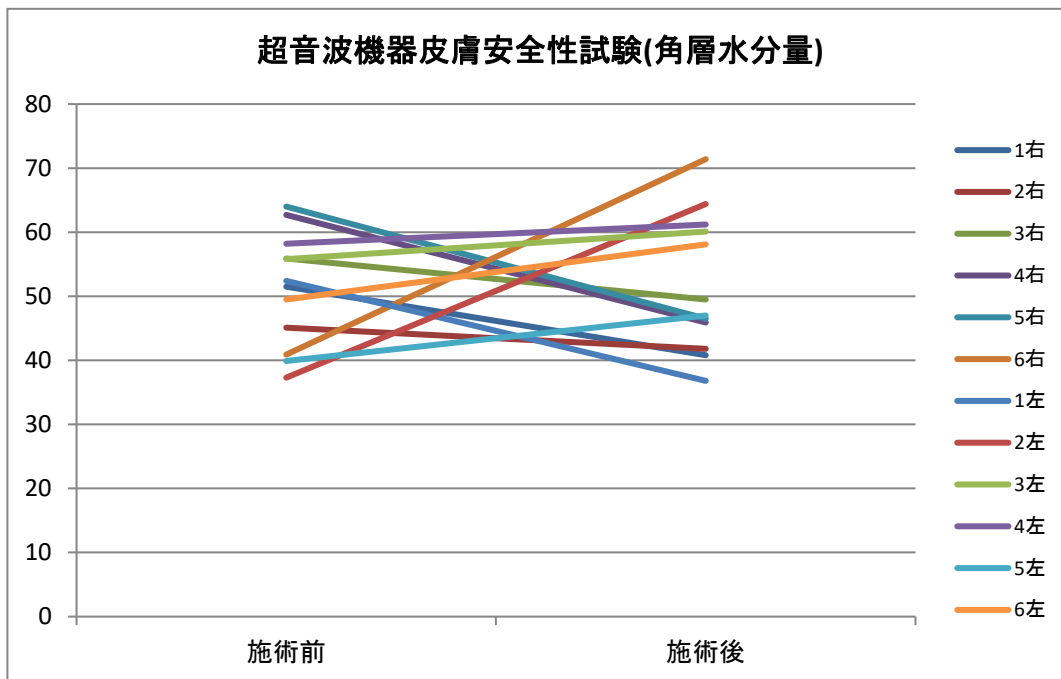
有効回答数 284



超音波機器皮膚安全性試験結果

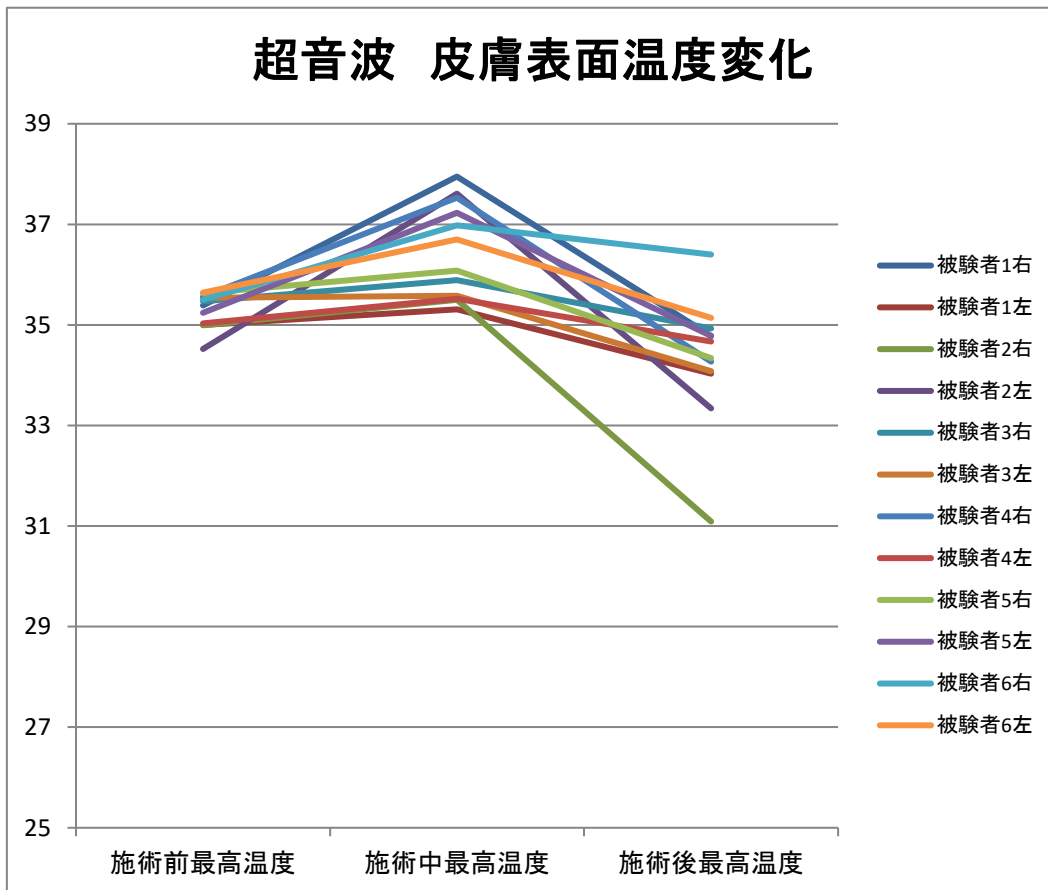
被験者及び対象機器

	年齢	性別	右腹部	左腹部
1	46	F	機器A	機器B
2	40	F	機器C	機器A
3	29	F	機器B	機器C
4	31	F	機器A	機器B
5	23	F	機器C	機器A
6	34	F	機器B	機器C



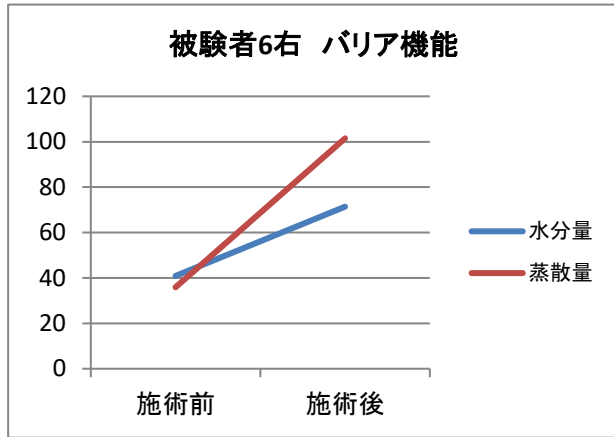
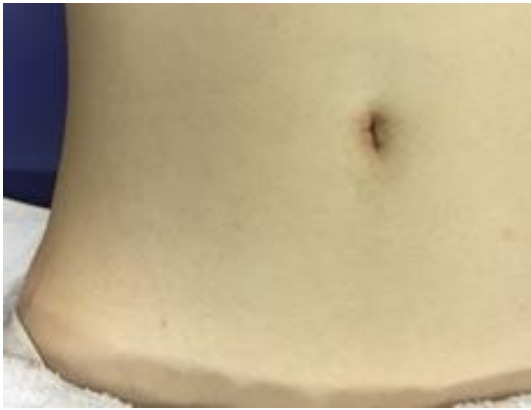
皮膚表面温度

	施術前最高温度	施術中最高温度	施術後最高温度	
被験者1右	35.39	37.95	34.78	A
被験者1左	35	35.31	34.03	B
被験者2右	34.99	35.5	31.09	C
被験者2左	34.52	37.61	33.34	A
被験者3右	35.47	35.89	34.93	B
被験者3左	35.54	35.58	34.08	C
被験者4右	35.56	37.53	34.27	A
被験者4左	35.03	35.52	34.67	B
被験者5右	35.63	36.08	34.34	C
被験者5左	35.24	37.23	34.78	A
被験者6右	35.5	36.98	36.4	B
被験者6左	35.64	36.7	35.14	C



被験者6右 発赤を伴う毛胞性丘疹(+)

施術前



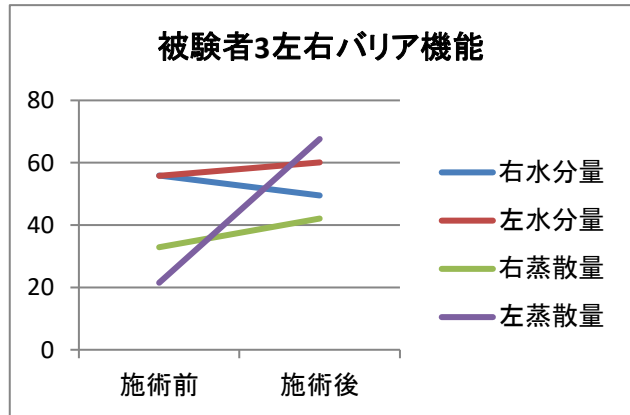
施術後



最高温度 36.98°C

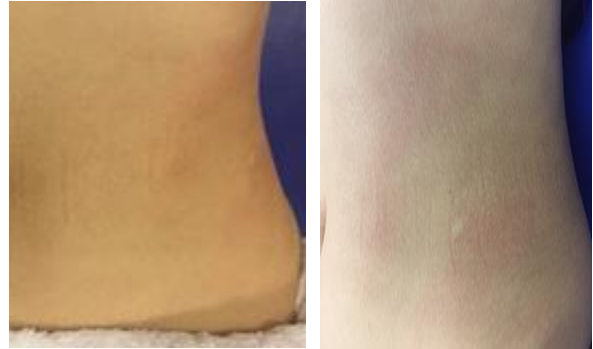
被験者3左右 発赤を伴う毛胞性丘疹(+)

施術前



施術後(右) 最高温度 35.89°C

施術後(左) 最高温度 35.58°C

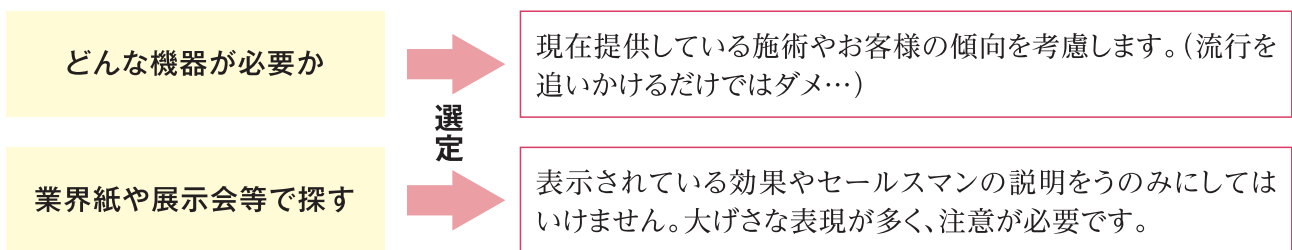


エステティック機器の安全性確保

年間約600件のエステティックによる健康被害のうち約3分の1(平成29年度国民生活センター189件)が機器によるものと推定されています。平成27年度～平成29年度厚生労働科学研究では、エステティックで使用されている、美容ライト脱毛機器、ヒートマット機器、RF機器、超音波機器について安全性を検討しました。その結果、通常の使用方法では安全に施術できることがわかりました。しかし、間違った使い方をしたり、お客様の要望で出力を上げすぎたりすると健康被害が起こる可能性が高いと思われました。また、お客様のコンディション(疲労感が強い、病み上がりなど)により通常の使用方法で施術を行っても健康被害が起こることがありますので、施術前聞き取り調査の重要性を指導していく必要があると改めて考えています。以上を踏まえて機器導入時の指導要領を作成しました。

さらにエステティックで使用される機器には、医療機器のような規制がありませんので機器を購入するときには、次の注意事項を踏まえ、安全な施術を目指しましょう。

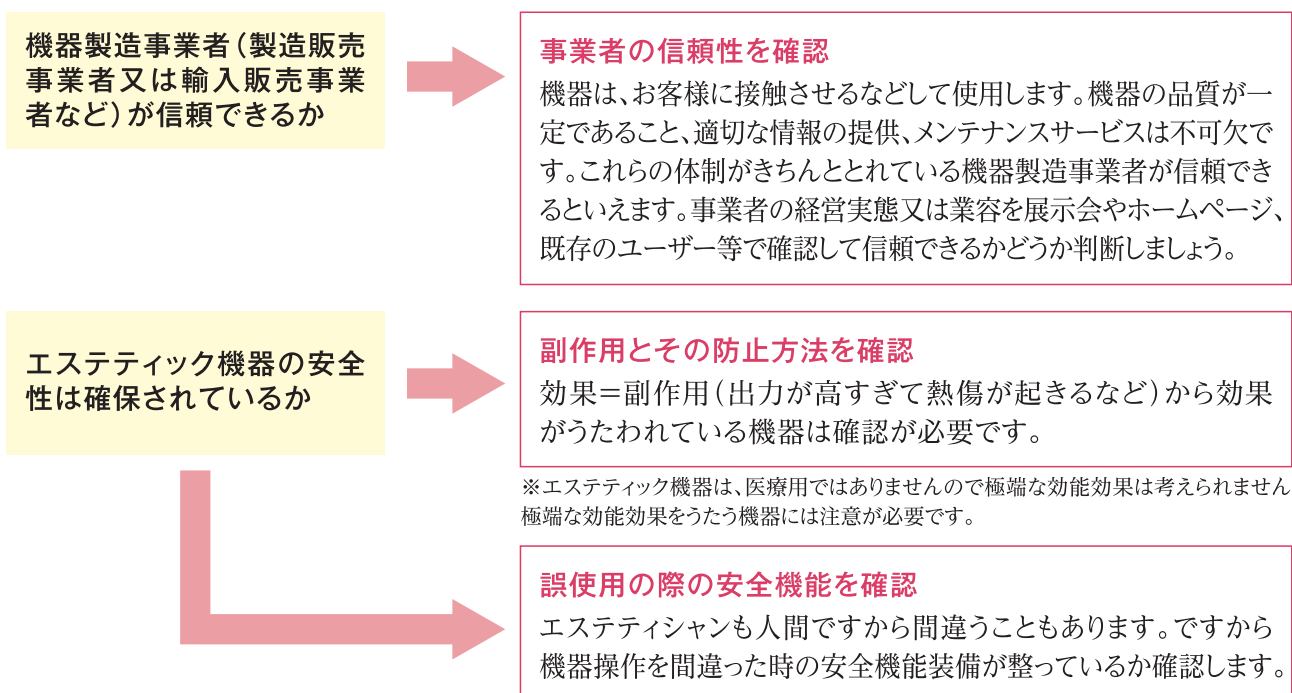
エステティック機器導入時注意事項



※エステティックサロンが消費者向けに広告するときには、景品表示法などの規制がありますが、いわゆるBtoB(企業が企業を対象とする取引)ではその規制はありませんので、大げさな表現が多くみられ、第三者や既存のユーザー等に確認が必要です。

●検討

機器の購入を検討するときは、まず、機器の安全性・操作性・性能・品質・保守などをチェックすると思いますが、そのほかに次の事項についてもチェックしましょう。



※エステティック機器は、医療用ではありませんので極端な効能効果は考えられません。極端な効能効果をうたう機器には注意が必要です。

取扱説明書

取扱説明書がない機器は検討の対象から外しましょう。

「危険・警告・注意事項」「禁止事項」「指示事項」「通常の使用方法」「保守点検」「保証規定」などが掲載されているか取扱説明書は、事故を防止するための重要事項を確認するためのものですのでその内容に不足・不備がないかどうか確認しましょう。

●購入

実際に機器類を購入する場合の注意事項です。(納品や支払い条件などを除く)

新品

- 取扱説明書のチェック「危険・警告・注意事項」「禁止事項」「指示事項」「通常の使用方法」「保守点検」「保証規定」など
- メンテナンスサービスの内容(保証内容・故障時の対応・部品供給等)をチェックします。
- 納品時に正常に作動するかどうかチェックします。

中古品

- 製造事業者が作成した取扱説明書が付属しているか。内容は十分かチェックします。
- 販売事業者(中古販売事業者)が、機器の品質(正常に稼働するかなど)を保証しているか、その保証は十分チェックします。
- メンテナンスサービスの内容(保証内容・故障時の対応・部品供給等)を中古販売事業者が対応するのか、製造事業者が対応するのか、あるいは無料なのか有料なのか又は期間を確認します。
- 納品時に正常に作動するかどうかチェックします。

●使用

製造事業者による導入講習会有る場合は必ず受けましょう。

導入講習会の内容は、記録し取扱説明書とともに保管し、講習を受けていないスタッフが機器を使用する際には事前に伝える体制を取ります。

毎日

始業前に正常に作動するかどうか確認します。

取扱い説明書に記載されている事前点検に従って確認します。

施術中

お客様が違和感を訴えたときは施術を中止します。

通常健康被害につながらないレベルでもお客様のコンディションが悪い時には健康被害につながるおそれがあります。

エステティック施術の安全性向上のためのモデルカウンセリングシート(例)

Q1 あなたの体調などについてお伺いします。

●あなたの皮膚状態についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

1 発疹が出やすい	4 皮膚がかゆい	7 皮膚がほてりやすい
2 おできや吹き出物・ニキビが出やすい	5 冬にはあかぎれがある	8 季節の変わり目に不調になる
3 皮膚がかさかさしやすい	6 皮膚が冷えやすい	

●あなたの体調についてあてはまる項目すべてに○をつけてください。

★	・良好	・普通	・不調⇒	⇒	・冷え	・肩こり	・胃腸	・便秘	・頭痛	・ほてり
					・更年期	・腰痛	・不眠	・貧血	・高血圧	・息切れ
					・低血圧	・めまい	その他()			

★	身体疲労	・ほとんどない	・軽度	・重度	★	ストレス	・ほとんどない	・軽度	・重度
---	------	---------	-----	-----	---	------	---------	-----	-----

Q2 アレルギーについてお伺いします。

●アレルギーの有無

アレルギーの有無		・なし	あり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。		
いつ頃から	症状(あてはまるものすべてに○)	現在の状況(あてはまるものすべてに○)		原因物質	
花粉症	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・スギ ・ヒノキ ・ブタクサ その他()
喘息	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・ハウスダスト ・ダニ ・カビ ・ペット その他()
アトピー性皮膚炎	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	
蕁麻疹	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	
化粧品	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・香料 ・色素 ・パラベン ・ヘアダイの染料(PPDA) その他()
※化粧品の種類やメーカーが分かればご記入ください。				種類	メーカー
金属	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・ニッケル ・コバルト ・クロム ・その他()
光線過敏	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・外因性(香料、湿布薬等) ・内因性
食物	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・卵 ・牛乳 ・大豆 ・小麦 ・甲殻類 その他()
薬物	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・風邪薬 ・湿布薬 ・抗生物質 ・鎮痛解熱剤 ・その他()
ラテックス	年前 ・発疹 ・発赤 ・水ぶくれ ・かゆみ ・せき ・鼻水 ・くしゃみ ・痛み ・その他()	・投薬 ・完治	・通院 ・無治療	・入院	・ゴム手袋 ・輪ゴム その他()

Q3 慢性疾患についてお伺いします。差し支えない範囲で回答をお願いします。

●疾患の有無		・なし	・あり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。			
	いつ頃から	症状の自己評価			現在の状況	疾患による日常生活への影響
糖尿病	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
高血圧	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
心臓病	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
悪性腫瘍	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
リンパ浮腫	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
膠原病	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()

	いつ頃から	症状の自己評価			現在の状況	疾患による日常生活への影響
更年期障害	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()
精神疾患	年前	・重症	・中等症	・軽症	・投薬 ・完治 ・通院 ・無治療 ・入院	・大 ・中 ・小 ・なし ※内容()

Q4 過去エステティックの施術で健康被害を受けたことがありますか？

●健康被害の有無		・なし	・あり⇒※下記のあてはまる項目全てに○をしてください。		
	いつ頃	被害の程度		機器使用の有無	原因となった施術
かぶれ	年前	・治療1週間未満 ・治療3週間～1ヶ月 ・治療せず	・治療1～2週間 ・治療1ヶ月以上	有 無	・フェイシャル ・脱毛 ・痩身 ・その他()
やけど	年前	・治療1週間未満 ・治療3週間～1ヶ月 ・治療せず	・治療1～2週間 ・治療1ヶ月以上	有 無	・フェイシャル ・脱毛 ・痩身 ・その他()
擦過傷・打撲傷等	年前	・治療1週間未満 ・治療3週間～1ヶ月 ・治療せず	・治療1～2週間 ・治療1ヶ月以上	有 無	・フェイシャル ・脱毛 ・痩身 ・その他()

利用者背景の聞き取り

これまでの厚生労働科学研究費による研究で、エステティック施術による皮膚障害を起こしやすいアトピー性皮膚炎や糖尿病の患者が疾患を技術者に申告せずにエステティックを利用するケースもあることがわかっています。また、通常の体調では問題のない施術でも疲労やストレスが原因で体調が下降気味の時には思わぬ健康被害が起こることもあり、施術前のお客様への聞き取りは健康被害防止のために重要なポイントになります。次ページのカウンセリングシート例を参考にしてください。

利用者から聞き取るべき項目例

<p>現在の体調 体調が下降気味の時は、免疫力が低下していることが多い</p>	<p>アレルギーの有無 原因（アレルゲン）を確認、明らかでないときは症状が出る状況</p>	<p>疾患の有無 日常生活で気を付けている点などを詳しく聞き取る</p>
--	--	---

1 お客様の皮膚の状態について

普段の皮膚状態について以下の項目を聞き取ります。1・2・4の項目にチェックがついた場合、どのようなときに発現するかなどを詳しく聞き取り、施術する際に同様の行為は避けるようにしましょう。

1	発疹が出やすい	4	皮膚がかゆい	7	皮膚がほてりやすい
2	おできや吹き出物・ニキビが出やすい	5	冬にはあかぎれがある	8	季節の変わり目に不調になる
3	皮膚がかさかさしやすい	6	皮膚が冷えやすい		

2 お客様の体調について

疲労やストレスは、身体がだるい、重いなどの倦怠感、気分の落ち込み、集中力の低下や眠気等の症状が出やすく、ひどくなると免疫力が低下し、疲労がないときに比べ細菌やウイルスに感染しやすくなります。疲労やストレスが重度のお客様には無理して通常通りの施術をしないようにしましょう。もちろんこれらは毎回施術前に確認します。

身体疲労	・ほとんどない	・軽度	・重度	ストレス	・ほとんどない	・軽度	・重度
------	---------	-----	-----	------	---------	-----	-----

3 アレルギーの有無について

本来免疫反応は、細菌やウイルスなどの異物が体内に侵入することを防ぐ反応ですが、ハウスダストやダニ、花粉、小麦など様々なもの(アレルゲン)に対して過剰に反応することでアレルギーが起こります。対処法は、アレルゲンと接触しないことです。アレルギーを持つお客様にエステティック施術を行うにあたり、お客様が「ひりひり感」「痛み」「かゆみ」など違和感を訴えた時にはすぐに施術を中止し、冷やしましょう。

以下は、代表的なアレルギーについて施術上の注意点を解説しています。アレルギーの方は、普通のお客様より反応が出やすいので注意してください。

花粉症

花粉症の方は、鼻のかみ過ぎ、目のこすり過ぎ、マスクなどの摩擦行為により皮膚バリア機能低下状態にあるので、花粉が皮膚に接触して皮膚炎を起こしてしまうことがあります。花粉症皮膚炎と診断されます。化粧のせい…かと思って化粧をやめると、むしろ悪化してしまう方も多いので化粧かぶれなのか花粉症によるかぶれなのかを、見極める必要があります。難しい場合は、是非、専門医受診を勧めるようにしましょう。赤みやかさつきが酷い場合、通常の施術では刺激が強すぎてかぶれが助長してしまうこともあるので、お客様の様子を注意深く観察して確認をしながら刺激がないような施術だけをしてあげましょう。「リラクゼーションを心がける」という方が良いように思えます。

喘息

喘息は、アレルゲンが特定されているものとされていないものに分けられ、アレルゲンが特定されている場合はその原因物質との接触しないように配慮しましょう。

治療していて問題がない人は通常の施術で大丈夫ですが、例えば、症状が出ていなくても、その姿勢や圧力によっては、思いがけない喘息発作を誘発することもあるので、特に仰臥位(仰向けに寝る)は、苦しくなってしまうことがあります。お客様から楽な姿勢を聞いて、発作の誘発がないようよく話し合い、姿勢に気を付けてあげる必要があります。

アトピー性皮膚炎

ご自身に花粉症、喘息、蕁麻疹などがあり、あるいは血縁のある家族にもあり、冬の乾燥に

弱いような方は、アトピー性皮膚炎と診断されていなくても、アトピー性皮膚炎の発症リスクが高いとさせていただく必要がありますから、きちんと問診をとることがとても大事です。冬場の口唇のかさつきが酷い方、目尻、あるいは、耳が切れやすい方、手指先にはあかぎれを起こすような方たちは、アトピー性皮膚炎の部分症状のことがあります。ご本人が、自分だけはアトピー性皮膚炎ではないと思っている場合もあるようですから、きちんと問診を行って、その人の皮膚のリスク度合いを見極めて施術をする必要があります。

当然、冬場は皮膚バリア機能が落ちている状態なので、さらに擦る、マッサージということで、使う洗浄製品や化粧品類による刺激を誘導しやすくなってしまいます。特別アトピー性皮膚炎だから香料が使えないアレルギー性のかぶれが起こりやすいというわけでは決してありませんけれども、過敏に感じる状況があります。敏感肌という本人の認識がない人ほどクレームになってしまうようなことがあるかもしれません。お客様と注意深く会話をしながら確認を取りながら、皮膚状況を観察しながら、無理のない施術をするということ望まれます。

症状が落ち着いていれば皮膚に対する刺激が弱いものを選択して、お互いによく話をしながら、施術内容を決めていきましょう。疾患治療中の方、生理前後、あるいは産後の具合、更年期の具合、ハイリスクの人には、何を求めている、何を提供してあげれば良いかということを考える必要があります。

蕁麻疹

蕁麻疹というのは、虫に刺されたように赤く膨れて数時間以内に消えてしまうものです。2か月、3か月とかゆい発疹が出ては消え、出ては消えを繰り返しているのは慢性蕁麻疹と診断されます。原因は食事以外にも様々で、温熱蕁麻疹、寒冷蕁麻疹、物理的な擦る事によって起こる人工蕁麻疹などがあります。それから発汗による蕁麻疹は、普通の蕁麻疹より毛穴に一致した小さいブツブツした小紅斑がでてきます。また、もちろん薬剤、塗り薬で接触蕁麻疹が起こることもあります。蕁麻疹の方は、治療しているかどうかがとても大事で、抗ヒスタミン薬を飲んで安定している方は、通常の施術も問題ないケースが多いでしょう。一方、蕁麻疹体質があるかどうかを確認した上で施術による温熱刺激、摩擦刺激で蕁麻疹が誘発される可能性があることをあらかじめお伝えをして、反応が出るようだったら早めにやめるという対策を施術前にお互いに理解し合ってはじめるというのが良いと思います。治療していない人はより多く症状が出る可能性があるので、毎晩、蕁麻疹が出るという人はとりあえず施術することによって、より強い反応が出るかもしれません。蕁麻疹体質でこのところ蕁麻疹が夜になると毎晩出てしまうという方は、施術により、より強く誘発されてしまいますから、治療をおすすめして、医師の許可を頂いてというふうにお話されたほうが良いように思います。

化粧品

「化粧品のかぶれがある」という訴えがあるお客様には原因について聞いて置く必要があります。化粧品の中で香料、防腐剤などかぶれる原因成分が分かっている場合は、その情報を意識して施術しなければいけません。化粧品かぶれを起こしやすいと訴えるお客様には、施術で使用する製品を確認してもらい具体的にこれをして欲しい、あれをして欲しいという施術内容の相談をしながら決めていくことが大事かもしれません。何にかぶれているのか、今は問題がないのか、例えば、こういう香料が入っているものを使います。防腐剤が入っているものを使います。ということをあらかじめ説明して、それが大丈夫かどうかという確認をしたという記録を残しておく必要があります。

金属

金属製品が汗に触れその成分が溶け出し金属イオンになります。この金属イオンが皮膚に浸透しアレルギーを起こすことがあります。これは、重症度によるので、金属アレルギーだから顔の施術をしてはいけないということはありません。むしろ手技によるマッサージではあまり問題はなく、美容機器の一部が金属製であったり、電流を流したりという施術による反応、発汗させる行為も重なりますから痒い反応が出てしまうかもしれませんので状況可能性があると考えます。

食物

自然化粧品への安全嗜好によるものかオーガニック化粧品といわれて蜂蜜や木の実類、大豆や小麦など食品が含まれている製品が好まれて使われているようです。食物アレルギーを持っている場合にはその食物成分が皮膚から吸収されることで皮膚症状が出る場合があります。アトピー素因のあるエステティシャンが、手荒れ、皮膚症状の悪化から豆乳の入った化粧品で大豆アレルギーになったという事例がありました。皮膚に塗るものと口から入るものは関係ないと思わずに、食物アレルギーの確認を怠ってはいけません。食べる物が化粧品中に含まれているということはよくありますので、自分がこれから施術をしようと思う化粧品に入っている成分でアレルギーの訴えが無いことを確認してください。たとえばナッツのアレルギーがある場合には、マッサージ用オイルなどにも注意が必要です。ナッツ、大豆、小麦、蜂蜜(ローヤルゼリー)、うこんなどによる接触蕁麻疹からショックを起こすこともありますので注意が必要です。

薬物

エステティックでは、薬を使うことがありませんのでさほど重要視しなくて大丈夫です。ただし、湿布でかぶれる人などは、メントールなどが原因のことが多いですので注意が必要です。

ラテックス

ラテックスアレルギーは、天然ゴムの入った手袋などで時に重い症状が出ます。最近の使い捨て手袋ではラテックスが入っていないものが増えてきています。ラテックスアレルギーのお客様を施術する場合、施術に使用する器具類に天然ゴムが含まれていないかどうか確認してから使しましょう。

4 慢性疾患の有無について

超高齢化社会となった日本では、65歳以上が25%を超えています。さらに65歳以上の約7割が通院している(厚生労働省)ことから慢性疾患のお客様が来店する可能性が増えてくることが予想されます。慢性疾患のお客様への施術の注意点は、重症度によって変わります。日常生活で気を付けている点など詳しく聞き取り施術を組み立てていきましょう。主治医からの注意事項があるときは、厳守するようにしましょう。

糖尿病

糖尿病と申告があった時は、施術時の状態をよく聞き取ること、脚のむくみ、傷、感染のチェック(足底、趾間などにジュクジュクした傷が無ければ大丈夫です。)が必要です。そのうえでお客様とよく相談して施術の組み立てを行うことで安全な施術の提供ができます。四肢末端の末梢神経障害で感覚が分からない人もいますので注意してください。

高血圧 心臓病

急激な温度変化があるとリスクが高まります。サウナなど温度上昇がある施術には注意が必要です。また、血流改善の薬を服用していると、マッサージの力で皮下出血がおこりやすくなります。

悪性腫瘍

悪性腫瘍でエステティックに行ってもいいよと主治医から許可をされている人は、何をどうしてきたいかということをきちんと施術前に問診をして、足だけのマッサージなり、顔のマッサージなり、リラクゼーションを心がけましょう。特に抗がん剤治療を受けている人は主治医のOKをもらいましょう。

リンパ浮腫

リンパ浮腫は、抹消循環障害、静脈瘤、悪性腫瘍の手術に伴うリンパ節切除の後遺症が原因の場合が多いようです。浮腫の病態によりますが、傷がなければお客様の気持ちが良い程度の強さでの施術は問題ありません。加圧が強いことにより傷をつけてしまうのは厳禁です。

膠原病

膠原病治療を受けているような場合は治療薬の種類あるいは、どのくらい長く飲んできたかにより皮膚の委縮状態、出血の状態というのが、千差万別になってきます。多くの場合ステロイド・免疫抑制薬両方で治療されている可能性があるため、外圧のかけ方についてお客様と相談して下さい。薄い皮膚でペロンとむけることや出血することがあるかもしれません。実際の年齢よりもより弱い皮膚の可能性がありますので、施術の力を加減しないといけません。

精神疾患

エステティシャンと会話をして楽になることを求めている可能性のあるお客様と捉えていただいて、気持ちの良い空間・施術をこころがければ良いでしょう。こちらから施術提案をしない方がよい人たちは、何をされに来たか、何をしたいのかということをしつかりとお話をしてあげるのが良いでしょう。お客様の提案に逆らわない、決めたコースを勧めないがキーワードです。

更年期障害

心身の不安定な状況で、顔はほてり、手足は冷えて困る人が多いようです。症状に合わせて、気持ちの良い時間・空間の提供をするように心がけて下さい。香りを好むか好まれないか、顔のクレンジングが必要な場合もあるし、手足のマッサージで血流改善を図るのも良いでしょう。心身の癒しが最も必要なお客様層と捉えていただいて、要望を聞きながら施術を組み立てましょう。

4 過去エステティック施術での健康被害の経験

国民生活センターのデータによると毎年約 600 件の健康被害が報告されており、来店されたお客様も健康被害の経験があるかもしれません。詳しく状況を聞き取り、同じような被害が起きないように注意して施術を行いましょう。

エステティックによる健康被害にあわないために

1. すぐに効果が出ると思っはけません

エステティックは、医療機関ではないのでゆるやかな効果が基本です。急激な効果は求めないようにしましょう。

2. 自分の体調・体質は正直に申告しましょう。

エステティックの施術は、化粧品や機器などを使用して皮膚に刺激を与えます。人間は、疾患はもちろんのこと疲れていたり睡眠不足の際免疫力が低下し、普段大丈夫な施術でも健康被害が起こることがあります。自分の体調を正直に技術者に申告してから施術を受けるようにしましょう。下記の写真は、エステティックサロンでビキニラインの脱毛を行った方ですが、細かい傷から細菌が侵入し蜂窩織炎を発症した事例です。



3. 施術中違和感を感じたらすぐ申し出ましょう。

多少痛かったり、熱かったりすることがあった時に、我慢すると健康被害につながる可能性が高くなります。痛くなくとも違和感は危険信号と考えてすぐに技術者に申し出ましょう。

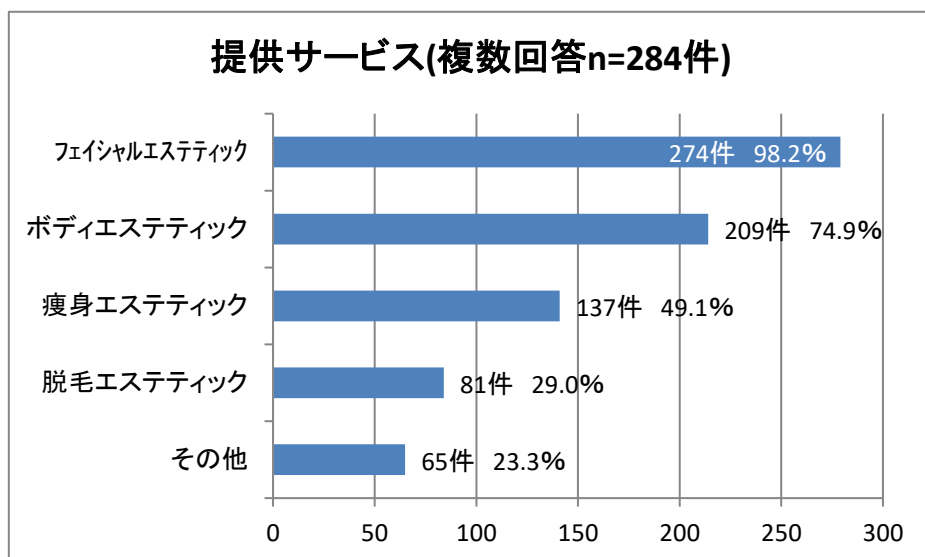
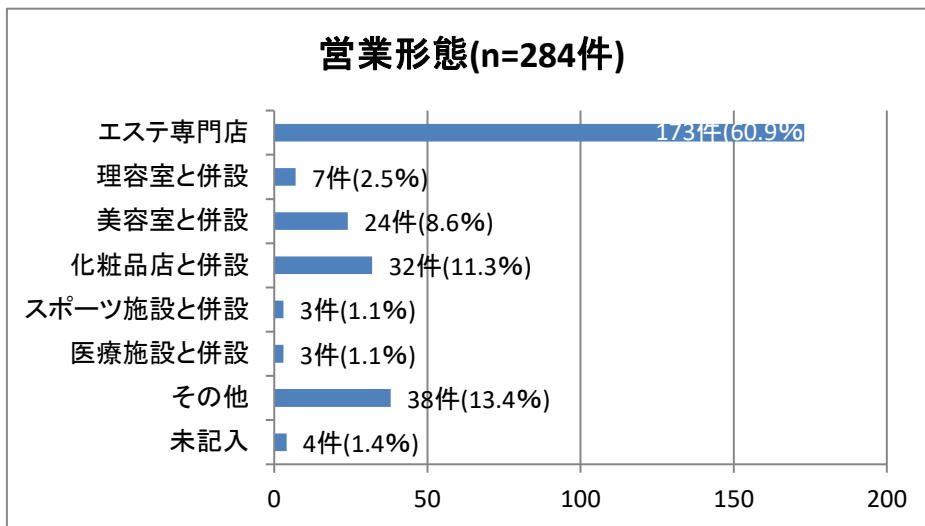
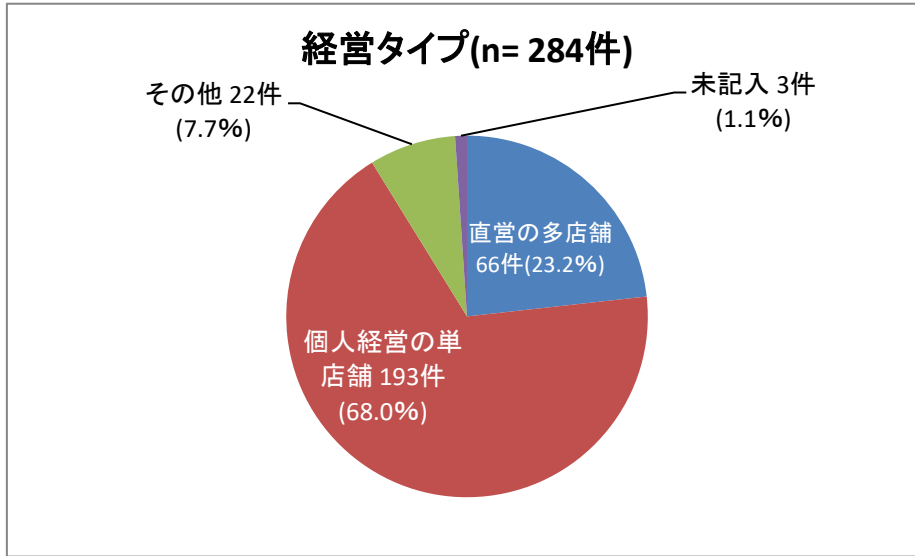
4. 健康被害が出てしまったら

どのような施術を受けてどのような症状が出たかを記録しましょう。症状が酷い場合すぐに医療機関を受診しましょう。

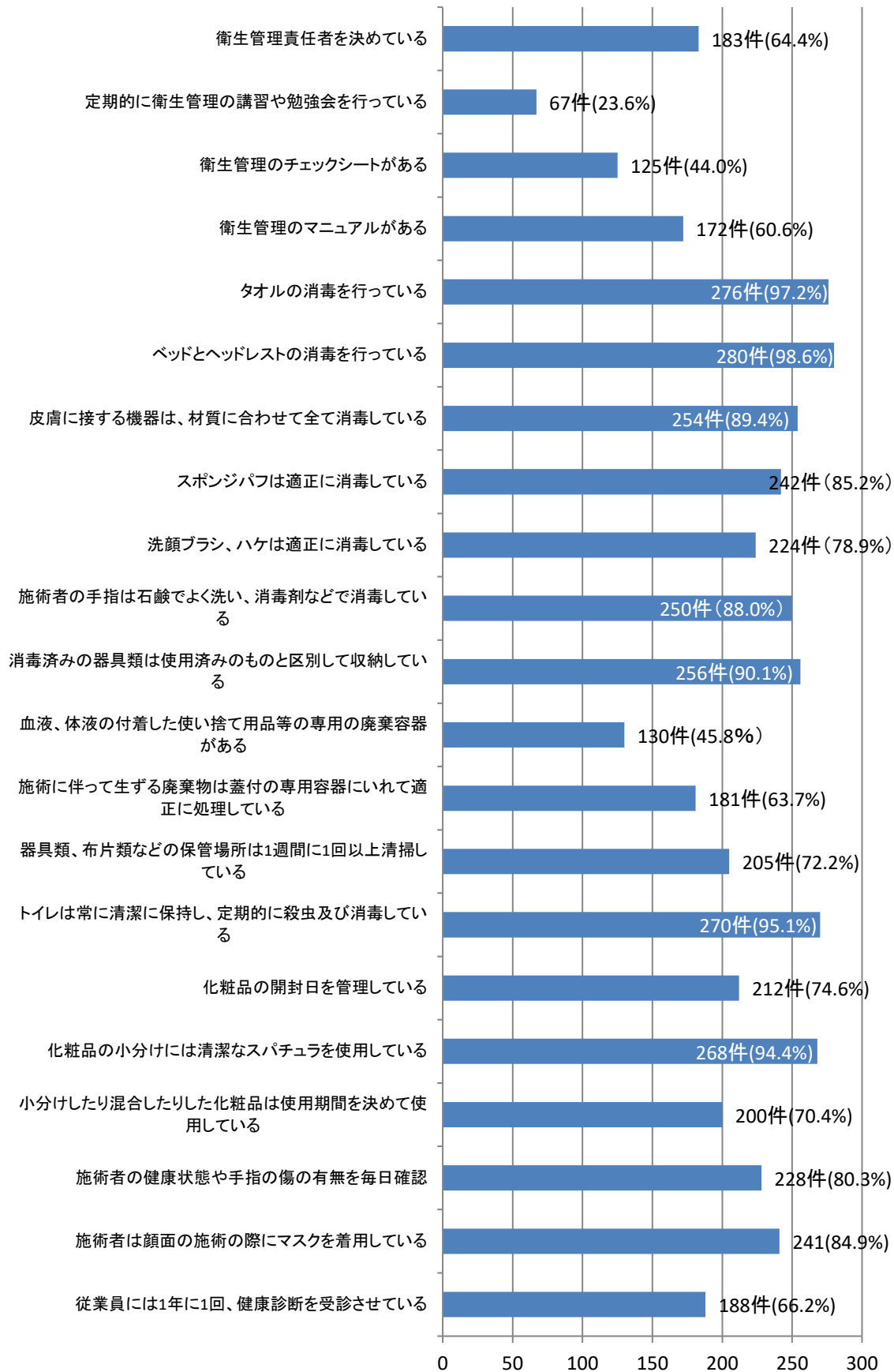
衛生管理状況に関するアンケート調査 結果

有効回答数

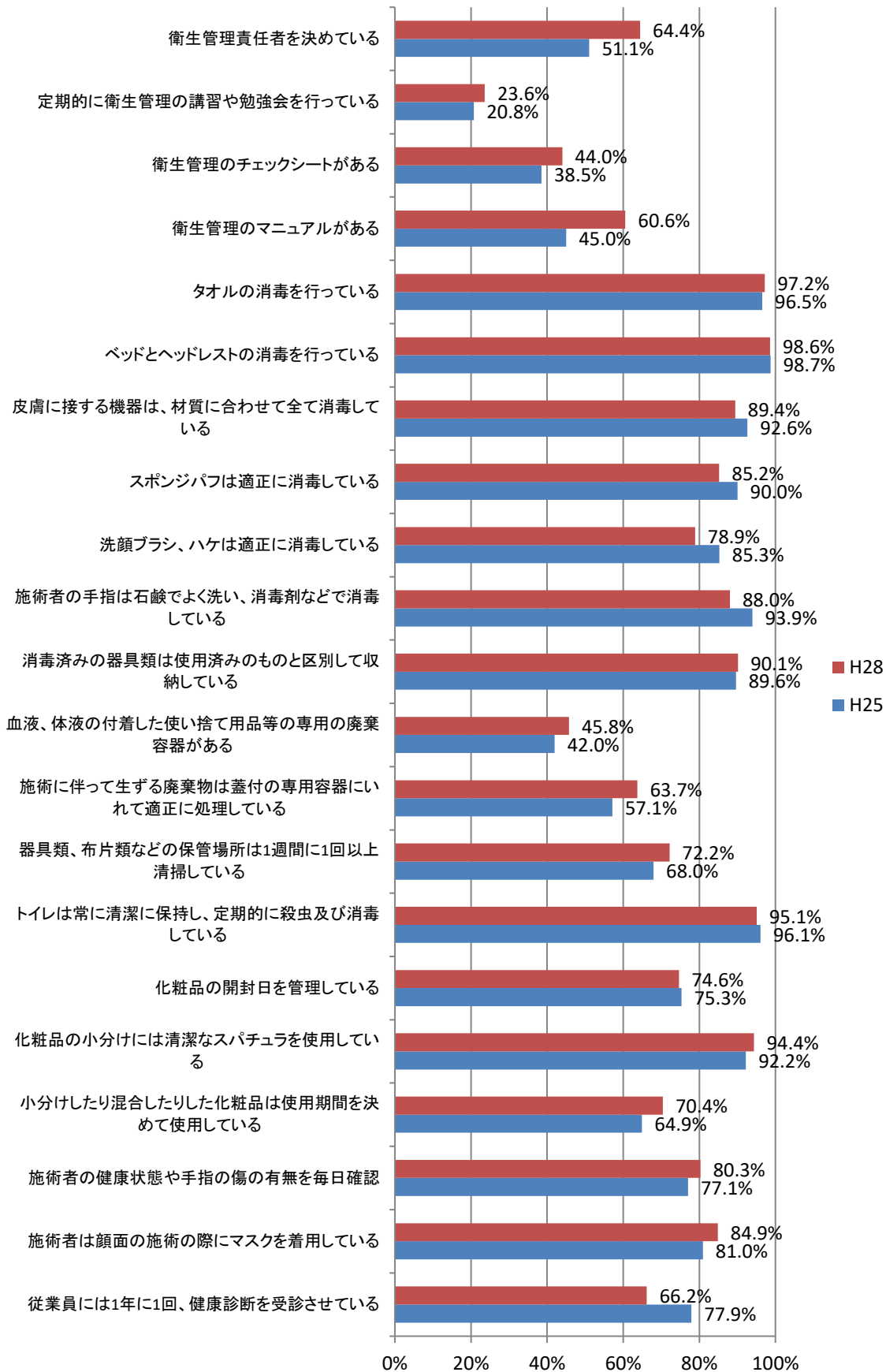
284



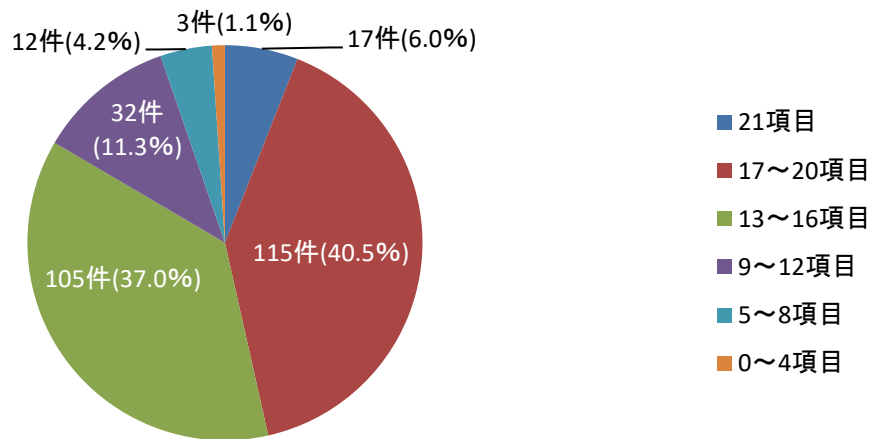
衛生管理に必要な21項目(n=284件)



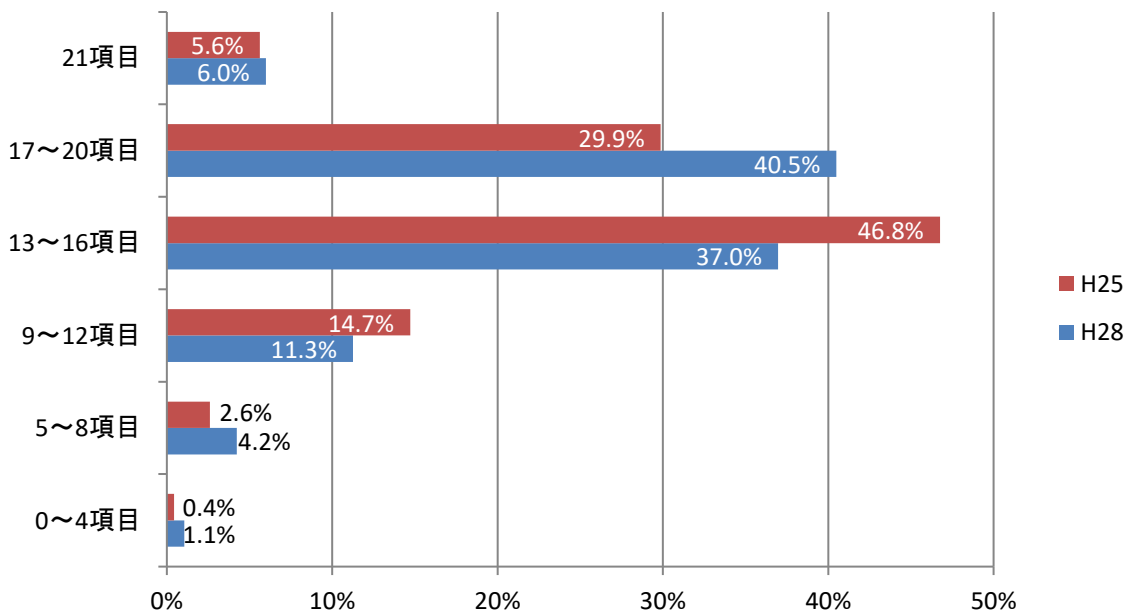
衛生管理に必要な21項目 前回との比較



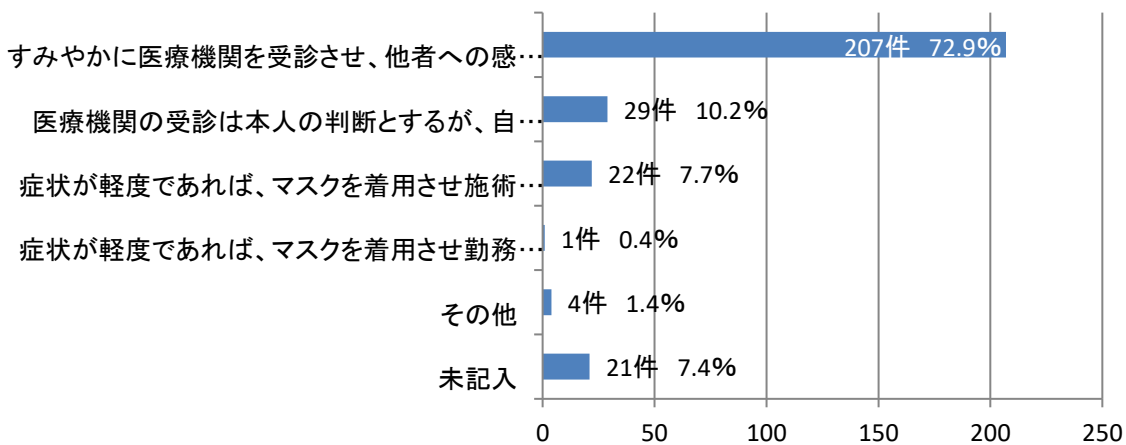
衛生管理に必要な21項目の実施率(n=284件)



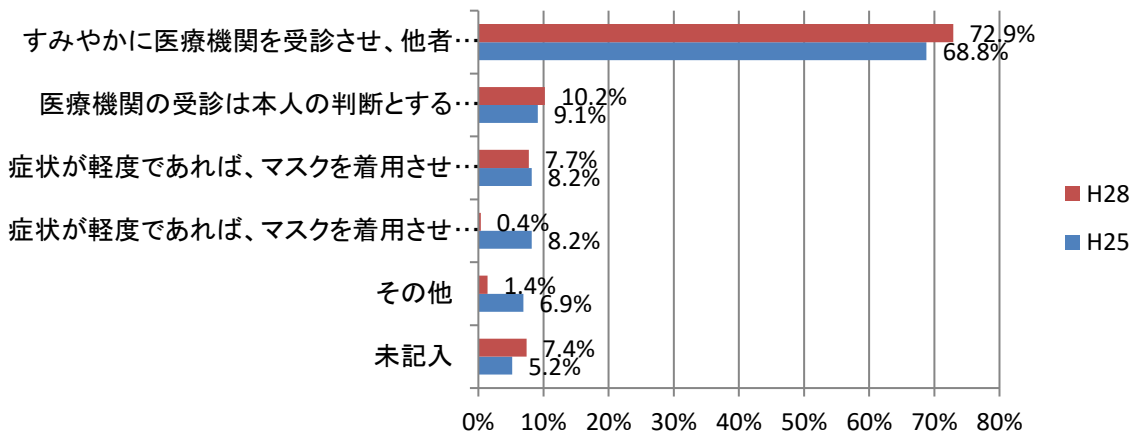
衛生管理に必要な21項目の実施率 前回との比較



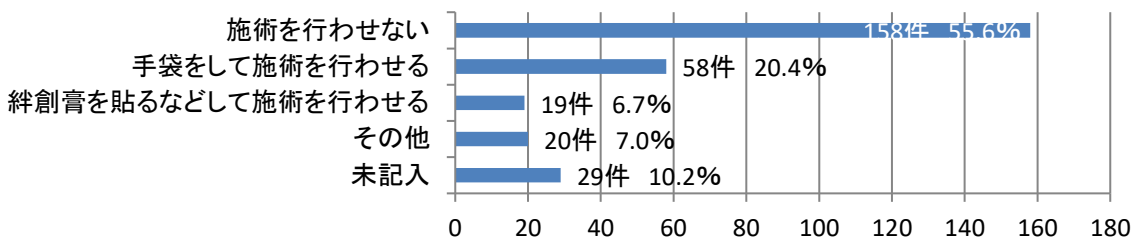
従業員の体調に異常があった場合(n=284件)



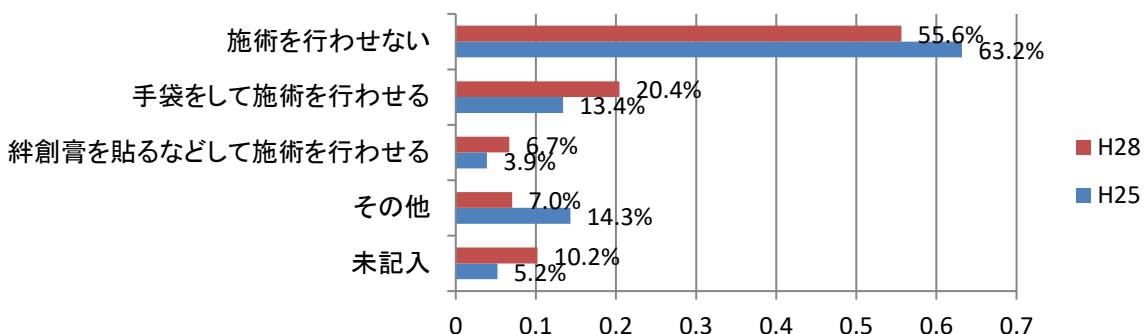
従業員の体調に異常があった場合 前回との比較



爪の周りの異常(n=284件)



爪の周りの異常 前回との比較



フェイシャル施術用スチームタオル保温庫とスチームタオルの汚染状況について

サンプル採取箇所

①保温庫内扉 ②保温庫内カゴ ③保温庫外取手部分 ④施術用タオル（未使用）

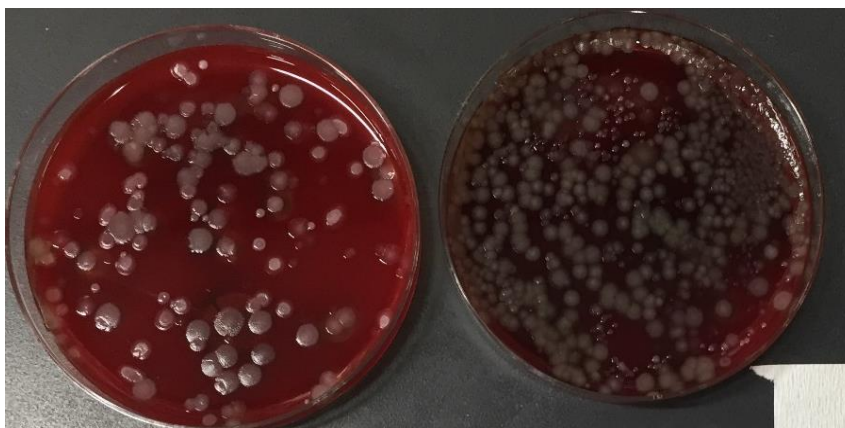
結果（１）保温庫

保温庫 (cfu/ml)		
内扉	カゴ	外側取手
10	10	10



結果（２） タオル

使用前のスチームタオル5枚より多数の菌が検出された。



タオル1 (680cfs/cm³)

タオル2 (3,360cfs/cm³)



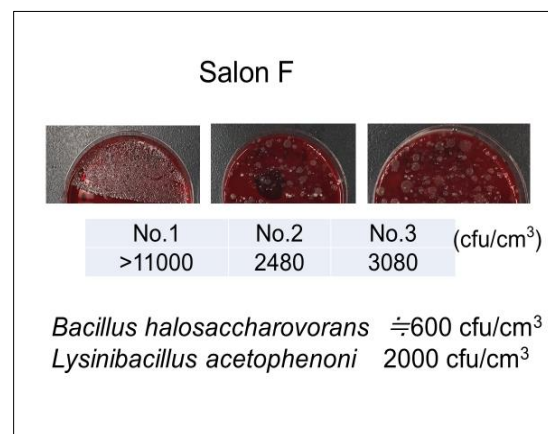
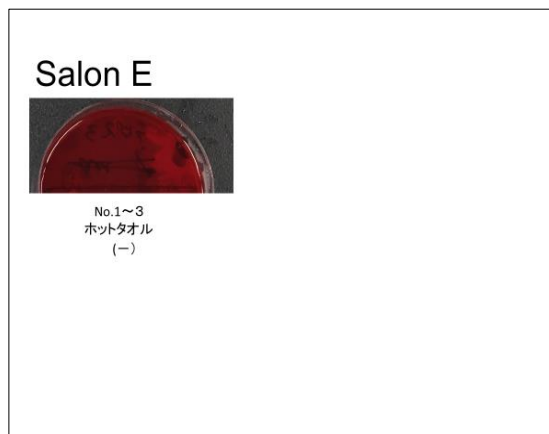
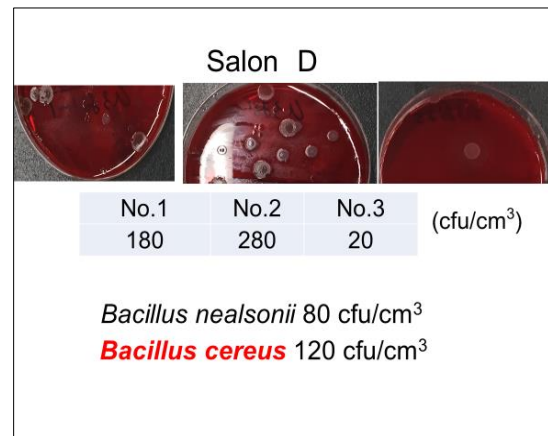
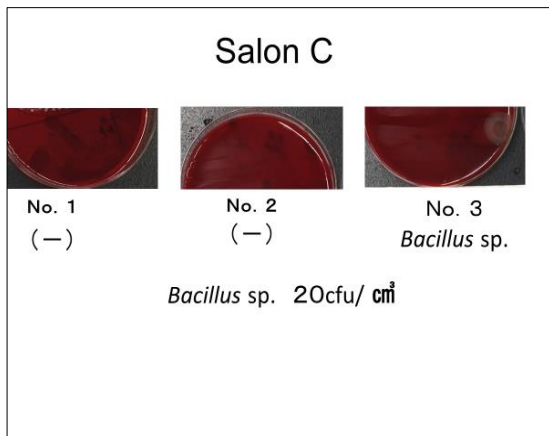
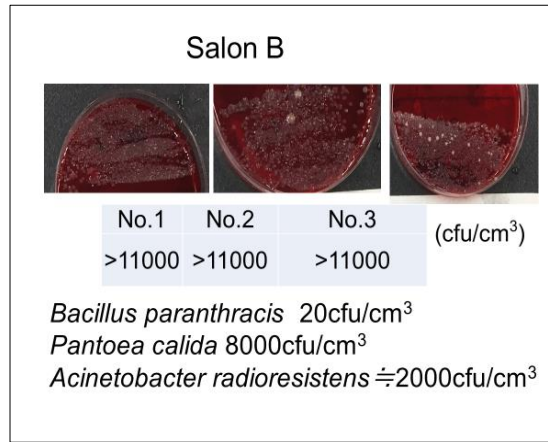
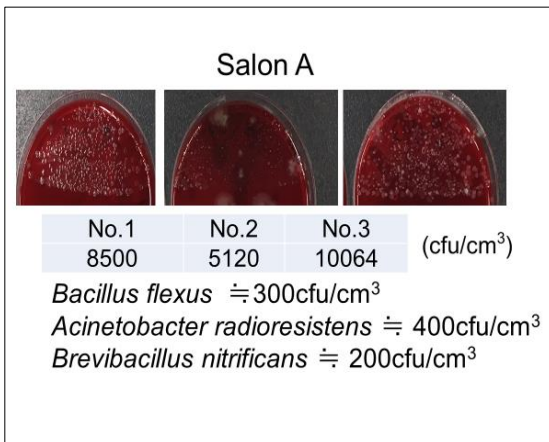
タオル3 (470cfs/cm³)

タオル4 (1,280cfs/cm³)



タオル5 (1,000cfs/cm³)

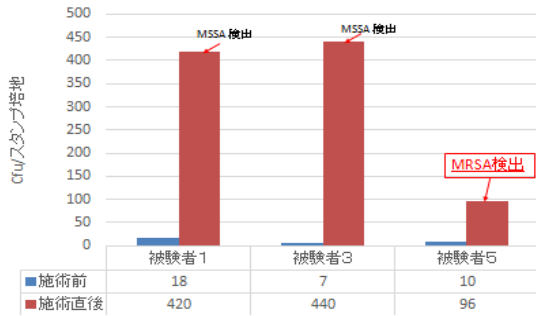
フェイシャル施術用スチームタオルの汚染状況調査結果



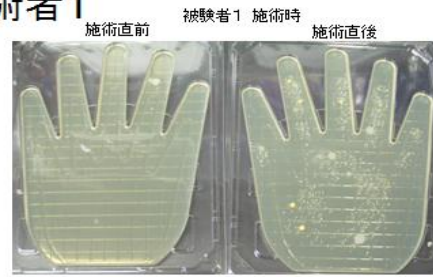
施術者の手指細菌調査

試験日:平成27年12月4日(1回目)

施術者1における施術前後の手指細菌数の動き



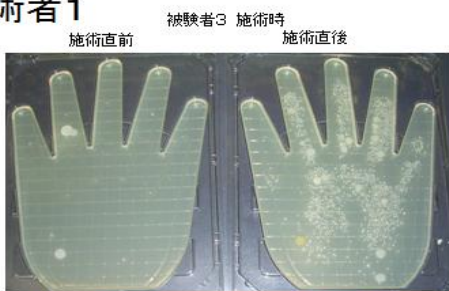
施術者1



施術前	施術後
Micrococcus sp. 2	<i>S.aureus</i> (MSSA) 10
<i>Bacillus</i> sp. 1	CNS 400
グラム陽性桿菌 15	<i>Bacillus</i> sp. 7
	Micrococcus sp.3

施術直後から*S.aureus* (MSSA)が検出された。

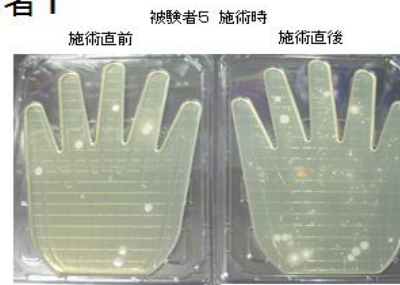
施術者1



施術前	施術後
CNS 1	<i>S.aureus</i> (MSSA) 6
<i>Bacillus</i> sp. 6	CNS 400
	<i>Bacillus</i> sp. 34

施術直後から*S.aureus* (MSSA)が検出された。

施術者1

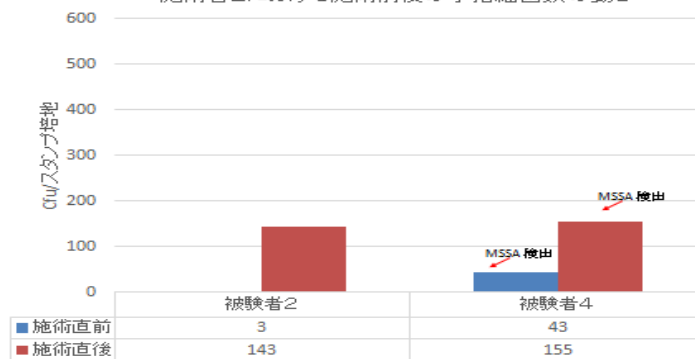


施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. 10	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 10
	CNS 400
	<i>Bacillus</i> sp. 13

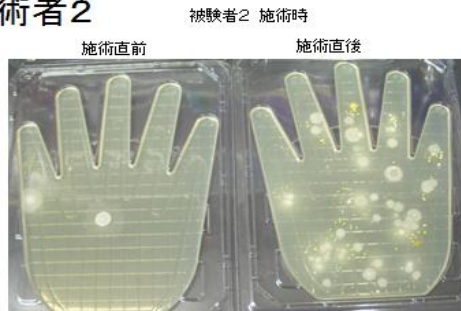
施術直後からMRSAが検出された。

試験日:平成27年12月4日(1回目)

施術者2における施術前後の手指細菌数の動き



施術者2



施術直前	施術直後
<i>Bacillus</i> sp. 3	<i>Bacillus</i> sp. 42
	CNS 28
	Micrococcus sp. 72
	グラム陽性桿菌 1

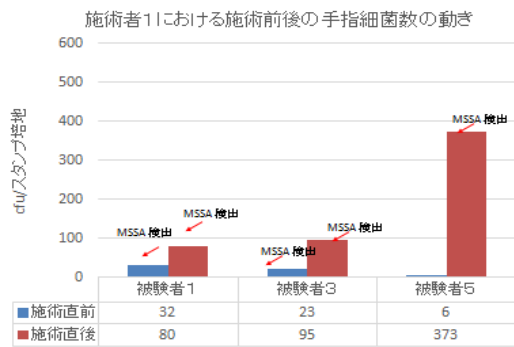
施術者2



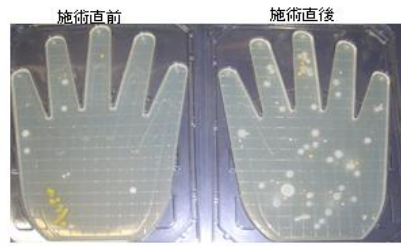
施術前	施術後
<i>S.aureus</i> (MSSA) 6	<i>S.aureus</i> (MSSA) 1
CNS 28	Micrococcus sp. 50
	CNS 50
	<i>Bacillus</i> sp. 55

施術前後から*S.aureus* (MSSA)が検出された。

試験日：平成27年12月18日(2回目)



施術者1 被験者1 施術時(2回目)



施術前	施術後
Bacillus sp. 5	<i>S.aureus (MSSA)</i> 11
グラム陽性桿菌19	CNS 13
<i>S.aureus(MSSA)</i> 1	Bacillus sp. 43
CNS 2	

施術直前、直後から*S.aureus*が検出された。

施術者1 被験者3 施術時(2回目)

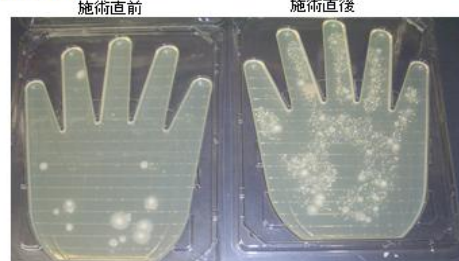


施術前	施術後
Bacillus sp. 7	<i>S.aureus (MSSA)</i> 10
<i>S.aureus(MSSA)</i> 5	CNS 45
CNS 11	Bacillus sp. 38
	グラム陽性桿菌2

cfu/スタンプ培地

施術直前、直後から*S.aureus (MSSA)*が検出された。

施術者1 被験者5 施術時(2回目)

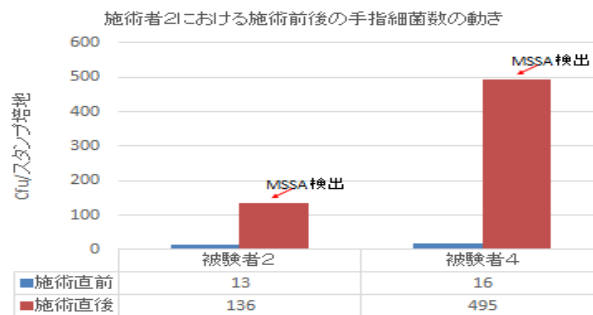


施術前	施術後
Bacillus sp. 5	<i>S.aureus(MSSA)</i> 45
CNS 1	CNS 290
	Bacillus sp. 38

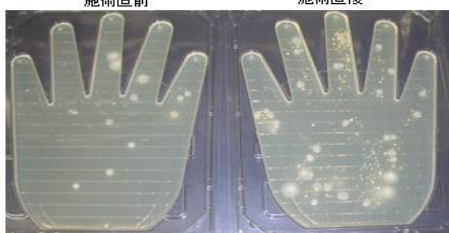
cfu/スタンプ培地

施術直後より*S.aureus(MSSA)*が検出された。

試験日：平成27年12月18日(2回目)



施術者2 被験者2 施術時(2回目)

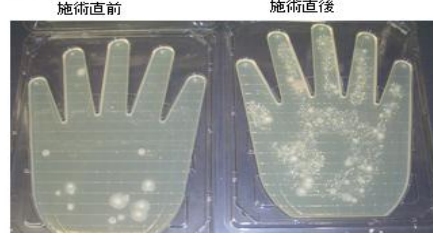


施術前	施術後
Bacillus sp. 11	<i>S.aureus(MSSA)</i> 33
グラム陽性桿菌19	CNS 70
	Bacillus sp. 33

cfu/スタンプ培地

施術後から*S.aureus(MSSA)*が検出された。

施術者2 被験者4 施術時(2回目)

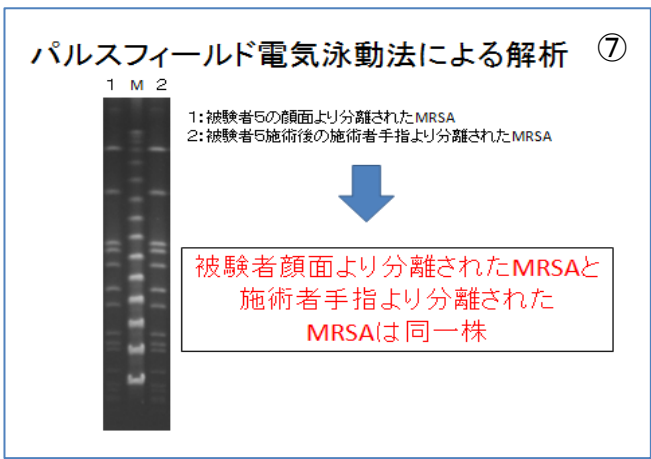
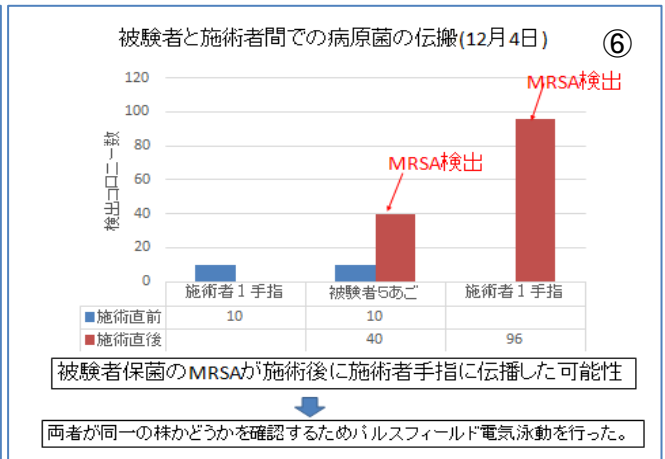
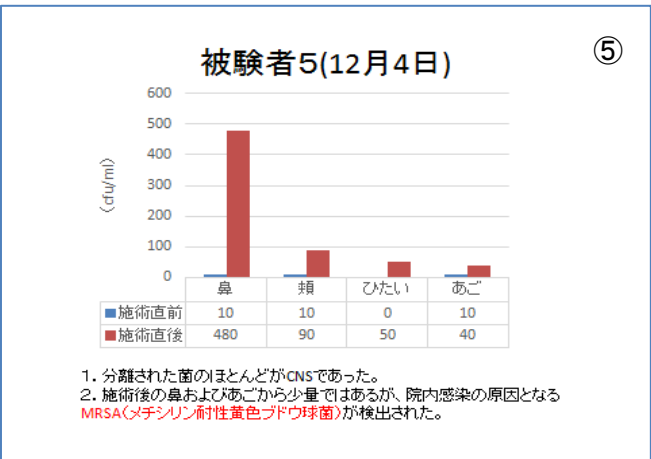
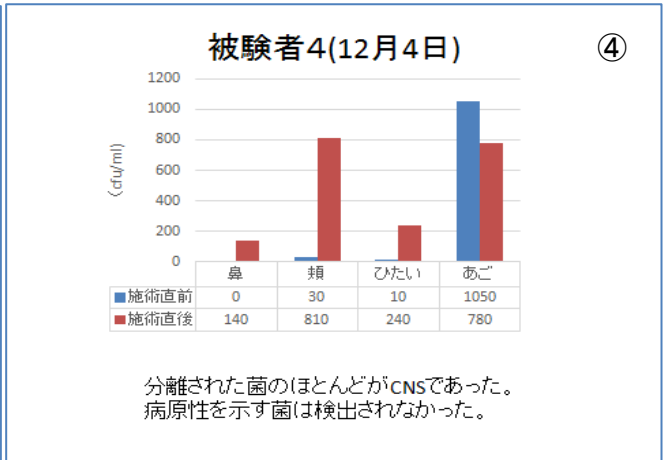
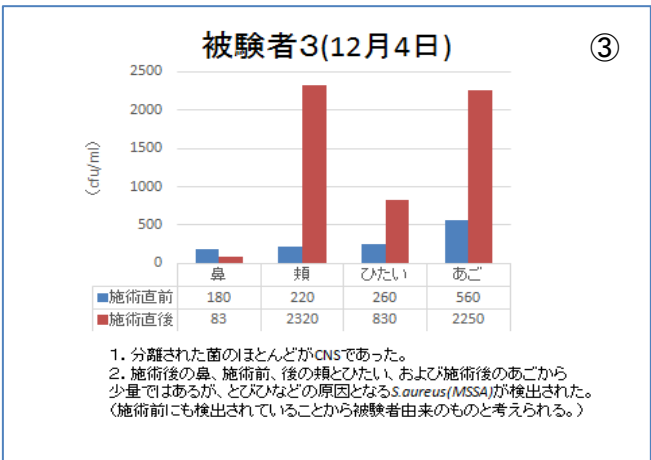
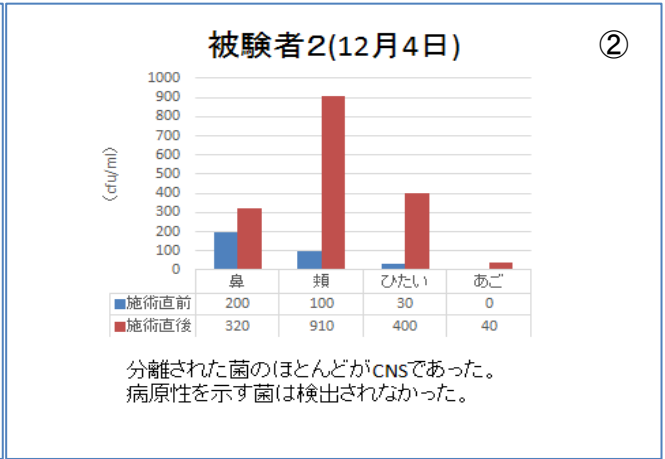
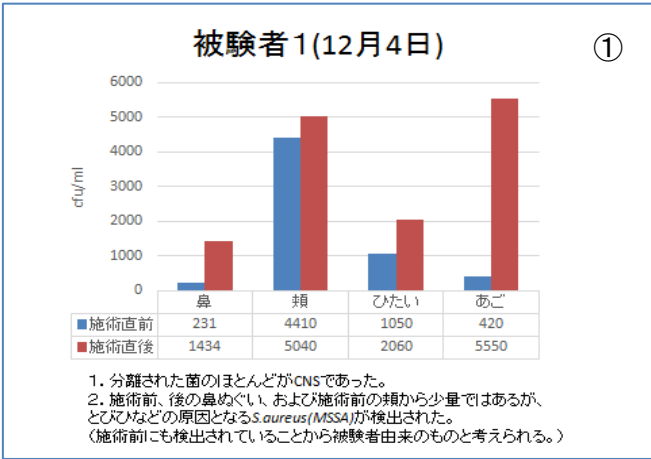


施術前	施術後
Bacillus sp. 14	<i>S.aureus(MSSA)</i> 150
グラム陽性桿菌1	CNS 300
	Bacillus sp. 45

cfu/スタンプ培地

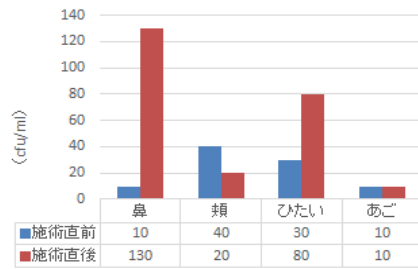
施術後から*S.aureus(MSSA)*が検出された。

被験者の顔面皮膚の細菌検査



被験者1(12月18日)

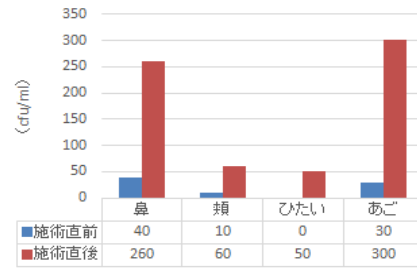
①



1. 分離された菌のほとんどがCNSであった。
2. 施術前、後の鼻、施術後の頬とひたいから少量ではあるが、とてびなどの原因となる*S.aureus*(MSSA)が検出された。
(施術前にも検出されていることから被験者由来のものと考えられる。)

被験者2(12月18日)

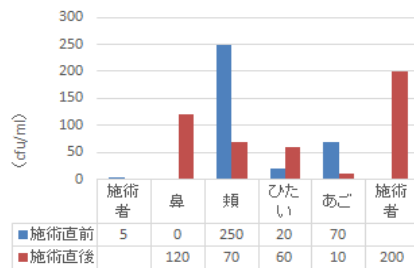
②



- 分離された菌のほとんどがCNSであった。
病原性を示す菌は検出されなかった。

被験者3(12月18日)

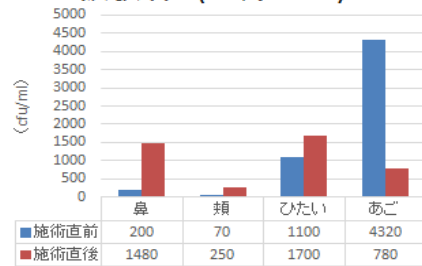
③



1. 分離された菌のほとんどがCNSであった。
2. 施術前のあごから少量ではあるが、とてびなどの原因となる*S.aureus*(MSSA)が検出された。
(施術前にも検出されていることから被験者由来のものと考えられる。)

被験者4(12月18日)

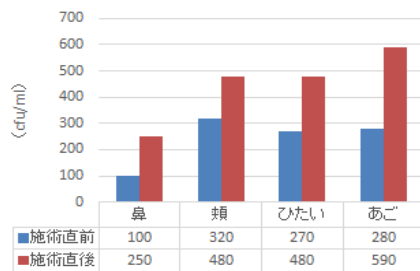
④



- 分離された菌のほとんどがCNSであった。
病原性を示す菌は検出されなかった。

被験者5(12月18日)

⑤



- 分離された菌のほとんどがCNSであった。
病原性を示す菌は検出されなかった。



施術者の手指細菌調査結果

技術者の熟練度高

10月19日

施術者1



施術前	施術後	cfu/スタンブ培地
0	CNS \geq 400 <i>Bacillus</i> sp. 50	

施術直後から*S.aureus*が検出された。

技術者の熟練度低

10月19日

施術者2

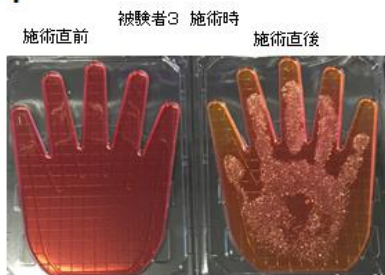


施術前	施術後	cfu/スタンブ培地
CNS 50 <i>S.aureus</i> 15 Micrococcus	CNS \geq 400 <i>S.aureus</i> >50 Micrococcus	

施術前後から*S.aureus*が検出された。

10月19日

施術者1



施術前	施術後	cfu/スタンブ培地
0	CNS \geq 400 <i>Bacillus</i> sp. \geq 100	

10月19日

施術者2



施術前	施術後	cfu/スタンブ培地
<i>S.aureus</i> 5 CNS	Micrococcus sp. CNS \geq 100 <i>Bacillus</i> sp.	

施術前から*S.aureus*が検出された。

11月9日

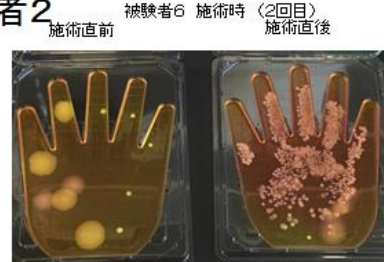
施術者1



施術前	施術後
CNS 54 Micrococcus 24 <i>Bacillus</i> sp. 6	CNS 54 <i>Bacillus</i> sp. 78

11月9日

施術者2



施術前	施術後	cfu/スタンブ培地
<i>Bacillus</i> sp. 7 Micrococcus 5	CNS 100 Micrococcus 10 <i>Bacillus</i> sp. \geq 100	

施術者の手指細菌調査結果

技術者の熟練度高

11月9日

施術者1

被験者7 施術時 (2回目)
施術直前 施術直後



施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. ≥ 100	<i>Bacillus</i> sp. 76
CNS ≥ 100	CNS 15
Micrococcus	

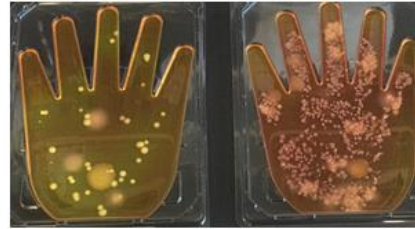
cfu/スタンブ培地

技術者の熟練度低

11月9日

施術者2

被験者8 施術時 (2回目)
施術直前 施術直後



施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. 4	<i>Bacillus</i> sp. ≥ 100
Micrococcus 30	Micrococcus 15
CNS 10	CNS 30

cfu/スタンブ培地

12月14日

施術者1

被験者11 施術時 (3回目)
施術直前 施術直後



施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. 3	<i>S.aureus</i> 15
CNS 18	CNS ≥ 100
	<i>Bacillus</i> sp. 15

cfu/スタンブ培地

施術後から*S.aureus*が検出された。

12月14日

施術者2

被験者9 施術時 (3回目)
施術直前 施術直後



施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. 14	<i>S.aureus</i> ≥ 50 (MRSA含)
CNS 20	CNS ≥ 300
<i>S.aureus</i> 20	<i>Bacillus</i> sp. 25

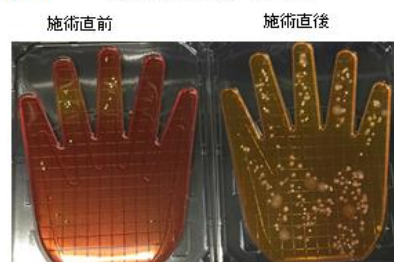
cfu/スタンブ培地

施術前後から*S.aureus*が検出された。
施術後劇に分離された*S.aureus*はMRSAが含まれていた。

12月14日

施術者1

被験者12 施術時 (3回目)
施術直前 施術直後



施術前	施術後
CNS 15	CNS 90
Micrococcus	Micrococcus
	<i>Bacillus</i> sp. 20

cfu/スタンブ培地

12月14日

施術者2

被験者10 施術時 (3回目)
施術直前 施術直後



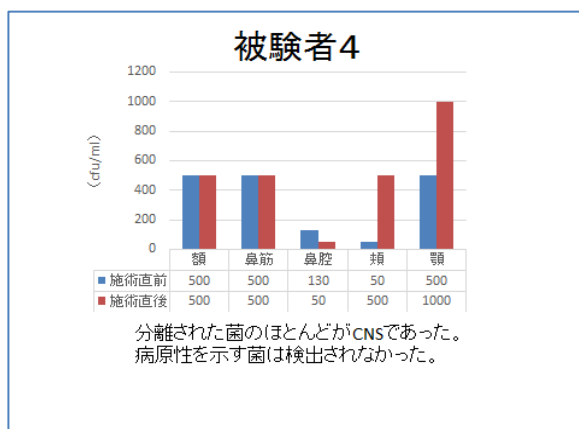
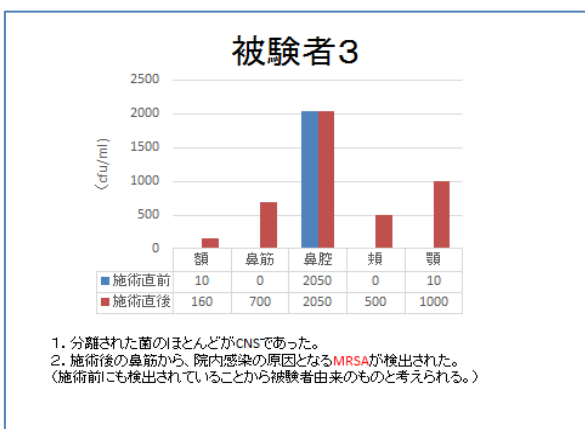
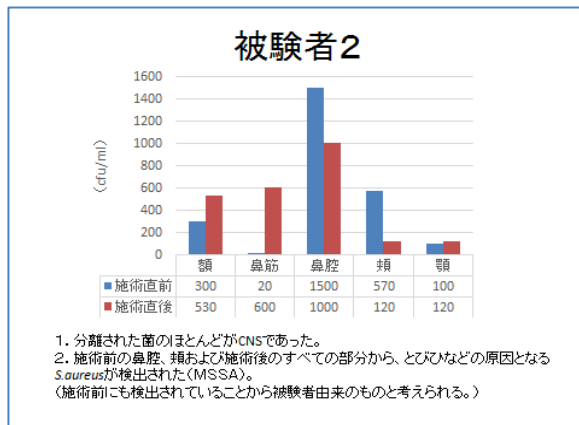
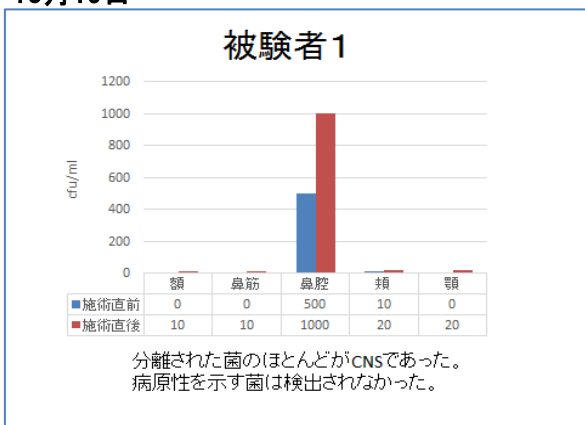
施術前	施術後
<i>Bacillus</i> sp. 1	<i>S.aureus</i> 50
CNS 1	CNS 100
	<i>Bacillus</i> sp. 25

cfu/スタンブ培地

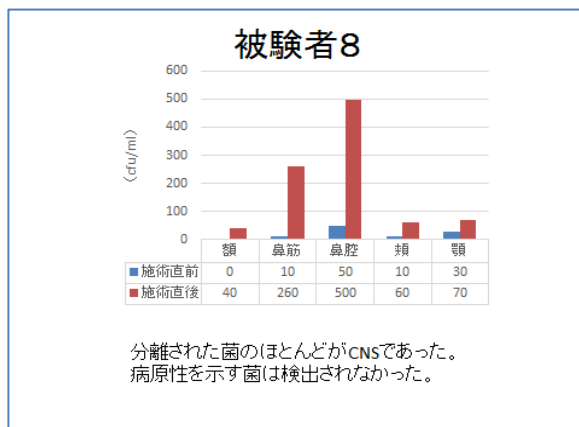
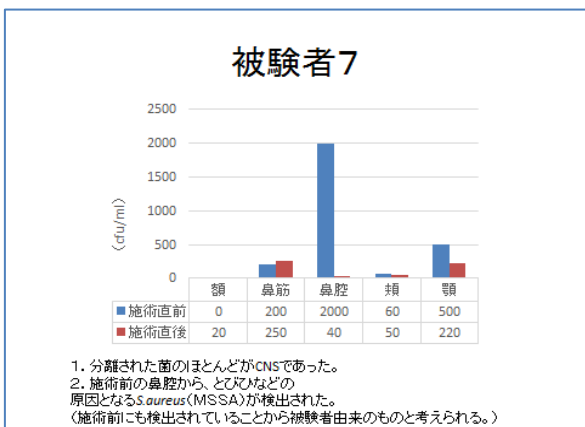
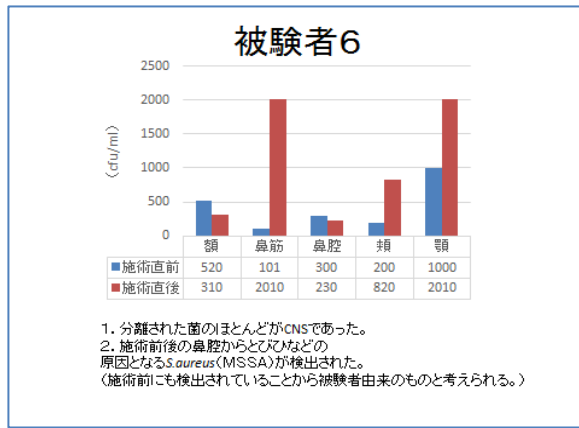
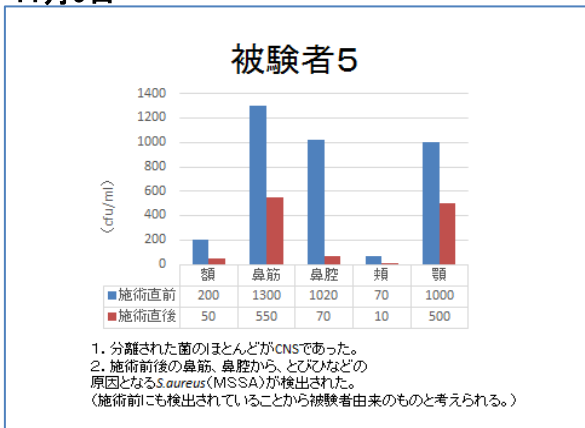
施術後から*S.aureus*が検出された。

フェイシャルスキンケアの皮膚に対する影響実験 被験者の顔面皮膚の細菌検査結果

10月19日

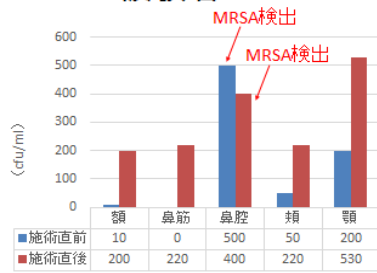


11月9日



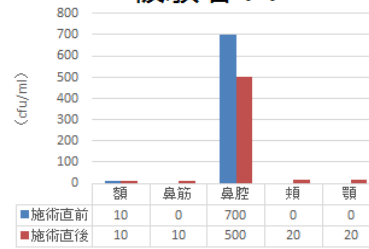
12月13日

被験者12



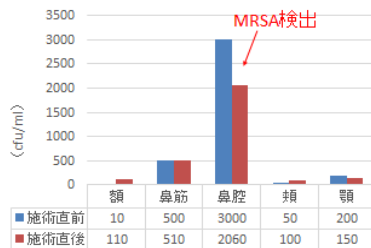
1. 分離された菌のほとんどがCNSであった。
2. 施術前後の鼻腔から、院内感染の原因となるMRSAが検出された。(施術前にも検出されていることから被験者由来のものと考えられる。)

被験者11



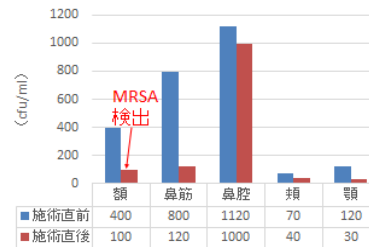
- 施術前後の鼻腔からとび菌などの原因となるS.aureus(MSSA)が検出された。(施術前にも検出されていることから被験者由来のものと考えられる。)

被験者10



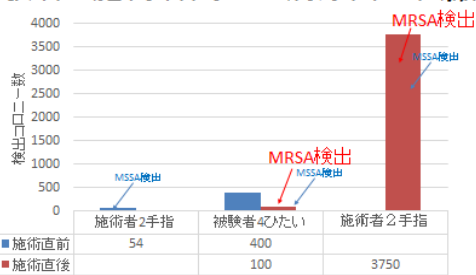
1. 分離された菌のほとんどがCNSであった。
2. 施術後の鼻腔から院内感染の原因となるMRSAが検出された。

被験者9



1. 分離された菌のほとんどがCNSであった。
2. 施術後の鼻筋、頬、顎よりMSSAが検出された。また施術後の額から院内感染の原因となるMRSAが検出された。

被験者と施術者間での病原菌の伝搬



1. 施術者保菌のMSSAが施術後に被験者へ伝播した可能性が示唆された。
2. 被験者保菌のMRSAが施術後に施術者手指に伝播した可能性が示唆された。

被験者と施術者間での耐性菌の伝搬

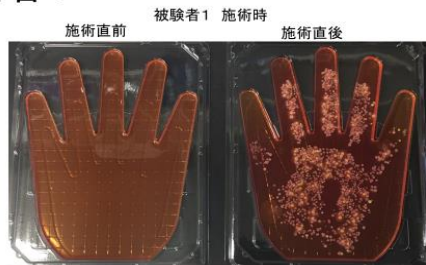


施術者の手指細菌調査結果

技術者の熟練度高

11月22日

施術者1

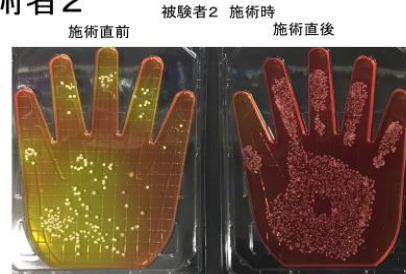


施術前	施術後	cfu/スタンプ培地
発育なし	CNS 2 1 8 MSSA 7 8 マイクロコッカス	

技術者の熟練度低

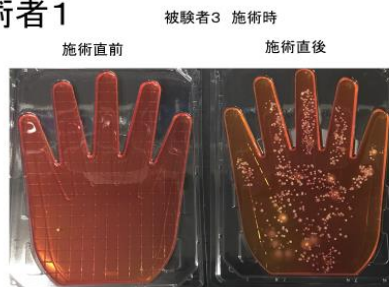
11月22日

施術者2



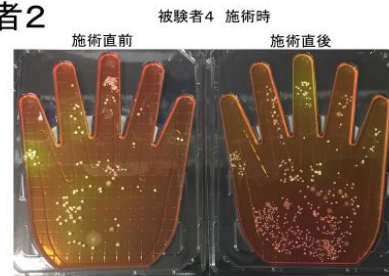
施術前	施術後	cfu/スタンプ培地
CNS130	CNS530	

施術者1



施術前	施術後	cfu/スタンプ培地
CNS 1	S.aureus 72 CNS 258	

施術者2



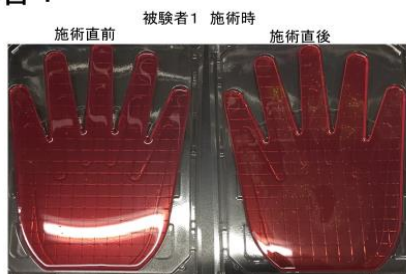
施術前	施術後	cfu/スタンプ培地
CNS97	CNS220	

施術者の手指細菌調査結果

技術者の熟練度高

12月13日

施術者1



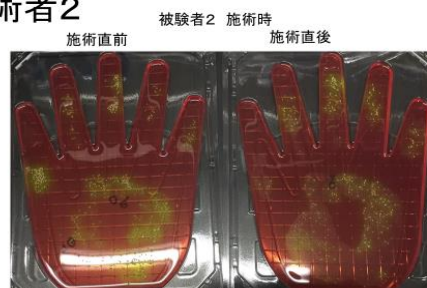
施術前	施術後
発育なし	CNS 179

cfu/スタンプ培地

技術者の熟練度低

12月13日

施術者2



施術前	施術後
CNS 282	CNS 165

cfu/スタンプ培地

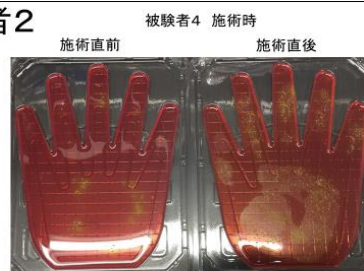
施術者1



施術前	施術後
CNS 6	CNS > 990
グラム陽性桿菌 5	

cfu/スタンプ培地

施術者2

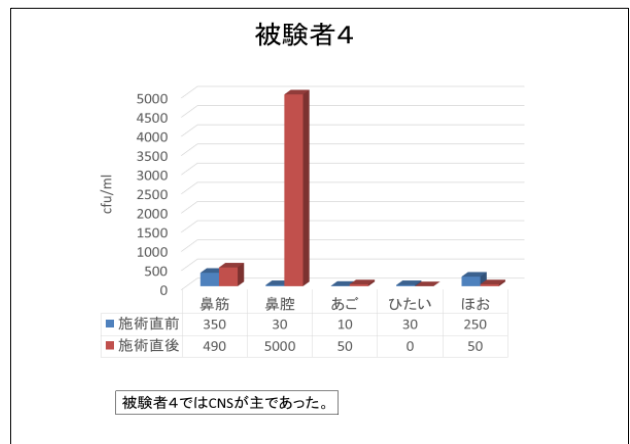
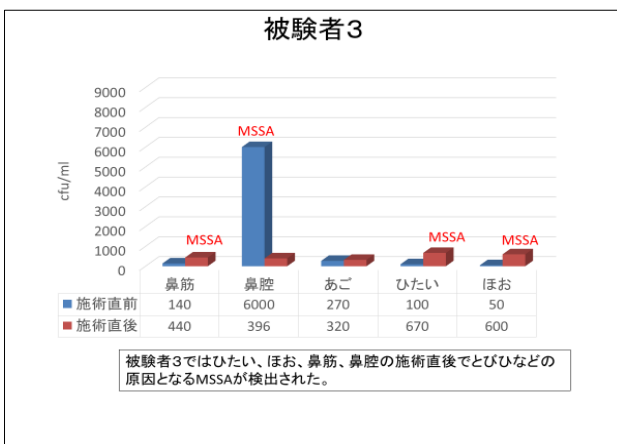
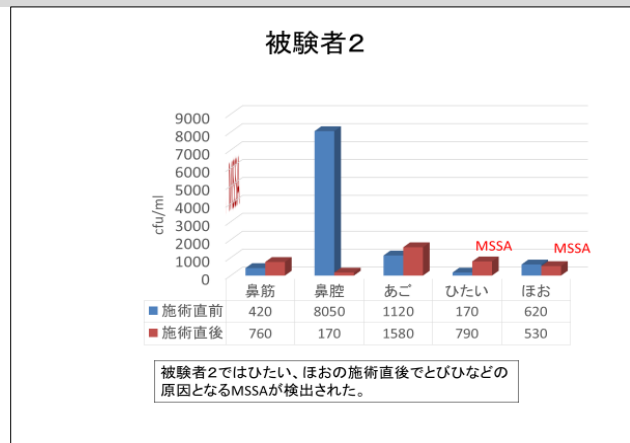
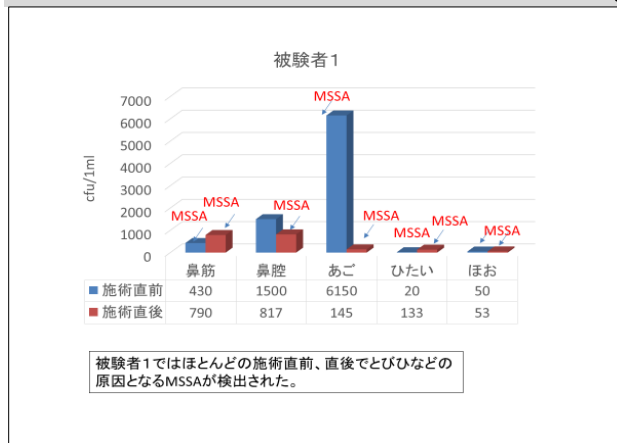


施術前	施術後
CNS 62	CNS 460

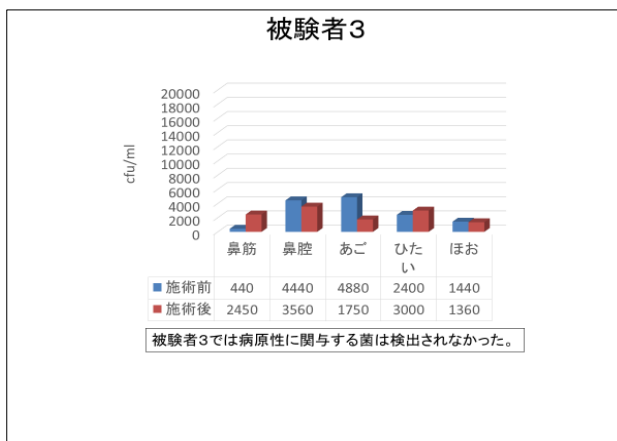
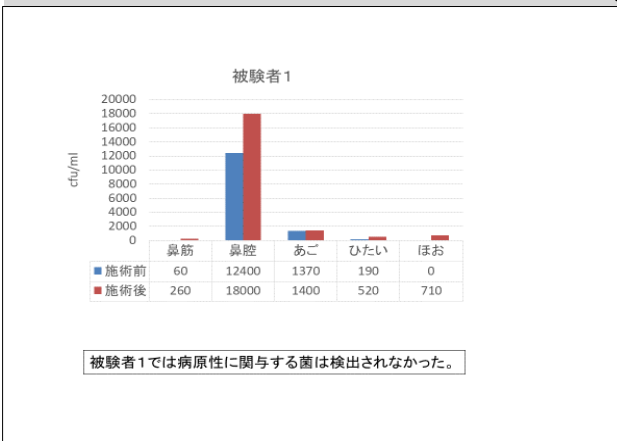
cfu/スタンプ培地

被験者の顔面皮膚の細菌検査結果

11月22日

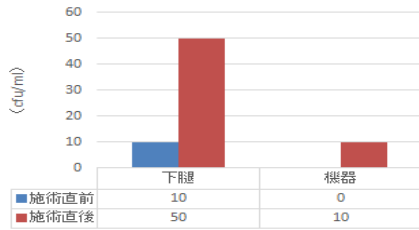


12月13日



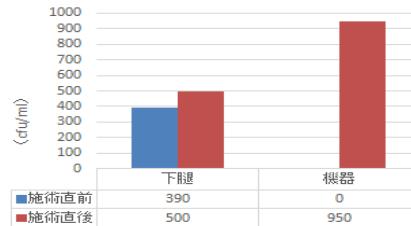
ヒートマットで施術した際の被験者から機器への細菌類の伝播

被験者 1 (12月4日)



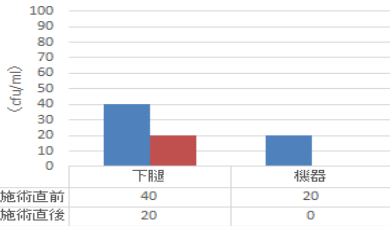
【下腿】施術前には糸状菌が、施術後にはCNSが検出されがいずれも少量であった。
【機器】施術後に糸状菌が検出されたがいずれも少量であった。

被験者 2 (12月4日)



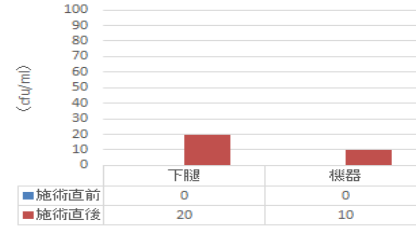
【下腿】施術前および施術後に腸内に生息するグラム陰性桿菌とおもわれる菌が検出された。そのまわりの皮膚に常在するCNSなどが検出された。
【機器】施術後にCNSおよびグラム陰性桿菌が検出された。
上記の結果より下腿からの菌が施術後に機器表面に付着したと考えられる。

被験者 3 (12月4日)



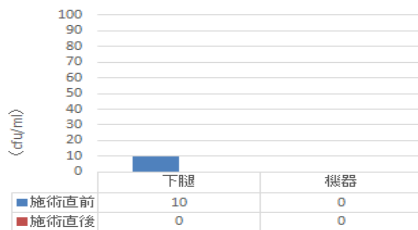
【下腿】施術前および施術後に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。
【機器】施術前に環境中に存在するグラム陽性桿菌が検出されたがいずれも少量であった。

被験者 4 (12月4日)



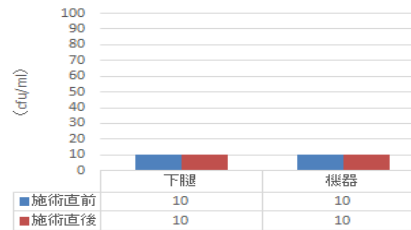
【下腿および機器】施術後に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。

被験者 5 (12月4日)



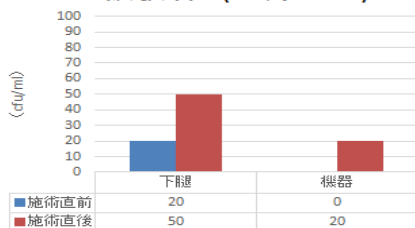
【下腿】施術前に、皮膚に常在するCNSが検出されたがいずれも少量であった。
【機器】検出なし。

被験者 1 (12月18日)



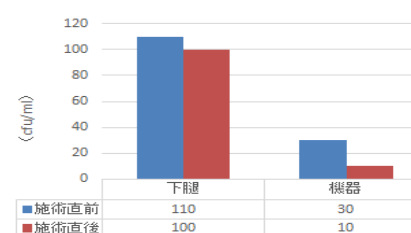
【下腿】施術前および施術後に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。
【機器】施術前および施術後に環境中に存在するグラム陽性桿菌が検出されたがいずれも少量であった。

被験者 2 (12月18日)



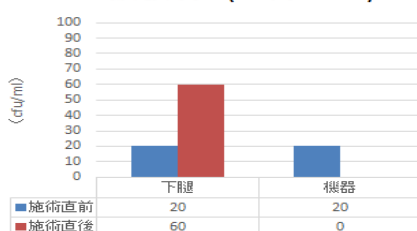
【下腿】施術前および施術後に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。
【機器】施術後に皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。

被験者 3 (12月18日)



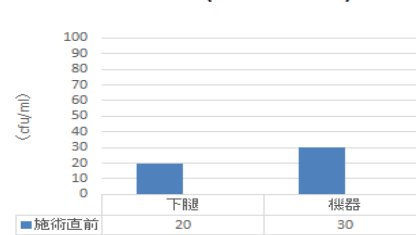
【下腿】施術前および施術後に腸内に生息するグラム陰性桿菌とおもわれる菌が検出された。そのまわりの皮膚に常在するCNSなどが検出されたが少量であった。
【機器】施術前および施術後にCNSが検出されたが少量であった。

被験者 4 (12月18日)



【下腿】施術前および施術後に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。
【機器】施術前に皮膚に常在するCNSなどが検出されたがいずれも少量であった。

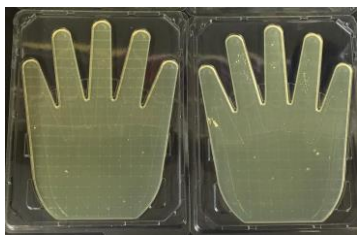
被験者 5 (12月18日)



【下腿】施術前に、皮膚に常在するCNSなどが検出されたが施術後にはみられなかった。
【機器】施術前に環境中に存在するグラム陽性桿菌が検出されたが施術後にはみられなかった。

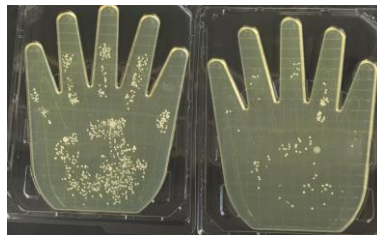


エステティシャン 看護師 手洗い比較試験結果
ハンドソープのみ(エステティシャン)



エステティシャン 1

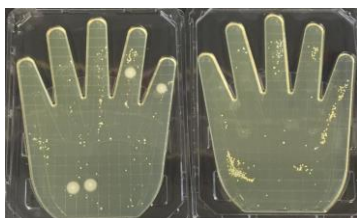
手洗い前	手洗い後
13	30



エステティシャン 2

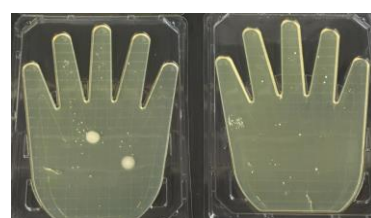
手洗い前	手洗い後
254	55

cfu/スタンプ培地



エステティシャン 3

手洗い前	手洗い後
55	100



エステティシャン 4

手洗い前	手洗い後
23	27

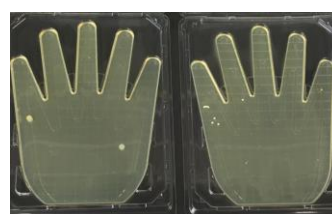
cfu/スタンプ培地

ハンドソープのみ(看護師)



看護師 1

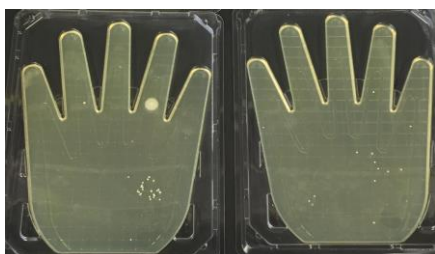
手洗い前	手洗い後
23	14



看護師 2

手洗い前	手洗い後
6	9

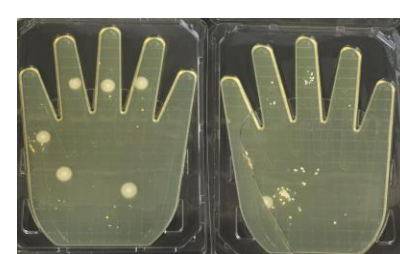
cfu/スタンプ培地



看護師 3

手洗い前	手洗い後
24	12

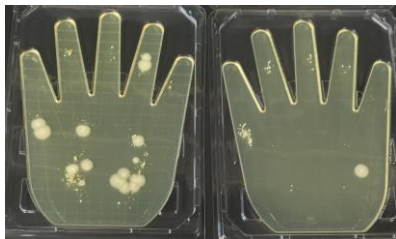
看護師 4



手洗い前	手洗い後
33	37

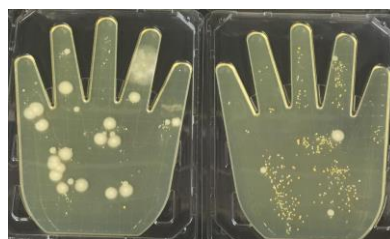
cfu/スタンプ培地

ハンドソープ+手指消毒剤(エステティシャン)



エステティシャン 5

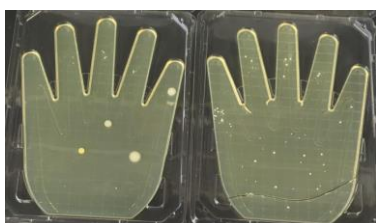
手洗い前	手洗い後
105	35



エステティシャン 6

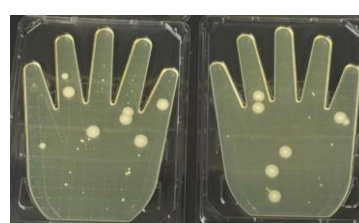
手洗い前	手洗い後
215	200

cfu/スタンプ培地



エステティシャン 7

手洗い前	手洗い後
12	35

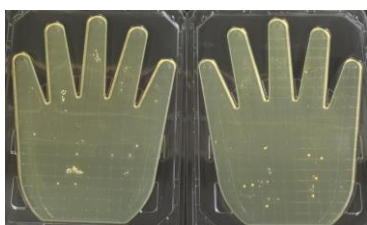


エステティシャン 8

手洗い前	手洗い後
30	16

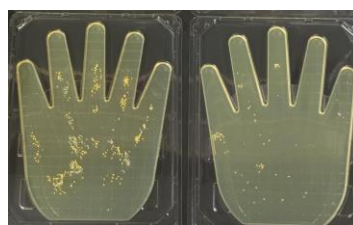
cfu/スタンプ培地

ハンドソープ+手指消毒剤(看護師)



看護師 5

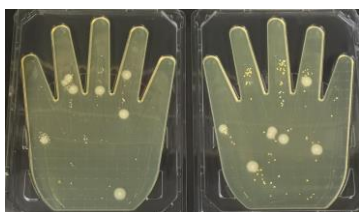
手洗い前	手洗い後
60	37



看護師 6

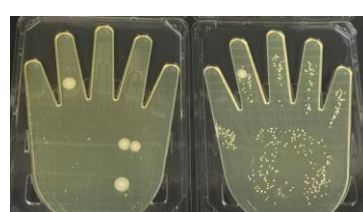
手洗い前	手洗い後
456	35

cfu/スタンプ培地



看護師 7

手洗い前	手洗い後
95	55



看護師 8

手洗い前	手洗い後
17	156

cfu/スタンプ培地

手洗い方法啓発ツールに関するアンケート調査結果

良かった点

目で見てすぐわかる点が、教育にとっても助かります。言葉だけでは伝わらないこともあるので活用させて頂きます。6件	通信では、衛生管理の時間が十分に取れないため、流しなどに貼り、実践することが出来る。	手洗いの手順、速乾性消毒剤の図がとても分かりやすい。30件
基本ですが、わかりやすい内容でよかったです。3件	手洗いの手順においても、図での説明もあり生徒への指導がしっかりと出来た。3件	手洗い前と手洗い後の細菌、施術前後の細菌の様子がわかりやすい。2件
写真で視覚的に分かる為、手洗いの重要性が伝えやすい。また、手順も一緒に確認できるため使いやすい。24件	イラストで書かれているので学生にはわかりやすいと思います。衛生に対する意識は日々の指導も重要なことだと思っています。	手順がわかりやすくすぐに実践できる点 施術により伝播される写真が教科書にはない物なのでエステにおいてリアリティがあり非常に良いと思います。
・手洗いの前後、施術の前後で手に付着している細菌量の違いが写真を見るだけで明確であり、手洗いの重要性を伝達しやすい点が良い。	・手洗いによる乾燥手荒れが気になります。(特に冬)・手洗いによる時間が別途必要なこと・手洗いは肌から肌へ細菌、ばい菌感染を防ぐためには必要と思	授業では、テキストに沿って説明していますが、写真で見ることによりインパクトがあり説得力もあると思います。
生徒もあの写真を見てびっくりし、手洗いの必要性を感じられました。	感染を防ぐためには必要不可欠、施術者の身を守るためにも重要である。	現場や学びの場でも手洗い場に設置することにより、より意識が高まった。
美容業界(エステ)に勤める人として、衛生管理は大切なことで、今後継続していけることが「手洗い」としてとても良いと感じた。	単に手の洗い方を伝えるのではなく、手を洗う事で何が変わるのか見てわかるものとしてとても良いと思います。	生徒たちが実際のイメージが付きやすく、衛生管理の重要性としてのインパクトがしっかりついたようです。実技の跡など実践していけるようになりました。
・ラミネートしていただいているので、洗面台の目の前に貼付することが出来ます。7件	早速授業内で活用させて頂きました。写真なので分かりやすい所が良い点です。	手洗いの場所に掲示したところ、念入りに手を洗う学生が増えたと思う。
衛生管理への意識が高まり、手洗いの必要性を感じてもらった。イラストがわかりやすく、写真で危険なことがわかりとても良いです。	日常の手洗い方法を改めて確認する良い機会となった。スクーリング教室に貼って活用しています。水が飛んでも大丈夫なラミネートが良かった。	洗面所に置くことで意識をすることが出来る。
習慣づけられるところは良い	学生が手洗いに興味を持ってくれました。	細かい注意点が改めて気づけるため、良かったと思います。
		施術前後のインパクト

悪かった点

小さすぎるのでA3位にしてあれば洗面に貼っておける。12件	サイズが大きいものもあると良いと思いました。2件	繰り返しの手洗いでは、手荒れ、乾燥の原因となる。
施術前後の写真が3枚使用されているが、なぜ3パターン必要なのか不明。写真についての説明が不足している。(ボディ施術前後、フェイシャル施術前後など)	写真や絵が乗っているため見やすいですが、同じような写真が複数あるため、同じような写真は1枚で十分であると感じました。	手洗い前後の図は手洗いの重要性が伝わり良いのですが、施術前後で細菌が増えるように見える図は生徒にとってエステティックのマイナスイメージになりました。
テキストには載っているが、手の汚れやすい部分が記されている図も欲しかった。	手洗いさえすれば問題ないと勘違いしてしまう事は良くない。	もう少し細菌類の写真がインパクトのある写真だと思いました。
「手洗い手順」と「速乾性手指消毒剤による手順」のバックが白の為少し見にくいように感じました。	「細菌類は伝播される」の写真は3名の手なのか時系列なのか分かりにくい。	手を洗う際 いつも目に入るわけではないので常日頃意識させる工夫が必要 図が見えづらい
洗い方がわかりやすい。手洗いしなければどれだけ危険かが伝わりにくい。	・下の3パターンの写真の違いが分かりにくい。	施術後の写真が細菌類なのか、粧材が残ったままだけかわかりにくい。
施術前後の写真の説明が少なく分かりづらい。	細菌繁殖のシャーレの画像は分かりにくい。	目立ちにくい。手洗い消毒の手順がわかりづらい。2件
インパクトがない為、素通りする学生も多かったです。	手順など小さくてわかりにくい為もう少しコマを減らしてほしい。	施術後の写真は、細菌が増えるということなのか。
細菌の伝播の写真が多い。	細かい所がわかりづらい	

その他

「施術により細菌類は伝播される！」の3つの症例は、ボディ？フェイシャル？どこの施術をした前後か分かれると良いと思います	基本的な衛生管理なので「うがい」も加えて、大切なことだと思う。	大きいサイズのポスターもあれば活用します。
施術前後の細菌伝播の比較ですが、どこの部位を施術した後の伝播の状態なのか知りたいです。	エステティックサービスは、お客様の肌、身体の皮膚に直接接触れることで、手洗い消毒は大変重要です。普段行っていた手洗いでは、細菌はほとんど洗い流されていないことがよく分ります。菌をサロン内に持ち込まない、又自宅に持ち帰らない。という事を徹底したいと思います。	洗う回数や目安の時間表記を入れて頂きたい。
写真で理解しやすい フィルムがされており保管がしやすい。(汚れない)サイズ違いのものがあれば良い。	今回、手洗いの仕方を貼りだすことしかできなかった。	実際行わなかった場合のこわさがわかるツール等があればなお良いと思います。

改善点(大きさについて)

手洗いの手順のイラストが小さく、みづらい。細菌の写真を裏面にしてイラストを大きくし見やすくして頂きたい。	手洗い、消毒の手順の部分がもう少し大きいと分かりやすいと思います。(授業に実践する部分なので)7件	手順表を大きくし、手洗いの時に図を見ながら洗う事が出来るように手洗い場に掲示できるようにすると良いと思う。
手順の文字が小さいので、壁に貼った時には読みにくかったです。4件	分かりやすいが、小さすぎるのでA3位にしてあれば洗面に貼っておける。6件	手洗い手順の図示や字が小さい為見にくい。デザインが少し古く感じる。
写真のデータは分かりにくい為絵の手順を大きくした方が良いと思います。	大きくしてほしい A3サイズくらい 挿絵等や施術前後でこんなに違うんだよというアピールもあればよい。	実習教室の洗面所に貼っていたのですが、少し小さくてみづらいので、掲示用のものとして大きいものがあればいいと思います
下部の写真はなくし図を大きくした方が良いのでは。	図が小さいので掲示するにはもう少し大きい方がよい。	説明文を簡潔にして文字を大きくする。
手洗いの手順等、もう少し大きいと見やすいとなお良かった。	イラストは出来ればもう少し大きいともっといいと思います。	手洗い手順の図がもう少し大きいと見やすい。消毒剤の手順と別にすると良いと思う。

改善点

速乾性手指消毒剤による手順では、2の工程だともう片方の指先の消毒が難しいかと思いました。	速乾性消毒剤使用時には、手指が濡れていない状態で使用(消毒)した方が良いのでは？	文字が小さく見えない方もいるのでもう少し大きくしても良い。手洗い前の菌の状態の写真の説明が欲しい。例 白は菌です
写真と実際 人の皮膚で例を出すと、さらに理解しやすいと思	施術前後の写真を一組にして大きく見せる。	カラーのイラスト入り一覧表、誰が見ても分かりやすいもの
施術により細菌類は伝播されるの施術前、施術後の3例の説明があるといいと思います。(細菌の種類など詳しく分るとイメージがしやすいのかなと思います。)	施術前と後の写真はとても分かりやすいですが、上段の「手洗い前」の写真が、施術後で、手洗い前だと理解するのに少し時間がかかりました。分りやすく表記して頂けるとありがたいです。	(手洗い手順⑩)校内ではコスト削減の為、ペーパータオルを常備することが難しい。また、蛇口がひねるタイプの為これを変更することも難しい。
手順等カラーだとよりわかりやすいかもしれません。	イラストがもう少し見やすいと良い。	施術により細菌は伝播されるのをのせない方がいい
手洗い後の写真は、手洗いと消毒剤使用後によるものなのか分かりにくい。	テキストには載っているが、手の汚れやすい部分が記されている図も欲しかった。	伝播の意味が生徒に理解しにくいのでは？もっとわかりやすく表現した方が良いのでは？
「施術により細菌類は伝播される」の写真は3枚無くても良いと思う。その分のスペースは、手順の図を大きくするなどしてもらえると使いやすい。	「手洗い手順」「速乾性手指消毒剤による手順」のバックの色を「衛生管理ハンドブック」の様にカラー色を付けて頂いた方が見やすいかと思ひますし、A3サイズが見やすくして望ましいかと思	手洗い手順⑩で「ペーパータオルか肘を使いましょう」とあるが、肘は洗っていないので汚い手の状態ではないのか。手指洗浄は、「指先からひじまで」ではなく「指先から手首上まで」の範囲

施術やお客様にどのような影響があるかも併せて記載してあると良い。	目を見た時に「手を洗わなければ細菌がすごく汚い」と思う様な写真を使用するとういと思いま	施術前後で菌が何%除去されるか記入有れば伝わりやすいと思います。
仕方ないのかもしれませんが、色味が悪い気がします。	細菌を白ではなくカラーで表した方がわかりやすい。	もう少しカラー感があっても良いと思う。
立体的に色彩良くしてほしい。	明るさがもう少し欲しいです。	色使い
主にこの菌はどのような菌でどのような病気に感染してしまうかなど具体的内容を入れて頂くとありがたいと思う。	手順をIPに大きく、菌の写真は裏面でいいのではないでしょう。菌の写真は菌がピンク色や青などで分かりやすくしてほしい。	「施術により細菌類は伝播される!」の写真は3つの例としてなのか時系列なのかを分かりやすく表示した方が良い。
細菌の繁殖により、皮膚や身体への具体的なトラブル例が記載されたいのでは。	キャッチコピーなどで、目を引くようにすればサロンのお客様にも好感を得ると思う。	施術によって伝播される菌の名前を挙げて頂いた方が、より意識が高まるような気がします。
ツールとしてポスターの他に、簡単に読めるリーフレット等もあればよいと思います。	菌の繁殖写真より、手順を目立たせた方が良い。A4サイズより小さい方が使用しやすい	「衛生管理は手洗いから」のキャッチフレーズをもう少し目を引く言葉にするとインパクトがあ
爪の間の汚れを取る為にネイルブラシの使用を加えて欲しいと思います。⑨の流水で洗い流す際は、細菌を洗い流すために手首から指先方向へ水を流していく方が良いのでは?と思いました。(医療機関ではそうしている	現在も掲示板に貼っているのですが、紙質が薄い為か角がめくれ上がりやすいです。下敷き位のものか、パウチでいただけると直有りがたいです。	今回の検査内容は当学院長と生徒が参加していましたのでわかっていたと思いますが、知らない学校や協会の方々にはもう少し説明があった方が良いと思いました。
手洗いの手順等、もう少し大きいと見えやすくなおよかった。	施術直後の手の衛生についても教えて頂きたい。	施術前後で比較写真があるが、解説が欲しい。
ブラックライト照射による手洗い前後の画像の方が見やすいように考える。医療従事者レベルの手洗い手法であることをPRした方が良い。	施術後の細菌類が何によるものなのか、施術後ということは同様にお客様の肌もトリートメント後にも関わらず細菌だらけなのか誤解されやすい。	絵はカラーの方が伝わると思えます。また、写真は、手洗い→手洗い後(施術前→施術後)の3枚の比較が良いと思います。
細菌繁殖の経過時間やどんな施術を行った後なのか、どんな菌なのか等記載されているともっとわかりやすい。	「施術により細菌類は伝播される」の下に載っている写真について、詳しい説明文があると理解しやすいのではないかと感じ	実際手洗いを丁寧に行わなかった場合の恐ろしさがわかる(イメージしやすい)ものがあると良いと考えます。
写真は一例で良いのでは。図(手洗い)をもっと見やすく少し離れても見えた方が良い。	イラストが少し小さいかもしれません。数の変化もわかるとういかもしれません。	見やすいと思いますが、手洗い前と後施術後の変化があるとうもっとわかりやすいと思います。
「施術により細菌類は伝播される」という項目は写真は1枚にし、手の洗い方の図等もう少し大きめにし頂けるとより見や	細菌類の伝播の写真が、どのくらい時間数や日数で増えるのか書いてあるとっとわかりやすいのではないかと感じました。	目につきやすく、インパクトのある分かりやすいもので作成してもらえると良いと思います。
どの様な菌がどのように増えるのかなど具体的に分かれたいと思いました。	シンプルによりわかりやすいものにしてはどうか。	手順などの簡略

困っていること

衛生管理を徹底しているサロンが少ないので、実習で現場に入って生徒から驚きの声と矛盾点を指摘される。	学校で衛生管理指導を徹底しても学生がサロン現場へ行くと(就職すると)実践されていない現状が多くある。(特に掃除、器具類の消毒において)	手洗いはしっかりやれても、お客様にはいる際に他のどこかに触れていたり粧材のボトルなども同様に拭き取りを徹底するなど細かい点が難しいです。
消毒液希釈方法での計算式がわかりやすく困っております。	手洗いは生徒自身に任せることが多く、しっかり確認できていない指導したことが、サロンの現場で実践できているのか、ケーススタディが伝わっているのか、疑問に思う事があります。	手洗い習慣を細かくつけていかなければ、手洗いをしない人も
準備時の手洗いは必須として行うが、施術後の手指衛生はどうしたら良いのでしょうか?		ヒビテン液が小売店で購入できない。

あったら便利なツール類

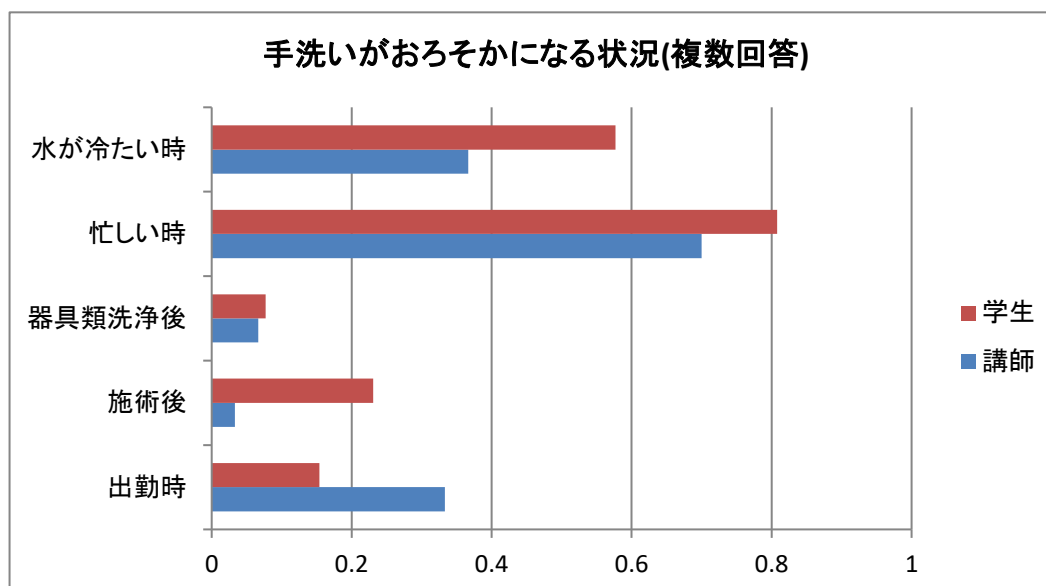
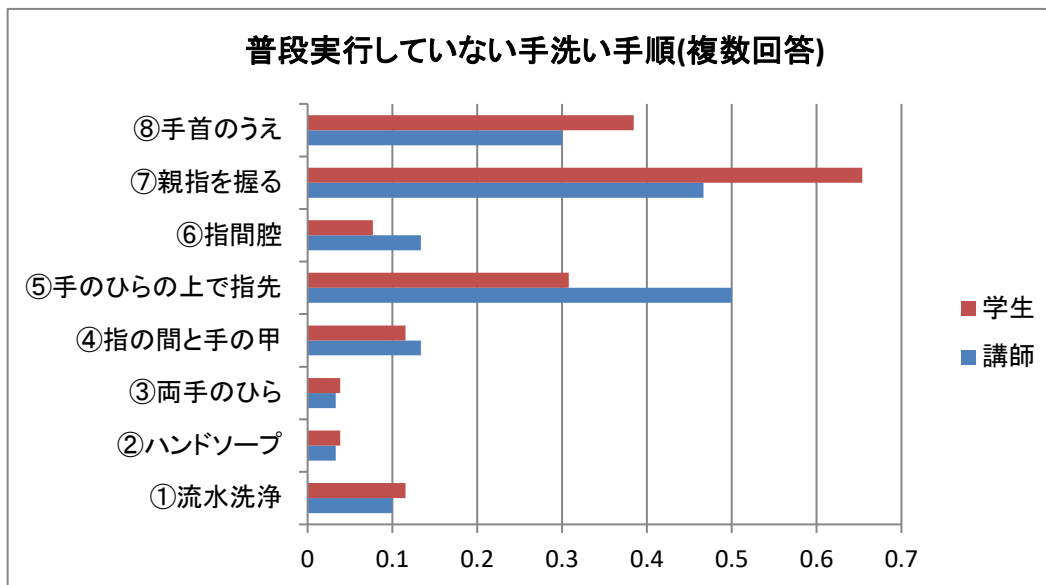
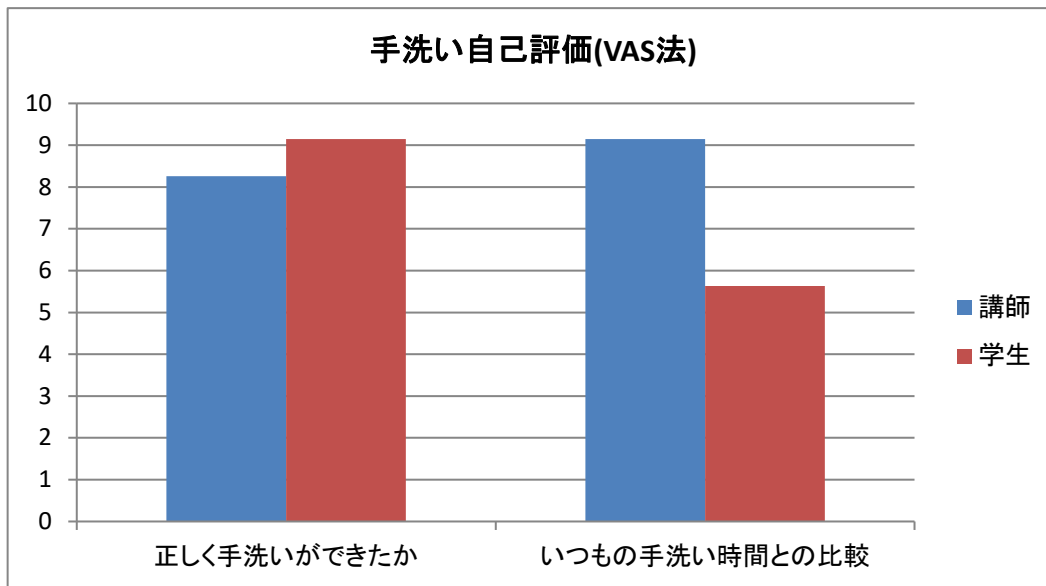
感染症に関する資料が少ない為、例となる写真があると良い。	前後写真はあれば大変ありがたいです。	写真、実際に起こった事故の例など。
感染症に関するポスター(掲示用のものでサイズが大きい物) DVDは授業で流せるので便利。	消毒していない器具などを使い続けることで起こるトラブル、写真など(例 カビがはえた 肌トラブルが起きた)	衛生管理が徹底されなかったとき、具体的にどのようなクレームや問題が起き、どのような処分が下されたかなどわかるDVD等
感染症に関する解説DVD2件	主な感染症の症状の写真やDVD	専門家による感染症に関する解説DVD
商材別用 何の消毒剤を使用する等の一覧表をパウチしたもの シンク等に貼れるといい	消毒をいい加減にしてしまうとうなるのか?危機管理意識を持ち指導したいと思います。	エステサロン現場で実際の感染症の事例や実践方法などを詳しくしてほしい。
教科書の単元、文字の色や大きさを工夫して欲しい。	分かりやすい手洗い前後の細菌繁殖状況の写真。	皮膚疾患、感染症等のDVDがあれば授業で使用したいと思
手洗い後の細菌繁殖状況を確認できるものがあると良い。例えば何かに通すとよければOKが出る。どれだけ洗えて内科が目に見えて確認できるもの等	手洗い前後の菌の減少を確認する紫外線照射器について。専用液が不要、見た目が金属的でなく女性らしい(ネイルのUVライトのような物)形状のものが良	テキストには消毒に使用する機器の説明文のみなので、写真やイラストなどでどんなものか分かりやすく説明できるものがあると良いと思います。
手洗いだけでなく、雑巾についても細菌類の伝播の資料 清掃用具に対する認識が学校側も弱いと思う。	専門家によるDVD・・・実際のサロン内のどのような所で細菌が増え、また、それによって起こりえるトラブルを詳しくまとめたも	今回の資料だけでも生徒は驚いていましたので、実際の手の菌などのDVDなどがありますと更にインパクトがあると感じまし
サロン内で感染させる恐れのある一般的な感染症・症状など DVDで見られると分かりやすい	必要以上に恐怖感だけを植え付けてもいけませんので、今回のツール程度でいいと思いまし	常時掲示できる学生向け、アニメなどの興味を引くものなどがあれば利用したいと思います。
衛生管理を怠るとどのようなことが起こるのかの事例がわかるも	細菌繁殖状況のわかりやすい写真があるといいと思います。	手洗い前後の細菌繁殖状況のリアルな写真と菌の種類など
原因となる病原菌と症状などのDVD	ウッドランプの様に手をかざすと細菌がわかるものがあつたら便	パワーポイントなどで目で見てわかる資料が欲しい。
解説DVDがあると便利だと思います。	感染症と症状の一覧になったテキスト(写真)など	手洗いを含む、消毒の前後の資料(比較)
皮膚や血液を介して感染し、発症した例(画像)など	感染症、細菌繁殖状況などのDVD、写真	感染症の実例があればわかりやすいと思う
希釈濃度表	感染症の症状の写真	感染症に関する解説DVD
感染症・消毒方法についてのDVDがあると指導しやすいと思	手洗い前後の細菌繁殖状況の写真等	サロンワークにおける衛生管理の実践のDVDや写真
専門家による感染症に関する解説DVD、消毒方、消毒手順DVD	菌の侵入ルートがわかるようなアニメorイラスト	病原微生物の感染した絵があればわかりやすいです。
手洗い前後の状況の違いがDVDで分かると良いかと思えます。	身近な具体例をイラストで分かりやすくしたリーフレット。	手洗い前後の細菌繁殖状況の写真
著名な専門家による解説ツールだと目に留まりやすいと思いま	専門家からの他人事と思えないような感染症のこわさ等の解説	小さめのガイド(ハンド)ブック、財団推奨の手洗いソープの販促
施術前後の細菌繁殖状況の写真に、もう少し詳しい解説を入れて欲しい。提示されている写真だと、手洗いで注意しなければいけない箇所(指間 指先 爪の間)の状態が不明。	生活の中での菌の比較などが出来ると分かりやすいと思う。例えば髪の毛の菌と便座の菌の数、どちらが多い?とか(女子はよく髪を触る為比較してみるとふれなくなった。)	上記のDVD・写真などは、印象に残り、サロンで必要に思われない場合でも発言できる子に成長できると思います。
消毒商品の使い方 感染症に関する解説DVD	感染症の症状の写真・図などがあつたら説明しやすい。	施術前後、手洗い前後の細菌繁殖状況の写真
専門家による感染症に関する解説DVD 手洗い前後の細菌繁殖状況の写真とアプリなど	参考資料に若い女性の白癬などの足の写真など判断できるものがあるといいです。	ウイルス、バクテリア、真菌等のわかりやすい写真や、それらによる皮膚トラブル等の写真があると便利です。
「手洗いの手順」の図を拡大した掲示用ポスターなど	手洗い前後の細菌繁殖状況の写真	テキストや手持ち資料で十分間に合ってます。
様々な病気の感染経路をイメージさせる写真等	細菌ウイルスの写真や感染のメカニズムがわかるDVDなど	DVDでの説明・・・学校にない消毒機器などの使い方。

感染症についてわかりやすく説明できるDVD, 写真	各消毒薬の市販の物の種類写真 皮膚感染症の症例写真	ウイルスや細菌の画像や皮膚に対しての感染症例などの画像
写真等での消毒の実践方法な	解説DVD 細菌繁殖状況の写	DVD(消毒剤、機器、手洗い方
希釈方法、菌などの具体的な写真、感染症の具体的な写真 DVDだと分かりやすい。	手洗い前後の細菌繁殖状況の写真は、あれば説明しやすいと思います。	感染症例のDVD 身近な例 ノロ O157等の現場での話とか

その他意見

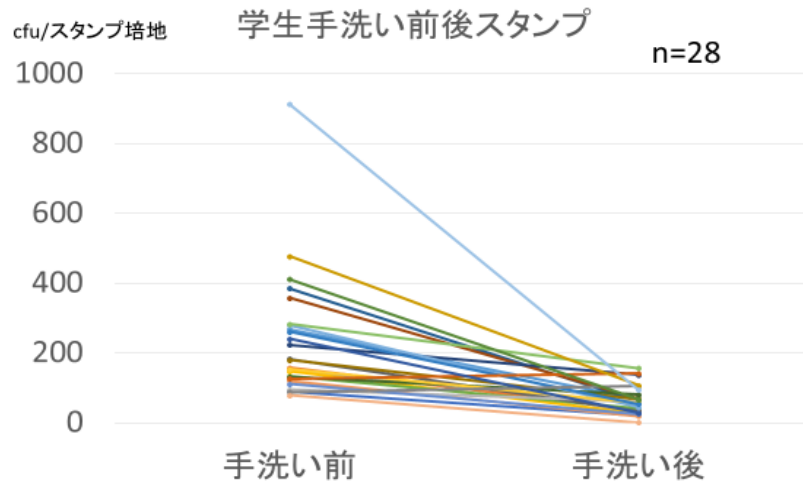
今回いただいたものは、早速使わせていただきます。ありがとうございます。細菌は見えないので今回いただいたツールは、手洗いの必要性を伝えやすくなり	血液感染する感染症のお客様を施術した場合の廃棄処理できない機器類等の消毒方法を明記して頂きたいと思います。(エステティックの衛生基準を見て	校内の何か所かの洗面台には固形石鹸を使用している所がありますが、衛生的に大丈夫でしょうか?
学生に正しい知識を教育しても、サロンで行えてないことが多い為、卒業してからのサロン現場とギャップが生じて困ることがあります。	美容学生にとっては必要なことではあるが、難しい言葉等が多い為なかなかとつきにくいのは事実である。	消毒薬の希釈の計算が苦手な学生が多いです。甘やかすことにはなりますが、早見表のようなものがあれば便利かと思います。
グルコン酸クロールヘキシジン薬剤を以前使用していたが、入手困難です。かわりの薬品はあるでしょうか?	消毒放置時間等もあり、学生が消毒の最初から最後までを授業時間中に担当するのが難しく途中までになってしまう。	衛生管理の講習があれば是非参加したいです。ノロウイルスに対しての消毒手順も入れて頂ければと思っております。
現在 衛生管理上及びネイル衛生管理上の授業を展開し、資格試験も受験させております。	神経質になり過ぎないかが気になり、強く言い切れない。(気にする生徒がいるので)	一般論だけでなく、具体的な注意点の説明(テキスト)があると良いと思います。
衛生管理教育上、技術中の感染(危険度)などを表にしたものなど 資料(詳しい)があるとありがたいと思う。	日常身近なことでありながら徹底度合に差があるので興味を皆が持つようにするにはどうしたら良いでしょうか?	冬季には速乾性消毒スプレーを各部屋に設置してありますが、日常での生活では意識付けが難しいです。
スクールでの授業で衛生管理の必要性をしっかりと伝え、衛生管理者の取得もさせていますが、卒業後就職先のサロンでの衛生管理が全く行われていないことのギャップに悩む声をよく耳にします。	現在の学生、現場スタッフは目で見る形が一番説得力となるように思います。細菌や感染症なども写真等を多く資料として頂けると教育の助けになり、恐怖感から実践に繋がっていくと思います。	スチーマー、ホットキャビ等の加温機器の菌繁殖による臭いが気になるサロンが多い。専用臭気チェッカーを提供するなど、メーカーによるアフターケアや保守管理の強化が必要ではないでしょうか。個人オーナーエステティシャンの方などは、単独で確認するので数値などで確認できると良いのではないのでしょうか?
学校とサロンとの衛生管理の意識の違いを埋めていくことが今後の課題だと思う。(サロンによって衛生・消毒の管理に幅が	学校の授業や試験等衛生管理については、かなり厳しい指導を行っているが、実際サロン内ではどこまで実践されているか	感染症に関するDVD、手洗いの方法等 細菌の繁殖状況等の詳細がわかるDVD等があると便利だと思います。
衛生管理教育をする上での指導要項があれば指導しやすいと思います。	サロンにおける衛生管理に関する事例があると伝えやすいと感じます。	必要性は理解できるが実践(サロン)となると開きがあるので、どこまで落とし込みをしたらよいか
教育向けの講習会を増やしてほしい。	大変ありがたいツールでした。今後ともよろしく願います。	手洗いのための専用キットを併用したのでスムーズに行えまし
試験問題は数種類あるのでしょうか?		

手洗いに関するアンケート調査結果(講師・学生比較)



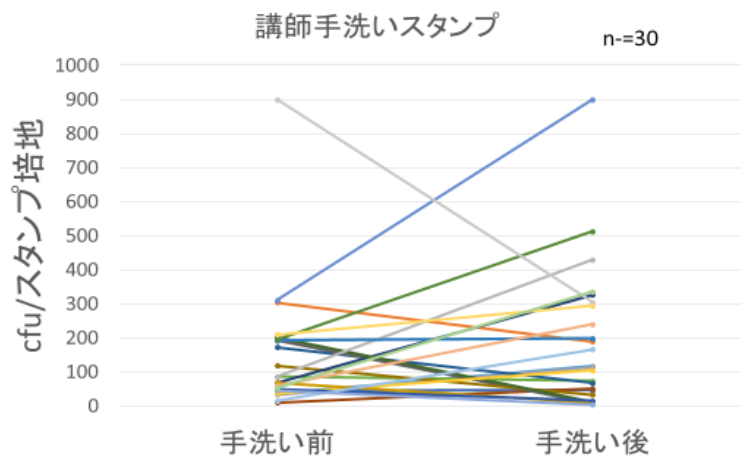
学生及び講師の手洗い実験結果

試験日 12月7日



学生では手洗い後のほうが菌数が少ない傾向にあった。

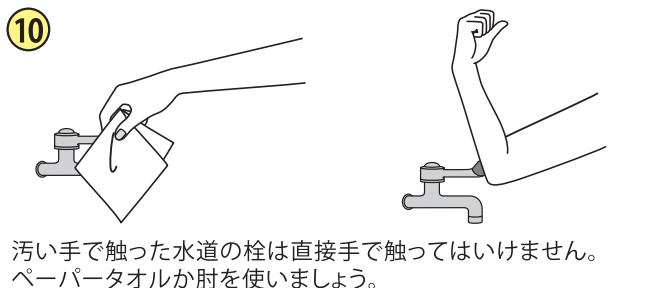
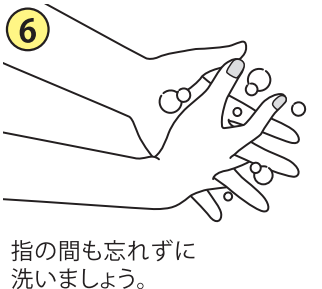
試験日12月14日



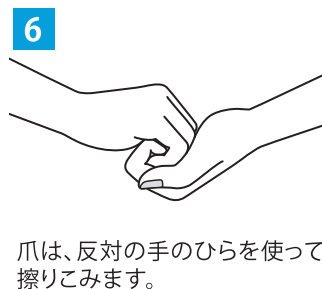
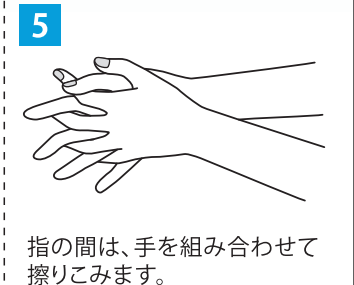
講師では手洗い後の方が菌が多い傾向が見られた。

衛生管理は手洗いから

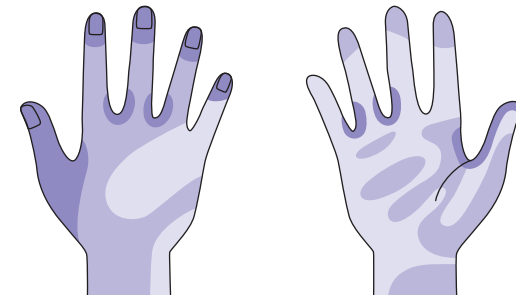
手洗いの手順



速乾性手指消毒剤による手順



手洗いミスの生じやすい部位



- 普通に注意を要する箇所
- 比較的注意を要する箇所
- 最も注意を要する箇所

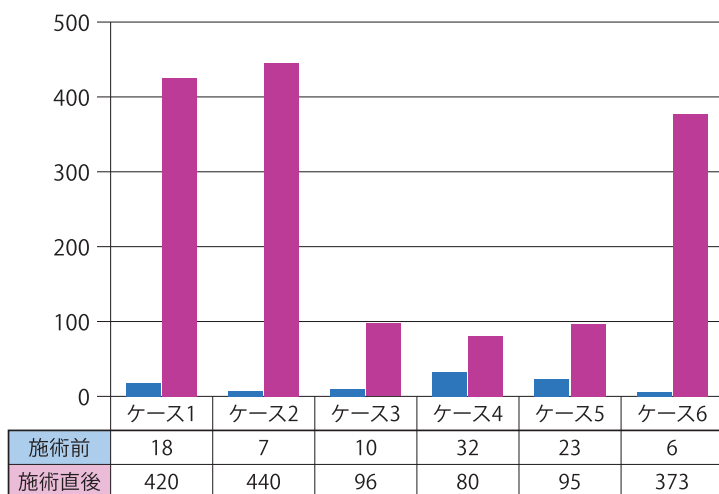
施術後は手を洗おう!

手は、様々なところを触り、さわった場所に存在する細菌類が手に移ります。人間の肌にはもともと表皮に存在する常在菌と直接接触や空中浮遊物がたくさん付着しており、素手で素肌に施術を行うエステティシャンは、お客様の皮膚から手指に細菌類が伝播します。

下記の写真のように施術直後の手にはたくさんの細菌類が付着しています。このまま他の場所を触ると手について細菌類が広がってしまいます。

施術直後は、他の場所を触る前に必ず手を洗うか手指消毒をしましょう。

H27年度 施術前後手指細菌数 (実務経験20年以上)



フェイシャルマッサージ施術前後の細菌数

被験者1 施術時



Cfu/
スタンプ培地

施術前	施術後
0	CSN \geq 400
	<i>Basillus</i> SP.50

施術直後から*S.aureus*が検出された。

被験者3 施術

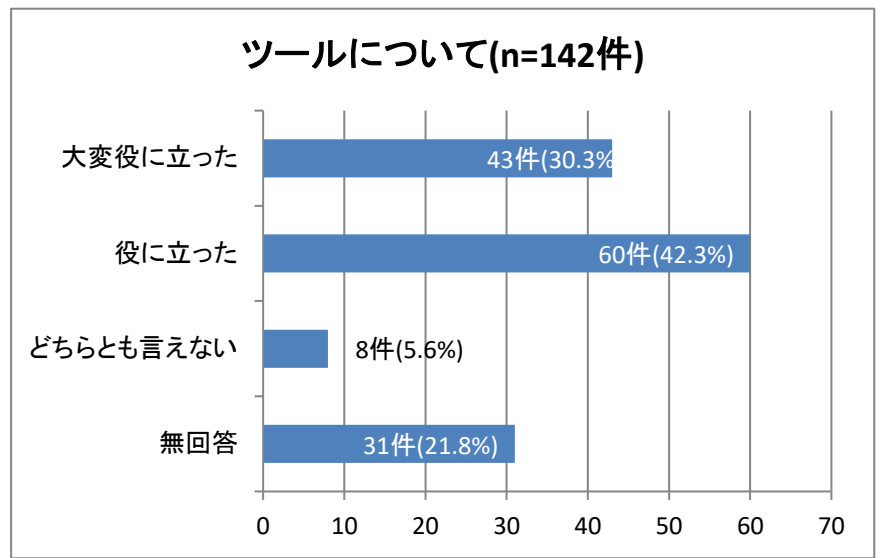
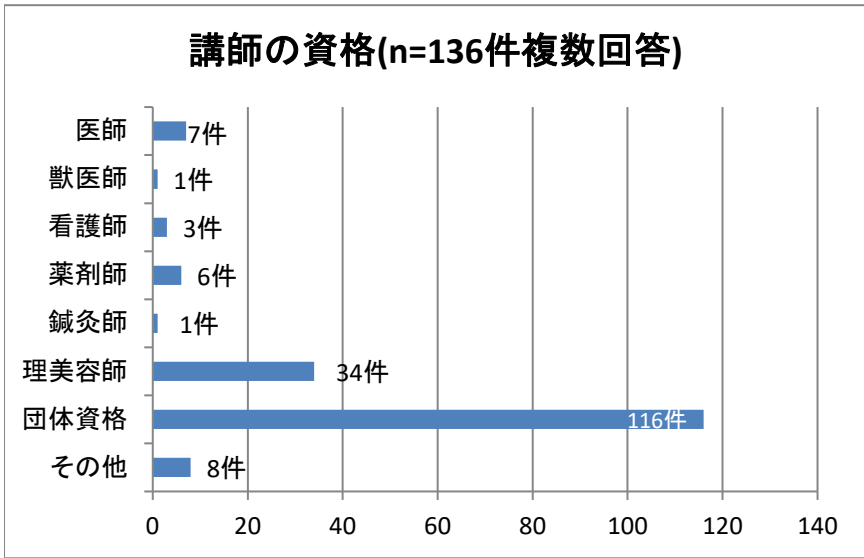
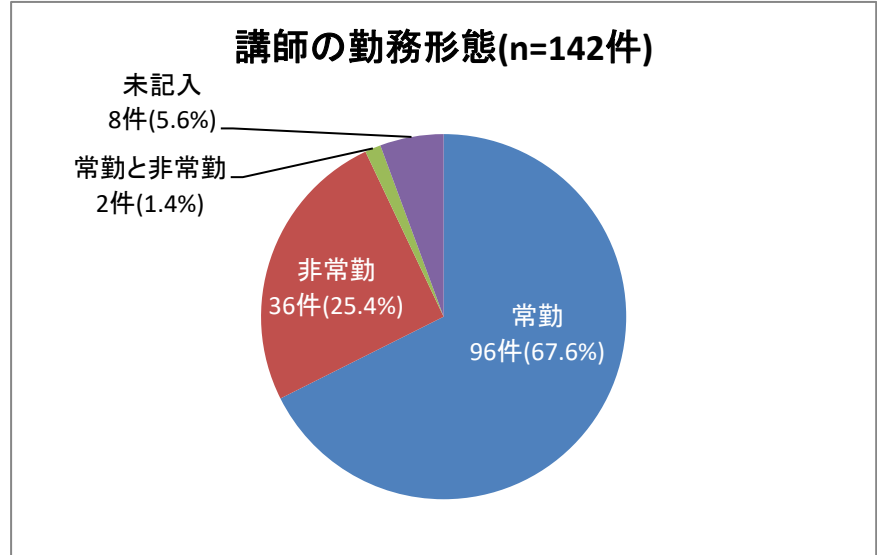
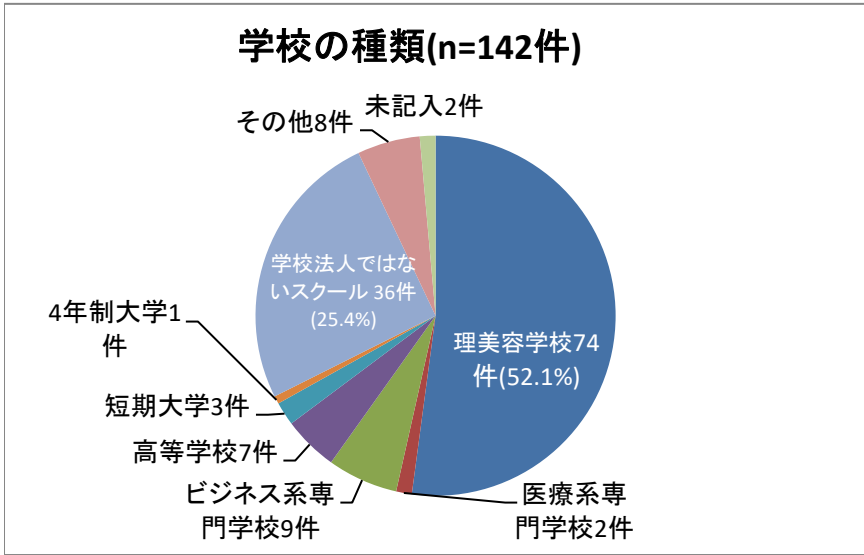


Cfu/
スタンプ培地

施術前	施術後
0	CSN \geq 400
	<i>Basillus</i> SP. \geq 100

エステティック養成施設講師対象 衛生管理教育に関するアンケート調査結果

回収総数 142件



★ 衛生管理教育の問題点(n=142件)

①手洗いを含めた衛生管理の実践がうまくできているかの判断が難しい。	38	26.8%
②衛生基準については、サロン内での役割別に必要な衛生管理が分かるとよい。例)オーナーに必要なこと＝施設の管理、スタッフに必要なこと＝基本的な衛生消毒 など	36	25.4%
③消毒薬や器材が不足していて衛生管理の実践が正しく行えない。例えば、学校では消毒剤1種類につき、1商品しか使用できない。サロンで別の商品が使われることがある。	32	22.5%
④施術の流れの中での衛生消毒が教えにくい。学校とサロンでは環境や設備が異なりケーススタディが伝わりにくい。	32	22.5%
⑤わかりやすい説明がうまくできずテキストの朗読になってしまう。	19	13.4%
⑥生徒の消毒薬による手荒れに悩んでいる	16	11.3%
⑦理論がサロン現場に即していない。サロンの業務の中で、どの場面でどんな衛生消毒が必要なのか分かりにくい。学校では、別途パワーポイントなどわかりやすい資料を作成している。	16	11.3%
⑧何度説明しても理解されないことがある。例えば、掃除のやり方を知らない生徒に、「きちんと掃除をしましょう」と言っても理解されない。	15	10.6%
⑨技術の講師と座学の講師でうまく連携が取れず内容が違ってしまふ。	8	5.6%
⑩生徒からの質問にうまく答えられないことがある。	7	4.9%
⑪その他 ↓	11	7.7%

実際にサロンでは学校ほど消毒管理が徹底されていない。	手荒れした際の対応
学校で消毒や衛生管理を徹底して教えているが、就職先のサロンで徹底できていない現状に衝撃を受け、失望する学生がいる。	就職後 サロンへ行くと消毒が全く行われていなくて生徒が困っている。
手荒れや肌の弱い生徒さんが増えている。	衛生管理資格を取得する為に丸暗記になってしまう。
各個人が徹底できているかの定期チェックが難しい。	リネン類(綿布類)の消毒までは行っていない。洗濯→乾燥のみ
感染症の症例の理解が難しい。	

エステティック営業施設 衛生管理のポイント

エステティック営業施設における衛生管理は、細菌やウイルスなど(細菌類)を外から持ち込まないこと、持ち込まれた細菌類を速やかに除去または退治することです。サロンは、人の出入りが多く細菌類が持ち込まれますので衛生管理(持ち込まれた細菌類を速やかに除去または退治する)が必要です。細菌類は非常に小さく肉眼では確認できませんので、一見きれいに見えても細菌類が検出されることがあります。ですから、清潔そうに見えても決められた手順で行うことが大切です。

●衛生管理の手順や方法を決める

一番簡単な衛生管理は、お客様の皮膚に接するタオルや器具類すべてを使い捨てにすることですが、使用感やコスト面で現実的ではありませんので、一度使用したタオルや器具類はきちんと洗浄し、消毒します。環境面では、手すりやドアノブのような素手でよく触れるところは特にきれいにする必要があります。これらのことを毎日もれなく実行するためには以下の体制を整えることが重要です。

<p>衛生管理責任者を決める</p>	<p>衛生管理責任者の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理が適切に実行されるよう監督する。 ・従業員の健康状態を常に把握し感染症のおそれがあるときは施術を行わせない。 <p>など</p>
<p>衛生管理マニュアルを作成する</p>	<p>衛生管理マニュアルの内容(施設設備や施術内容に応じて作成する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃のタイミングや手順 ・施術室内の管理方法(顧客入れ替わりの際の清掃等) ・使用済みタオルや器具類の保管方法及び洗浄、消毒の方法 ・消毒済みタオルや器具類の保管方法 <p>など</p>
<p>衛生管理チェックシートを作成する</p>	<p>衛生管理チェックシートの内容(毎日の漏れなく実施し、記録するためことを目的に作成する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の健康状態(手指の傷、下痢、発熱等) ・清掃すべき場所(ドアノブなど人が良く触るところ、水回り設備等) ・使用済み器具等の洗浄消毒 <p>など</p>

●清掃

清掃は、サロンを清潔に保つことを目的に行いますが、同時に外から侵入した細菌類の除去にも役立ちます。

<p>★入口・待合室・廊下など</p> <p>ごみを除去し汚れをふき取ります。このとき、ドアノブや手すりなど人が良く触れるところはきれいに拭き取ります。</p>	<p>★施術室・更衣室など</p> <p>ごみを除去し汚れをふき取ります。特にベッド回りの床にこぼれた化粧品などの汚れに注意します。このとき、ドアノブや手すりなど人が良く触れるところはきれいに拭き取ります。ベッドのヘッドレストや機器類のスイッチなどは消毒液で拭き取ります。</p>
<p>★手洗い設備・入浴施設・トイレ</p> <p>ごみを除去し汚れをふき取ります。水まわりは、水滴が落ちやすいのでこまめに拭き取ります。トイレは、細菌類が多くなりがちですので1日数回清掃します。</p>	

●洗淨・消毒

お客様の皮膚に直接触れるものは基本的にお客様一人ずつ洗淨、材質にあった適切な消毒が必要です。洗淨できないものは、エタノールなどで拭き取ります。使用済みのものは、他のお客様の再度使用してしまわないように使用済み専用の容器を用意します。

お客様の皮膚に接する器具類

タオル・機器のアタッチメント・スポンジパフ・洗顔ブラシ・ハケ など

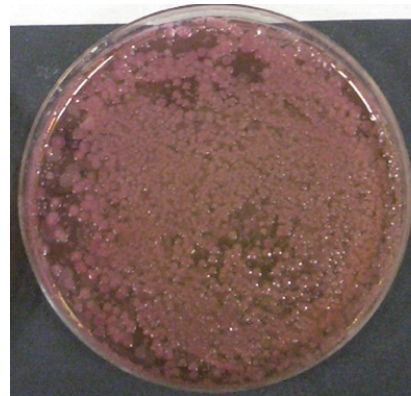
洗淨・消毒の終わった、タオル・器具類は、扉付きの棚又は蓋つきの容器に保管します。

●水回りは細菌類の天国!

サロンの水回りから、細菌類が検出され、それらがサロンの施術室等他の部分に広がっている事例がありました。

原因

細菌類の繁殖は、水分が必要です。水回りを濡れたままにすると細菌類が繁殖します。写真は、水道のハンドル部分ですが、細菌類が繁殖している水回りを手で触ってそのままハンドルを触ったか水回りを掃除した雑巾を消毒しないまま掃除し塗り広げてしまったことが考えられます。



水道のハンドル部分 ふき取り調査

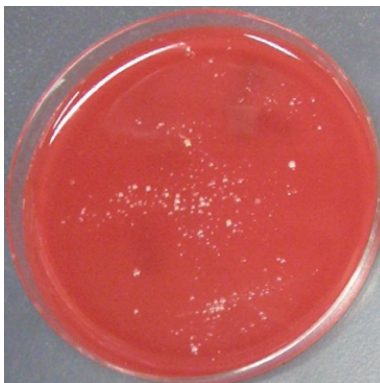


対策

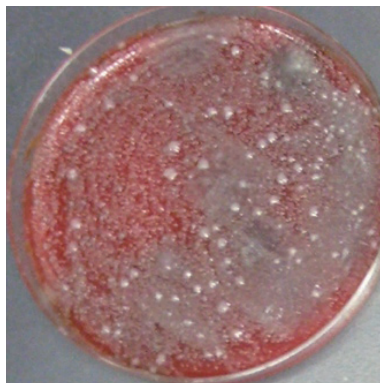
水回りは、水が飛び散りやすく雑巾もしくはペーパータオルを使用し、こまめに水分を拭き取り、乾燥させた状態を維持しましょう。

●使用後の雑巾は消毒、乾燥を!!

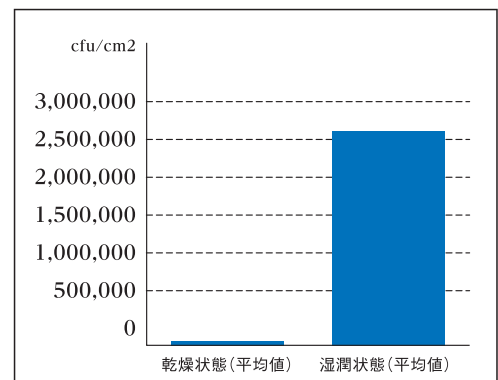
使用後の雑巾は、きちんと消毒乾燥させることが大切です。使ったまま放置した雑巾、特に濡れたままでは、かなりの数の細菌類が繁殖します。翌日そのまま掃除をすると掃除した部分が汚染されます。人工的に細菌を付着させた雑巾では、乾燥状態に比べ濡れたまま放置した雑巾は、細菌数が10,000倍から100,000倍に増えていました。



使用後乾燥させた状態の雑巾



使用後濡れたまま放置した雑巾



人工的に細菌を付着させた雑巾の細菌数

雑巾使用の問題点

- 1) 生地を重ねて縫製されているという構造上、厚みのある雑巾ほど入り込んだ病原体を除去しにくい。
- 2) 病原体を含んだ雑巾は清掃時にバケツなどで十分にすすいでも病原体を除去することができない。
- 3) このことから病原体が増殖している可能性がある乾燥不十分な雑巾を再使用する場合、最初に使用する場所を病原体で汚染してしまうという問題点がある。

(大澤 忠:看護技術2013-12 :59(14) p1522-1524)



改善策

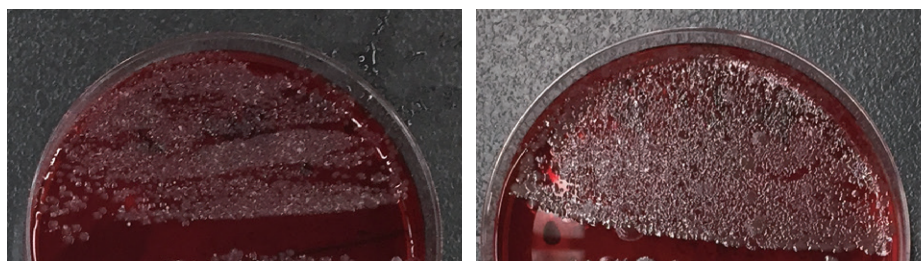
1. 清掃に雑巾を使用することで生じる環境汚染を予防する策
 - 1) 清掃時に雑巾を使い分ける
 - 2) 使用後の雑巾の管理(洗濯・消毒・乾燥)
 - 3) 雑巾を使用せず、単回使用の清掃用品を導入する。(大澤 忠:看護技術2013-12 :59(14) p1522-1524)
2. 使用後洗浄した雑巾をよく乾かすこと、もしくは可能であればディスポーザブルの紙雑巾の使用が望まれる。(米国CDC:ヘルスケア施設の環境感染コントロールガイドライン)

●意外と汚いスチームタオル(ホットタオル)

6施設中5施設より使用前のスチームタオルから多くの細菌が検出されました。同時に検査した保温庫(ホットキャビ等)の内部からは細菌類の検出はありませんでした。



スチームタオルサンプルサイズ



使用前のスチームタオルから検出された細菌類

そのうち高温に耐える芽胞形成菌であるBacillus属の菌が検出された。Bacillus cereusは術後においての傷口感染、敗血症の原因にもなります。

原因

洗浄や乾燥が十分でないことが考えられます。

対策

使い捨てハンドタオルもしくは滅菌後の使用が望ましい。洗濯を行う際は消毒薬を一緒に入れ、洗濯後は速やかに乾燥させるなどで改善されます。

●感染症の発生動向を把握しましょう!

サロンの中で感染症の蔓延を防止するためには、世間で流行している感染症の傾向を把握し、対応策を講じることが必要です。

インフルエンザなど「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」によって届出が義務付けられている感染症は、国立感染症研究所のHP (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>)で確認できます。インフルエンザの地域別流行やノロウイルスの発生状況など注意すべき感染症について常に把握し、準備するようにしましょう。



Ⅱ 研究成果の刊行に関する一覧表